

令和5年度

# まちづくり懇談会 記録誌



作画：中嶋 舞  
元・地域おこし協力隊  
(平成 29 年～令和元年)

令和6年2月  
入善町

# 《 目 次 》

## 【1】まちづくり懇談会の概要

(1) 実施要項 .....	2
(2) 開催次第 .....	3
(3) 各会場の開催状況 .....	4

## 【2】懇談会

I 町政報告 .....	12
II 全町議題 「ストップ人口減少について」 .....	16
III 地区議題 「各地区設定のテーマ」（地区提言・要望等）	
1. 入善地区 .....	20
2. 上原地区 .....	34
3. 青木地区 .....	50
4. 飯野地区 .....	62
5. 小摺戸地区 .....	74
6. 新屋地区 .....	88
7. 櫛山地区 .....	100
8. 横山地区 .....	118
9. 舟見地区 .....	132
10. 野中地区 .....	146

## 【1】まちづくり懇談会の概要

(1) 実施要項

(2) 開催次第

(3) 各会場の開催状況

# —— 令和5年度「まちづくり懇談会」実施要項 ——

## 1. 趣 旨

入善町の財政状況や主要施策などに関する情報公開を行い、まちづくりや地域づくりの課題等の解決に向け、直接町民と意見交換を行い、互いに情報を共有し、相互理解のもとに信頼関係を築き、支え合いによるまちづくりを推進するため「まちづくり懇談会」を開催する。

## 2. 開催テーマ

ストップ人口減少について

## 3. 開催内容

(1) 懇談会：全町議題 「ストップ人口減少について」

地区議題 「地区設定のテーマについて」（1～3程度自由設定）

(2) 出席者：町長、副町長、教育長、総務課長、企画財政課長、元気わくわく健康課長、結婚・子育て応援課長、建設課長、住まい・まちづくり課長、地元出身課長等

(3) ご意見カード：

・出席者にまちづくり、地域づくり等について、意見、提言、要望等を記入してもらい、終了後に回収する。

・記録として意見提言をまとめ、町政執行上の参考とする。

(4) 記 録：内容を取りまとめ、各地区に配布及び町ホームページで公開する。

## 4. 開催期間

令和5年10月12日(木)～11月29日(水)

## 5. 開催時間

午後7時30分～午後9時

—— 令和5年度「まちづくり懇談会」開催次第 ——

日 時： 令和5年10月12日(木) ～ 11月29日(水)  
午後 7時30分～  
会 場： 町内10地区公民館等

1. あいさつ

2. 町政についての現況報告

3. 懇談会

議題Ⅰ ストップ人口減少  
～「もっといい街、住みよい入善」を目指して～

議題Ⅱ 「各地区設定のテーマ」（地区提言・要望等）

4. 閉 会

—— 令和5年度「まちづくり懇談会」各会場の開催状況 ——

■ 参加人数

地区名	開催日	参加人数	令和4年度	前回比
1. 入善	11月24日(金)	88	51	37
2. 上原	11月7日(火)	74	75	△ 1
3. 青木	10月27日(金)	48	64	△ 16
4. 飯野	10月19日(木)	108	71	37
5. 小摺戸	11月29日(水)	49	40	9
6. 新屋	11月2日(木)	76	54	22
7. 櫛山	10月20日(金)	64	62	2
8. 横山	10月18日(水)	51	39	12
9. 舟見	10月12日(木)	45	46	△ 1
10. 野中	11月22日(水)	36	42	△ 6
合計		639	544	95

■ 開催内容

地 区	1. 入 善	2. 上 原	
開 催 日	11月24日(金)	11月7日(火)	
開催場所	うるおい館	産業展示会館	
区長会長	米澤 一博	村田 浩樹	
司 会	五十里裕志	村田 晃	
座 長	五十里裕志	村田 晃	
地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害時の避難所運営について</li> <li>○自治会の存続について</li> <li>○入善地区内における諸問題について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入善西中学校及び上青小学校の通学路安全・防犯・防災について</li> <li>○空き家、空き地の管理問題について</li> <li>○防犯対策について</li> </ul>	
出席者	三 役	町長 副町長 教育長	町長 副町長 教育長
	課 長	総務課長 企画財政課長 元気わくわく健康課長 結婚・子育て応援課長 建設課長 住民環境課長 教育委員会事務局長 都市計画・公園係長 簡易水道・下水道係長	総務課長 企画財政課長 元気わくわく健康課長 結婚・子育て応援課長 建設課長 住まい・まちづくり課長 税務課長 消防署長
	議 員	五十里 国明 田中 伸一 中瀬 淳哉 本田 均	元島 正隆
	事務局	財政係長 企画政策係長 企画政策係 デジタル推進室	財政係長 企画政策係長 企画政策係 デジタル推進室
参加者数	88人	74人	
世帯数	2,289世帯	959世帯	

地 区	3.青 木	4.飯 野	
開 催 日	10月27日(金)	10月19日(木)	
開催場所	働く婦人の家	飯野コミュニティ防災センター	
区長会長	高澤 優	中坪 久司	
司 会	木枝 春夫	高桑 正	
座 長	泉 照雄	山田 雅祥	
地域課題	<p>○国道8号バイパス4車線化の早期実現と地域振興について</p> <p>○安全・安心のまちづくりについて</p> <p>○高齢者が生き生きと活動できる地域づくりについて</p>	<p>○防犯及び交通安全活動に係る組織体系について</p> <p>○西入善駅を活用した入善町西部地区の活性化について</p>	
出席者	三 役	町長 副町長 教育長	町長 副町長 教育長
	課 長	総務課長 企画財政課長 元気わくわく健康課長 結婚・子育て応援課長 建設課長 住まい・まちづくり課長 保険福祉課長 キラキラ商工観光課長	総務課長 企画財政課長 元気わくわく健康課長 結婚・子育て応援課長 建設課長 住まい・まちづくり課長 キラキラ商工観光課長 議会事務局長
	議 員	松澤 孝浩	井田 義孝 岡島 功 鍵田 昭
	事務局	財政係長 企画政策係長 企画政策係 デジタル推進室	財政係長 企画政策係長 企画政策係 デジタル推進室
参加者数	48人	108人	
世帯数	545世帯	1,546世帯	



地 区	5. 小 摺 戸	6. 新 屋	
開 催 日	11月29日(水)	11月2日(木)	
開 催 場 所	小摺戸地区公民館	新屋公民館	
区 長 会 長	杉本 真二	中易 厚司	
司 会	福澤 和正	鍋嶋 利光	
座 長	福澤 和正	鍋嶋 利光	
地 域 課 題	○超高齢社会の課題について ○デマンド交通のあり方について	○県道入善宇奈月線JAみな穂南部 支店交差点の街灯設置について ○黒東小学校及び入善西中学校の児 童・生徒数の減少を背景とした学校 再編等について ○有害鳥獣対策について	
出 席 者	三 役	町長 副町長 教育長	町長 副町長 教育長
	課 長	総務課長 企画財政課長 元気わくわく健康課長 結婚・子育て応援課長 建設課長 保険福祉課長 キラキラ商工観光課長 教育委員会事務局長 定住促進・住宅係長	総務課長 企画財政課長 元気わくわく健康課長 結婚・子育て応援課長 建設課長 住まい・まちづくり課長 保険福祉課長 がんばる農政課長 教育委員会事務局長
	議 員		
	事 務 局	財政係長 企画政策係長 企画政策係 デジタル推進室	財政係長 企画政策係長 企画政策係 デジタル推進室
参 加 者 数	49 人	76 人	
世 帯 数	404 世帯	534 世帯	

地 区	7. 梶 山	8. 横 山	
開 催 日	10月20日(金)	10月18日(水)	
開催場所	梶山公民館	横山地区交流防災センター	
区長会長	鍋谷 芳憲	池原 秀司	
司 会	扇原 優一	米澤 清一	
座 長	扇原 優一	米澤 清一	
地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○旧梶山保育所の再利用計画について</li> <li>○通学路の安心安全について</li> <li>○中央公園と水の小径の安全対策について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○副離岸堤の整備について</li> <li>○子どもたちの通学の安全確保について</li> <li>○町民体育大会の種目の見直しについて</li> <li>○防犯カメラの設置について</li> </ul>	
出席者	三 役	町長 副町長 教育長	町長 副町長 教育長
	課 長	総務課長 企画財政課長 元気わくわく健康課長 結婚・子育て応援課長 建設課長 住まい・まちづくり課長 住民環境課長 がんばる農政課長 教育委員会事務局長	総務課長 企画財政課長 元気わくわく健康課長 結婚・子育て応援課長 建設課長 住まい・まちづくり課長 教育委員会事務局長
	議 員	池原 純一	佐藤 一仁 松田 俊弘
	事務局	財政係長 企画政策係長 企画政策係 デジタル推進室	財政係長 企画政策係長 企画政策係 デジタル推進室
参加者数	64人	51人	
世帯数	825世帯	516世帯	

地 区		9. 舟 見	10. 野 中
開 催 日		10月12日(木)	11月22日(水)
開催場所		舟見交流センター	野中地区交流センター
区長会長		舟本 幸永	酒井 利幸
司 会		梨木 曜一	梅津 博之
座 長		上坪 哲夫	森本 康明
地域課題		○獣害対策について ○舟見地区消雪組合の予算確保について	○空き家問題について ○入善町の文化・観光施設「下山芸術の森」の活性化について ○公共交通機関について
出席者	三 役	町長 副町長 教育長	町長 副町長 教育長
	課 長	総務課長 企画財政課長 元気わくわく健康課長 結婚・子育て応援課長 建設課長 住まい・まちづくり課長 がんばる農政課長 キラキラ商工観光課長	総務課長 企画財政課長 元気わくわく健康課長 結婚・子育て応援課長 建設課長 住まい・まちづくり課長 キラキラ商工観光課長 教育委員会事務局長
	議 員	野島 浩	野島 浩
	事務局	財政係長 企画政策係長 企画政策係 デジタル推進室	財政係長 企画政策係長 企画政策係 デジタル推進室
参加者数		45人	36人
世 帯 数		408世帯	200世帯

## ■ まちづくりについての「ご意見カード」

まちづくり懇談会では、参加者の皆さんに「ご意見カード」を配布し、懇談会のテーマに関わらず、町民の皆さんが日頃抱えている町政に対する率直な意見や疑問、提言、要望などを自由に記入していただいています。

ご意見カードでいただいた内容は、今後のまちづくりの貴重なアイデアとして、参考にさせていただきます。

### まちづくりについてのご意見カード

以下の項目などを参考に、まちづくりに関するご意見を自由にご記入ください。

- ◇地震・津波・集中豪雨等の防災対策
- ◇町内会活動等の地域コミュニティの強化
- ◇道路・下水道等の生活基盤整備
- ◇教育環境・学童保育等の子育て支援
- ◇特産品・地域資源を活用した地域活性化
- ◇再生可能エネルギー活用等の環境対策
- ◇まつり等の伝統文化の保存・伝承
- ◇見守り機能の強化等の高齢者対策 など



※お帰りの際に受付にお渡しください。

#### 【ご意見カードの回収件数等】

地区名	件数	事項数
入善地区	3	5
上原地区	15	24
青木地区	6	7
飯野地区	14	34
小摺戸地区	6	23
新屋地区	22	34
櫛山地区	8	14
横山地区	13	24
舟見地区	10	16
野中地区	11	16
<b>合計</b>	<b>108件</b>	<b>197事項</b>

※たくさんのご意見ありがとうございました。

「ご意見カード」でいただいた内容は、各地区の会議録で紹介しています。

# I 町政報告

## ■ 町政についての現況報告

### ★ 町長

現在、私たち行政では、入善町のため、町民の皆様の幸せのために、様々な課題の解決に向けて、議会並びに町民の皆様と共に、まちづくりを進めている。

まちづくりにおける課題やニーズは複雑多岐にわたるところであるが、その中でも、入善町のみならず、全国的な大きな課題として「人口減少」問題が挙げられる。

私は平成 26 年の町長就任以来、私の政治信条である「もっといい街、住みよい入善」の実現に向けて、この人口減少という大きな課題に真正面から取り組むため、「ストップ人口減少」をテーマに、町の未来への布石となる様々な事業を積極的に展開しているところである。

今回の懇談会では町からのテーマを、改めてこの「人口減少」とさせていただき、皆様と共に、この大きな課題に対して議論を重ねてまいりたいと考えている。

それでは、「ストップ人口減少」に向けた 3 つの柱、「子どもを産み育てやすい環境づくりによる出生数の増」、「健康寿命の延伸による人口の自然減の抑制」そして「I ターンやU ターンの促進と地域活性化による人口の社会増の推進」といったそれぞれの柱ごとの町の取り組み状況などについて、特に今年度の新規・拡充部分を中心に説明させていただく。

はじめに、出生数の増を目指した「子どもを産み育てやすい環境づくり」では、出産の入り口となる結婚と、それにつながる出会いの場の創出に向けた「それ行け！結婚プロジェクト」による婚活サポートをはじめとして、不妊・不育症治療への助成や、保育料の軽減と無償化、学童保育の充実など、結婚、新婚生活、妊娠、出産、子育て、保育や小中学校への進学といったライフ・ステージごとの「切れ目のない支援」と子育て環境のより一層の充実を進めている。

今年度においては、結婚して町内に居住する新婚夫婦の新生活を応援する事業において、支援の上限額を拡充したほか、町内産婦人科での出産に対する奨

励金制度を新たに設けたところである。

加えて、赤ちゃんへのおむつのお試しボックスの贈呈や、保育所でのおむつの定額利用サービスなども始めている。

今後も、県内での子育て環境のトップランナーを自負して、皆様のご期待に応えられる施策の展開に努めていく。

次に、2つ目の「健康寿命の延伸による人口の自然減の抑制」では、若者から高齢者まで、すべての町民が、健康で幸せに生涯暮らすことができるまちづくりを目指すために、生活習慣病予防にもつながる「減塩いいね！プロジェクト」、健診や健康づくり活動に楽しんで参加してもらう「健康ポイント事業」などの事業を通じて、全世代に健康な生活に対する意識づけを図るべく、取り組んでいるところである。

今年度は「減塩いいね！プロジェクト」において、新たに、野菜の摂取量をスーパーや学校で測定して、摂取量を実感しながら、野菜を積極的に食べてもらえるような取り組みをしている。

また、高齢者宅等の雪かきなどのボランティア活動でポイントをためて、商品券と交換できる「ボランティアポイント制度」を始めており、健康で住み慣れた地域で生活できるまちづくりに取り組んでいるところである。

最後に3つ目の柱「IターンやUターンの促進と地域活性化による人口の社会増の推進」に向けては、「安心移住プロジェクト」により、移住・定住希望者のニーズに対して、きめ細かなサポート体制を築くとともに、地域の更なる活性化を図るため、企業誘致や既存事業所への支援、農業・漁業の担い手の育成、入善ジャンボ西瓜や入善海洋深層水など、地域資源を生かした町特産品の振興にも力を注いでいる。

特に、移住・定住に対しては、移住定住希望者向けのリーフレットを新たに作成・配布するほか、大都市での移住相談会への積極的な参加に加えて、町内での住宅取得費用についても新たな助成制度を立ち上げるなど、更なる移住・定住の促進に力を入れているところである。

また、民間事業者による取り組みではあるが、町の海洋深層水と地下水を利用したサーモンの陸上養殖事業も進行中であり、横山沖での風力発電事業とあわ

せて、今後の町の産業の活性化、あるいは観光の振興にも資する取組みであることから、その進捗を町として支えていく所存である。

加えて、安全・安心のまちづくりとして、近年多発する自然災害の猛威に備えるため、災害発生時の拠点施設となる役場庁舎についても、令和6年5月の新庁舎開庁に向けて、防災拠点・行政機能、そして皆様にとって親しみやすく、利便性の高い庁舎となるよう、整備を進めているところである。

私自身、町長に就任して10年目を迎えており、就任当初から「ストップ人口減少」をライフワークとして、様々な取組みを行ってきたが、入善町の人口減少に歯止めをかけることができていない。

人口減少は、町の活性化あるいは賑わい創出など、様々な事柄にも大きく影響する大変重要な問題であると認識している。

このことから、人口減少は全国的な流れとはいえ、できることなら、人口減少に歯止めをかけていきたい、できるだけ減少する速度を緩やかにしていきたいという思いから、今回のテーマを再度「ストップ人口減少」に設定をさせていただいた。

私ども行政の力にはおのずと限界がある。

ここは町民の皆様の力を借りながら、この問題を共有しながら、「ストップ人口減少」の克服に努めていきたいと考えているので、より一層のご理解とご協力をお願いしたい。

本日の懇談会では、まちづくりの主役である町民の皆様から、身近な地域課題はもちろん、入善町の持続可能な発展を見据えた、地域の活性化に向けた建設的なご意見・ご提言をお願いしたい。



# Ⅱ 全町議題

「ストップ人口減少について」

## 1. 人口減少が地域に与える影響

### ■産業・雇用への影響

- ・ 地域経済における生産性の低下 ・ 労働力の不足
- ・ 雇用の質や量の低下 ・ 消費市場の規模縮小

### ■医療・福祉への影響

- ・ 社会保障関係経費等の増加
- ・ 身近な医療、在宅介護などを支える人材の不足
- ・ 高齢者の見守り機能の低下

### ■地域生活への影響

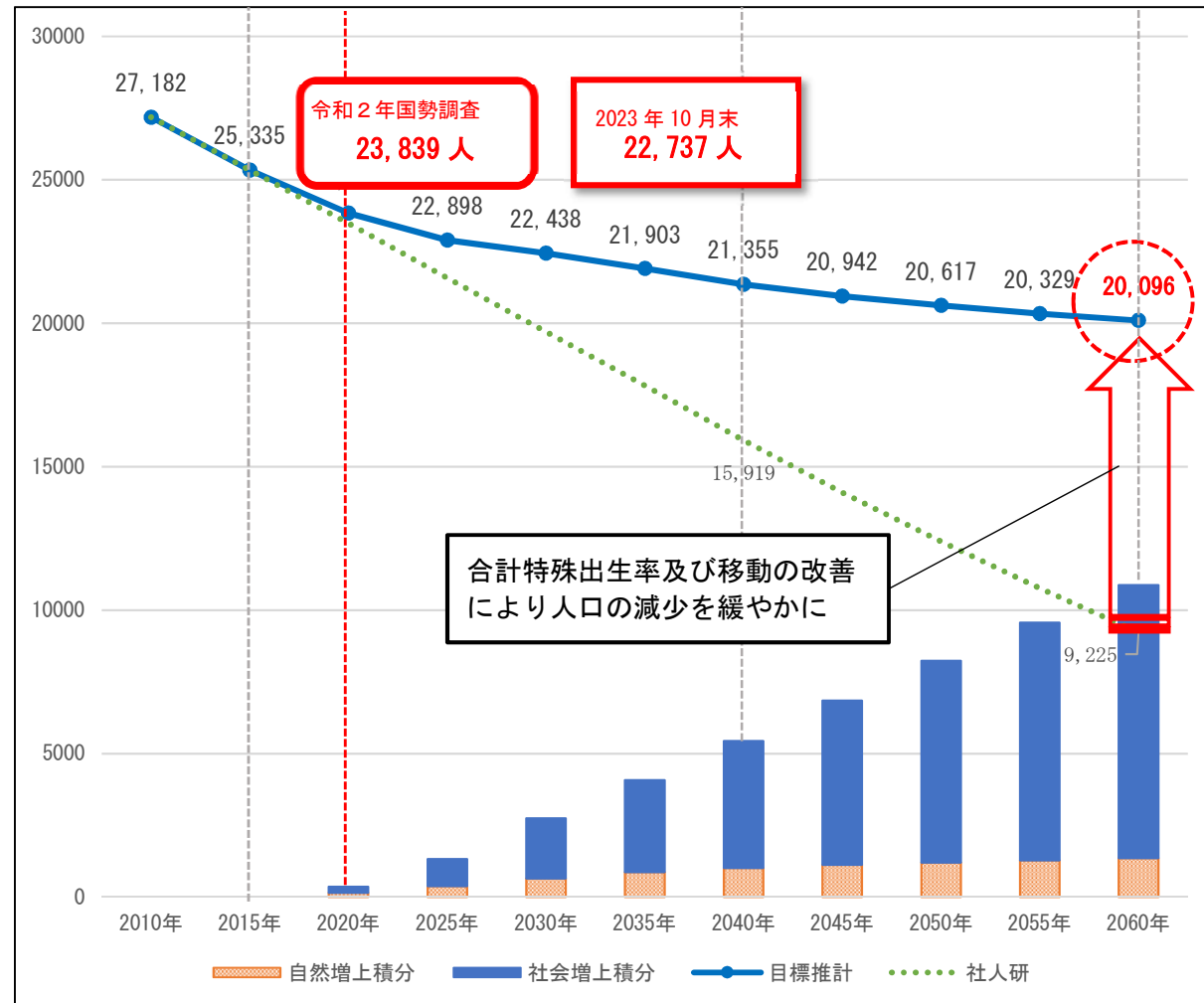
- ・ 地域の絆や地域活力の低下 ・ 地域の見守り力や防災力の低下
- ・ 地域の伝統行事や文化活動の衰退 ・ 地域の核である学校の統廃合
- ・ 公共施設、公共交通、医療等のサービスの縮小

### ■行財政サービスへの影響

- ・ 税収、地方交付税の減 ・ 福祉や医療などに係る社会保障費の負担増
- ・ 財政運営の硬直化

## 2. 人口推計と将来人口

◇入善町が目指す将来人口  
2060年の人口 **20,000人** を目指します。



## 3. 町の取り組み

町では町長の政治信条である「もっといい街、住みよい入善」をまちづくりの基調に、その最大のテーマであります「ストップ人口減少」を実現するため、様々な取り組みを進めてまいりました。

これまでの常識に捉われない大胆な施策にも取り組んできたところであり、少しずつではあるものの、着実に効果が現われている一方で、結果として人口減少に歯止めはかかっていないという現実を真摯に受け止め、今後ともストップ人口減少の実現に向けて邁進してまいります。

### 実現に向けた3つの柱

3つの柱で最重要課題「ストップ人口減少」の実現と幸せの実感へ

#### 施策の柱Ⅰ

**子どもを産み育てやすい環境づくりによる出生数の増**

(出会いから結婚、妊娠、出産、子育てまで切れ目のない支援)

#### 施策の柱Ⅱ

**健康寿命の延伸による人口の自然減の抑制**

(全町民が健康でいきいきと楽しく暮らし続けるための施策の展開)

#### 施策の柱Ⅲ

**IターンやUターンの促進と地域活性化による人口の社会増の推進**

(入善町が「選択されるまち」となるよう、移住・定住や地域活性化施策の展開)

### 【人口減少を克服するためには】

**行政・地域住民・地元企業などが連携を密にとりつつ、人口減少問題についての課題共有と意識の醸成を図りながら、町一丸となってこの難局に立ち向かう必要があります。**

I 子どもを産み育てやすい環境づくりによる出生数の増

結婚 ○それ行け！結婚プロジェクト  
まずは出会いから！婚活イベントやお見合いサポートなどで素敵な出会いを創出

妊娠 ○不妊治療・不育症治療費助成  
不妊治療などには費用の9割を町が支援！手厚い支援で「産みたい」をかなえる

○妊婦一般健康診査助成  
元気な赤ちゃんはママの健康から！定期的な健診で安心の出産を支援

○出産準備ギフトボックス  
安心の出産に向けて町から授乳服の贈り物

出産 ○子宝支援金  
出産のお祝いと子どもたちの未来のために支援！

○出産祝い品  
生まれてきた赤ちゃんの健やかな成長を願って！ネーム入りバスタオルの贈り物

○産後ケア  
デイサービス・宿泊・訪問型の多様なケアサービスで産後のママに安心とゆとりを

○子育てほっとステーション「にゅうにゅう」  
保健師や助産師など専門のスタッフが産産・育児の心配をしっかりとケア

子育て ○乳幼児在宅育児支援金  
家庭での育児を応援！3歳未満乳幼児の家庭での育児を支援

○子ども医療費助成  
子どもの医療費は、18歳まで町が全額支援

○母子手帳アプリ「にゅうにゅうアプリ」  
予防接種も！成長記録も！ほしい育児情報をフルサポート

保育 ○保育料の軽減  
もちろん待機児童なし！経済的な心配もやわらげて安心して保育所へ

○特別保育  
乳児保育、一時保育、延長保育、障がい児保育、保護者のニーズに寄り添い

○病児・病後児保育施設への移送  
体調不良になっても安心！保育所担当看護師を配置、施設への移送も

教育 ○入学お祝い金  
入学おめでとう！小中学校への入学時に入学祝い金を贈呈

○学校給食費助成  
おいしくて安心の給食は教育の一環！月々の給食費を町が支援

○学童保育  
全小学校で希望するご家庭すべてを受け入れ！親も子どもも安心の放課後ライフ



👍 今年度からはこんなことも

- プレ妊活健診  
子どもを望む新婚の夫婦を対象に、妊娠・出産に影響する疾患の健診費用の一部を助成
- 町内出産奨励金支給  
町内産婦人科医院で出産された方に対して、出産奨励金を支給
- 妊娠・出産お祝い金  
妊娠届出及び出生届出時にお祝い金を支給
- すくすくおむつサポート  
保育所での紙おむつサブスクリプションサービスを開始

II 健康寿命の延伸による人口の自然減の抑制

高齢者 ○認知症・介護予防、在宅福祉サービス  
いつまでも元気でいきいきと！予防と生きがいづくりで自立生活をサポート

○運転免許自主返納高齢者へ公共交通利用券交付  
免許を返納してもご安心を！高齢者の生活の足を確保します

健康増進 ○減塩いいね！プロジェクト  
全町民で減塩・適塩運動に取り組もう！食生活から生活習慣病の予防と改善を

○健康ポイント事業  
健康づくりでポイントを集め記念品と交換！健康意識の高揚を図る機会を創出

○全国カローリング大会  
年齢や性別を問わず気軽に楽しめる！町民の生涯スポーツとして心身の健康増進



👍 今年度からはこんなことも

- ボランティアポイント事業  
高齢者宅等の除雪支援などボランティアによる支え合いを促進、ポイントは商品券と交換
- 孫とお出かけ支援事業  
祖父母と孫が一緒に出かけることで、高齢者の外出機会の促進と家族の絆を深める
- 野菜の摂取量見える化事業  
小学校やスーパーにおいて、野菜の摂取量測定器を利用した生活習慣病予防対策を実施

III IターンやUターンの促進と地域活性化による人口の社会増の推進

仕事 ○まちなか新店舗等立地応援事業・元気な商店街再生事業  
移住するなら仕事がなくちゃ！入善町でお店を始めたい方を応援

○新規就農支援  
農業で汗をかきながら田舎暮らしを満喫したいあなたを後押し

○漁業新規就業・定着化支援  
「天然の生け簀」富山湾で漁師を志すあなたを後押し

○特産品新規栽培者支援  
ジャンボ西瓜やチューリップ！入善町でしかできない特別をつくる

住まい ○新婚世帯住居費等補助  
新婚生活は入善町で！新居への入居費や引越し代を支援

○定住促進住宅  
まずはお試し！格安の定住促進住宅で快適に入善町での定住を考えてみませんか

○空き家バンク  
入善町で住み続けたい方は空き家の利用でお得に定住

○安心定住促進事業  
ふるさと入善で両親と同居・近居をお考えの方には支援がいっぱい

交通 ○デマンド交通「ウチマエくん」  
自家用車がなくても家の前から目的地までドア to ドアでお出かけをサポート

○移住者運転免許取得支援・移住者安全運転支援  
入善町での暮らしには自家用車での移動が必須！免許取得やペーパードライバー講習で安全な運転を



👍 今年度からはこんなことも

- 住宅取得支援金  
町外者や賃貸物件に居住している町民が、町内で住宅を新築・取得する場合に支援
- 海洋深層水取水施設・企業団地整備事業  
新たな企業進出に伴う取水管の増設と企業用地を整備

### Ⅲ 地区議題

# 1. 入善地区

開催日：令和5年11月24日（金）

会場：うるおい館

## 議題Ⅰ「ストップ人口減少について」

### ☆住民

入善駅を利用して富山なり行く時に、とても困っているのは、階段を利用しなければならないということ。

高齢者になって車の免許証がなければ、やっぱり電車、あいの風とやま鉄道を利用していくことになると思うが、入善駅にもエレベーターの設置を働きかけていただきたい。

署名活動をすればいいかなと思うが、町や議会でも進めていただければ、健康で外に出ていく高齢者も増えるのではないかと思う。

もう一つ、ボランティアポイント事業について、もう少し詳しく教えていただきたい。

### ★副町長

エレベーターについては、町も是非設置をしたいということで、国や県に要望している。

国の支援の採択を受けるためには、1日の駅の利用者数が3,000人以上必要であるが、残念ながら入善駅は約1,700から1,800人である。

どんどん運動しており今のところ、概ね2,000人ぐらいまで緩和されてきているが、もう一押し緩和してくれということをお願いをしている。

多少いい感触も出てきており、町とすればそのような支援を受けられれば、設置をしたいというところである。

1点問題があり、入善駅だけにエレベーターをつけても、例えば朝日、黒部、魚津はついていない。

そちらで降りられる場合は、そこで階段というのが出てくるということで、県には県東部の駅に全部つけてほしいということもお願いをしている。

頑張って採択に向けてやっていくので、もうしばらくお待ちいただきたい。

### ★企画財政課長

ボランティアポイントについては、今年から始めた事業である。

このボランティアポイントは、まずは町の社会福祉協議会でボランティア保険に加入し、その後、役場で登録申請をして、ポイント手帳というものを皆さんにお渡しすることになる。

ボランティアは、例えば、除雪作業や買い物の代行、通院の付き添い、ゴミ出し、草刈り、草むしりなどなんでも構わない。

高齢者宅等でボランティアをしていただいたら、そのポイント手帳に認め判子を押していただく形でポイントを貯めていくことになる。

1年度ごとにポイントを精算するため、年度終了後に何ポイント貯まりましたということで役場に持ってきていただき、ポイントを商品券と交換させていただく。

10ポイントから商品券と交換が可能で、10ポイントで1,000円分の商品券、年度の交付上限が50ポイントまでということで、5,000円分の商品券まで交換することができる制度になる。

ボランティアポイントの詳しい説明については、12月号の広報入善で確認いただきたい。

また、担当は保険福祉課になるので、細かいことを聞きたいということであれば、問い合わせいただきたい。

☆住民

ボランティアを受ける側はどうなっているのか聞きたい。

★企画財政課長

このボランティアポイント制度については、受ける側からの登録は必要ない。

☆住民

どの程度のことだったらボランティアをお願いできるのか、その程度だったら駄目と言われたりするのか、程度の問題もある。

★企画財政課長

今ほど言ったような除雪に限らず、買い物ちょっと行ってきてとか、うちのゴミちょっと出してきてとか、草むしり、掃除など、日常生活の中でやっていただきたいことが全般的に対象となる。

力仕事でお金がかかるようなことになるのであれば、あくまでもボランティアで出来る範囲でお願いできることであれば可能である。

## 議題Ⅱ 「入善地区設定のテーマ」

### (1) 災害時の避難所運営について

☆住民

議題を4点申し上げる。

最初に「入善町避難所運営マニュアル」の「本編」及び「様式集」の電子データの配布をお願いしたい。

令和5年6月に入善町から災害時の避難所運営マニュアルが公表された。

町のホームページで、10月31日現在、検索するも見当たらなかったもので、是非お願いしたい。

本マニュアルは「本編」及び「様式集」が双方56ページと膨大な資料のため、町のホームページ等から電子データをダウンロードできるようにしてほしい。

## 〔入善地区〕

自主防災会等の訓練や研修テキストとして使用できるほか、事前に記入することができる様式、例えば様式集12「避難者カード」もある。

2番目として、入善地区避難所9ヶ所において、Wi-Fiが利用できるようにしてほしい。

避難所全体でなくてもWi-Fiを利用できるエリアがあれば、タブレットやノートパソコンによる通信が可能になる。

児童・生徒がタブレットを所有しており、学校との連絡が密になる。

避難所にモバイルパソコンを持ち込みメールやLINEが利用できる。

親戚や職場の人々との連絡ができる。電話は相手が出ないと全く通用しないが、LINEやメールは関係なくできる。

災害対策本部専用メールアドレスやLINEを使用できれば、情報は集約できるのではないか。

3番目に、避難所と町対策本部との連絡方法について。

報告は町対策本部宛FAXで送信するとなっているが、他の連絡方法としてメールやLINEも送受信可能である。

避難所利用者名簿、詳細版、様式集ページ28の町災害対策本部へメールやLINEを利用して送信できる。

伝令で報告するより、災害時通信に強いLINEの方が記録されて確実にできる。

4番目として、訓練と避難所に設けてほしい機器の設置要望である。

避難所運営マニュアルに基づいた、町対策本部と避難所3ヶ所程度との連携訓練の実施をしてほしい。

これをやれば、必ず新たな発見が出てくると思う。

災害時の伝達は行政から住民への一方向である。

避難所の設置により、町対策本部と避難所の連絡を密にする訓練も大事ではないか。

次に機器の設置要望である。

モバイルプロジェクターやモバイルポータブルバッテリー。

モバイルプロジェクターは避難者の方への説明用やモニターとして利用できる。

普段から、区長会や自主防災の会議や研修にも利用できる。

非常電源設備は高額であり、通信設備用容量のモバイルバッテリーをすべての避難所でなくても、数台確保することを検討してほしい。

普段は、学校の屋外活動などにおいて利用できる。

以上の4点をお願いしたい。

## ★総務課長

「入善町避難所運営マニュアル」については、避難所となる建物の安全確認方法や避難者の受付方法をはじめ、食料・支援物資の受入・提供方法や防災の資機材の設営方法、避難所



の運営委員会の設置方法、町災害対策本部との連絡方法など、避難所を開設、そして運営するために必要となる行動手順とその様式についてまとめたものである。

町では、円滑に避難所を運営するには、行政の力だけでは非常に困難だということで、地区の皆さんの助け合いをはじめとした「共助」の力が必要不可欠であると考えている。

このことから、本マニュアルは町職員をはじめ、自治会、自主防災会、避難所運営委員会など、避難所運営に関わる人全員が活用することを想定し作成したものである。

本マニュアルについては、区長会長の皆さんに一読をお願いし、指定避難所となる各地区公民館へ設置をしているところであるが、指摘をいただいたとおり、どなたでもご覧になれるよう、あるいは活用できるように早速、町ホームページからダウンロードできるような対応をとらせていただいた。

地区の防災訓練や研修会での活用をはじめ、「避難者カード」のように事前に内容を記入できる様式について対応いただくなど、地区でマニュアルを活用いただき災害に備えていただきたい。

次に、避難所におけるWi-Fiの整備については、災害発生時、多くの避難者の皆さんは、家族や親族との安否確認や情報交換をはじめ、勤務先との連絡、自主防災会内の業務の連絡、避難所運営や被災地区内での情報伝達などを行うにあたり、インターネット回線を利用したLINEなどの「ソーシャル・ネットワーキング・サービス」、いわゆるSNSを活用するものと想定をしている。

このことから町では、電話回線に比べ災害時につながりやすいとされるSNSの活用は災害時において有効な通信手段の一つであると考えている。

町の指定避難所におけるWi-Fi環境については、全33施設中21施設で整備されている。

このうち地区公民館については、各地区が独自にWi-Fiを整備し運営しており、災害時の運用については各地区の裁量によるものと考えている。

また、小・中学校においては「教育Wi-Fi」が整備されているが、避難所の開設時の児童・生徒以外の避難者支援への利用については、セキュリティーの観点なども考慮しながら検討していく必要があると考えている。

入善地区の指定避難所は、うるおい館や町民会館、入善小学校、入善中学校など既存の9施設と、令和4年から新たに「わくわくドーム」を加えて、現在10施設となっている。

このうち、入善小学校、入善中学校を除き、利用料が無料の「フリーWi-Fi」を利用できる施設は、うるおい館と町民会館、総合体育館、わくわくドームの4施設となっている。

保育所のWi-Fi整備については、来年度以降に検討ということになっているが、このほかの施設に係るWi-Fi整備については、現時点において具体的な計画はない。

また、整備済みの施設でも、多くの避難者が一斉にアクセスした場合は利用できなくなる恐れもある。



## 〔入善地区〕

なお、町民からの情報提供、集約にかかるSNSの活用については、指摘のとおり、災害対策本部専用のメールアドレスの設定や「入善町LINE公式アカウント」の活用なども考えられるわけであるが、多数の投稿に対する対応体制や投稿情報の真偽の判断などに課題があるものと考えている。

Wi-Fi整備と非常時の活用については、このように多くの課題や整理しきれていない事項もあるが、指定避難所における災害者の生活支援は非常に重要であることから、入善地区を含めた町全域の指定避難所に対するWi-Fi整備について、平常時の利用方針や経費的な面も含めて、調査、研究し整理をしていきたい。

次に、避難所と町対策本部との連絡方法についてであるが、災害時におけるSNSの活用については、町対策本部と避難所との連絡など、町の災害対策業務においても非常に有効な手段であると考えています。

町では、災害発生時に避難所と災害対策本部との連絡調整業務を行う職員として「町避難所担当者」を数名、避難所に配置することとしており、災害対策本部との連絡手段については、避難所運営マニュアルにおいて、FAXや電話、伝令等と記載しているが、このほかにも電子メールや役場内の職員専用SNSがある。

そういったものの活用も見込んでおり、複数の連絡手段で柔軟に対応できるように備えているところである。

次に、防災訓練と避難所に設けてほしい機器の設置要望についてである。

防災訓練については、入善地区においては昨年度、うるおい館を会場に町総合防災訓練を実施させていただき、避難所の開設、運営訓練を行ったところである。

避難所の運営については、支援物資や資機材等の「要請」と「供給」などといった、町対策本部と避難所との連絡による双方向の業務が発生することから、入善地区で行う防災訓練において、町対策本部を想定した机上の情報伝達訓練などを行っていただきたい。

町としても今後、町総合防災訓練において本部と避難所との情報伝達や供給業務に係る訓練などの実施について検討していきたい。

防災関連の機器の設置についてであるが、プロジェクターについては、指定避難所全33施設中21の施設で整備をされており、そのほとんどが可搬式のプロジェクターである。

平常時から利用されているところである。

災害時に不足する場合には、避難所を開設していない施設からの流用などで対応できるものと考えている。

また、災害時の電力供給については、災害の規模にもよるが、停電から復旧まで数日間で使用できるようになると言われていることから、非常用電源としては、各自主防災会へ100Wの小型発電機を1台ずつ供給している。

指摘のポータブルバッテリーは、どの施設にも現在設置していない。

ポータブルバッテリーについては、電気の出力や容量等が限られていることから、使用目的や平常時の利用、耐用年数などいくつかの課題があるものと考えている。

加えて、近年では各家庭でも購入できる低価格のものが出ており、まずは各家庭でできる「自助」としての取り組みも検討いただきたい。

#### ☆住民

運営マニュアルの本編については、確認をしてダウンロードしたが、大事な様式集が見当たらなかった。

掲載はこの後になるのか、それとも私の検索方法が悪かったのか、そこを確認したい。

本マニュアルは様式集とセットで避難所に備えるものとするを書いてあるので、避難所運営マニュアルの本編と様式集をセットでホームページに掲載していただきたい。

#### ★総務課長

確認したところ、既に様式集もホームページに掲載してある。

## (2) 自治会の存続について

#### ☆住民

町長からも「ストップ人口減少」の話を聞いたが、入善地区、特に街中の町内会で非常に少子高齢化、転出等が多く、町内会の組織を続けていくことが難しくなってきた。

町内会で役員さんも交代できない状態になっており、今後、町内会の統合等も視野に入れた形で考えていかなければならない。

組織だから当然自分たちで考えてくださいという話なのかもしれないが、このような問題等が全国的に起こっていると思う。

町内会の統合等について、事例等を把握されているようであれば、アドバイスをお願いしたい。

また、町内会が非常に弱体化している中、毎年町内会から各種団体への協力や協力金も支払っている。

非常に厳しい状況の中で、各種団体への協力金が定額的で変わらないということも、負担になっている町内会も発生している。

このような状況の中で、町内にいろいろな団体があると思うが、統合できるところは統合していただくなどの整理を考えていただく時期に来ているのではないかと。

どんどん組織が作られても、そこへ参加できる人間が少ないことから、同じ方がずっと行っている。

最後に、これは相対的な話になるが「自助・共助・公助」についてである。

## [入善地区]

これは、防災、福祉、経済などにおいて、まちづくりの基本の考え方であり、入善町も進めていると思う。

「自助」たる家庭にあっては、各世帯において一人暮らし、ないしは高齢の二人暮らしの方等が非常に町内会で増えている現状である。

このような中、「自助」で何でもかんでもしてくださいと言われてもなかなかできず、「自助」もそろそろ限界に近づいてきている家庭が多くなっている。

それから、町内会の話については「共助」になるわけだが、皆さんで助け合ってくださいねということはある、当然しなければいけないとわかっているが、助け合いする方が高齢である。

実際できるのかなと考えた時に、以前はできたが、これからは今の状況ではなかなかできにくくなってくるだろうと思う。

そうすると、当然負担になってくるのが「公助」である。

今後、町の方に何でもお願いしなければならないという「公助」の負担が増大するものと思われる。

この問題については、先ほどの「ストップ人口減少」のところでも話があったが、少しでもその進行を緩やかにする施策が必要である。

「自助・共助・公助」に対する、今後の対応について聞きたい。

### ★総務課長

自治会の存続、町内会の運営、それから各種団体組織の維持、自助・共助・公助の体制づくりといった点で、説明をさせていただきたい。

まず、自治会、町内会もいずれは統合なども必要になるのではという話があった。

町内でそのような区と区の統合が、過去にあったのか調べたところ、実際そのような事例は見当たらない。

逆に分業していったというような経緯はあるが、統合は現在ない。

この地域活動の担い手である町内会、それから各種団体の課題については、人口減少や少子高齢化といったところが起因するもののほかに、定年年齢の引き上げや働き方の改革、核家族化や多様化する生活スタイルといったところで、地域コミュニティ活動に参加する方は実際にいるが、コミュニティへの参加の意識が育たないといったことが大きな問題ではないかと考えている。

町内会の統廃合やそのあり方については、まず町内会の班や組といった組織の取り扱い、それから井戸や公民館などの財産の管理をどうするか、町内会費や基金などもお持ちだ思うので、その積立金などの調整等といった、地域それぞれにおいて検討が必要な項目がある。

住民それぞれが地域社会を形成し、地域活動の維持を担う視点が、その他の各種団体の統合と異なる部分であると思う。

ただし町としても、人口減少に伴う地域の在り方などについては、現実の課題として十分認識をしており、機会を捉えて地域活動に関する先進地の事例など、様々な情報を収集しながら研究をしているところである。

入善町にピッタリとした事例というのは、なかなかないわけであるが、今後も地域の現状なども踏まえながら、地域での議論が深まるように皆さんにお伝えするとともに、先進事例などの情報共有を図っていきたいと考えている。

各種団体の状況及び自助・共助・公助の今後の体制については、例えば青年団や児童会の減少などの例もあるように、時代の流れとともに地域の中の組織に変化があるものと理解している。

このことから、時代時代のニーズに合わせた活動に対して、連携や支援が行われるものと考えている。

一方、防災、防犯など、有事に対する備えとなる取り組みは、自助・共助・公助による地域の総合力が発揮されるように仕組みを構築していく必要があるものと考えている。

なお、役員数や支援の方法などの見直しについては、それぞれの地区、団体の中で検討いただくものと考えているが、合理化や効率化の推進の観点を十分に踏まえ、その団体の活動目的や運営に支障がないよう、しっかり話し合ってくださいが必要であり、改めて、そのことを皆さんの地区、各団体をお願いしたい。

地区や役員の活動に対して、町としては、地区内のコミュニティの意識を高めるため、コミュニティ・パートナーシップ構築事業や元気な地区づくり応援補助金、地区振興補助金などにより、引き続き、地域コミュニティの取組みを財政面において支援をし、地域の活性化を促していきたいと考えている。

また、DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進といった、近年、急速に広まるICTの活用も有効と考えており、例えば上田地区が先行している電子回覧板アプリなどの紹介や導入に対する支援も行っている。

この電子回覧板には災害時の安否確認の運用も可能であることから、地域活動のデジタル化が進められ、各地区における役員の皆さんの事務の効率化や負担軽減が図られるようになっており、こういったものの導入について、各地区に働きかけをしていきたい。

### （３）入善地区内における諸問題について

☆住民

3点、町へ要望したい。

1点目は、公園管理についてである。

[入善地区]

現在、公園管理は「公園管理者」が任命され、管理を行っている。

それぞれの地区において公園の形態や広さなどは違うと思うが、公園管理者は、除草、防虫、樹木の落ち葉集め、トイレのあるところはトイレの清掃など多岐にわたった作業を行っている。

そのため、任期満了に伴って次の方をお願いしても、なかなかやってくれる方がおられない。

そこで、提案としては公園管理者という形ではなく「公園巡回員」あるいは「公園連絡員」として、公園の状態を町の担当部署へ連絡する係としたらどうかという提案である。

連絡を受けた町の担当部署が、防虫、除草、清掃等をそれぞれ適切な業者に依頼する。

公園においての樹木の管理については、樹木の専門業者に全てを任せてしまうという形態にしてはどうかという提案である。

検討をお願いしたい。

2点目は、長期駐車自動車の処置についてである。

現在、町が管理している駐車場に長期間駐車あるいは放置されている車がある。

既に1年以上経っており、同じスペースに駐車している。

ナンバーも県外ナンバーである。

仕事で長期出張、長期の派遣の仕事があるということで駐車しているかもしれない。

あるいは、入善町に転居して転居届は既に出しているが、車の登録を変更せずに自分の駐車場代わりに使っているということも考えられる。

盗難車を放置していったという事も考えられる。

そこで、警察あるいは陸運事務所に依頼して、ナンバーから所有者を特定し、移動を促してはどうか。

このまま長期に放置された場合に、朽ちていきゴミのような状態になり、粗大ゴミとして処分しなければならなくなると思う。

その場合、費用は町が負担することになると思う。

検討をお願いしたい。

3点目は、ゴミ収集車の収集時の移動についてである。

センターラインのある道路で、通行区分のある道路に限られることであるが、ゴミ収集車が収集時に通行区分のある道路において、わずかな距離であるが、右車線を走行しゴミステーションに下車し収集しているところを、ときたま見かけることがある。

道路交通法では左側通行が原則である。

運転者の方は、右側へ移動される場合は、十分周りに注意して、低速で移動されていると思うが、対向車や歩行者の方が逆走車ではないかと勘違いをしたり、一時的に驚いて、パニックになるということもあると思う。

そこで事業者に依頼し、収集時の左側停車になるように、収集ルートを改善していただいてはどうか。

あるいは、ゴミ収集車自体に国交省の道路作業車がつけている電光表示板や回転灯をつけていただいて、収集に回っているときや右側に移動するときに、それを点灯させることで、車や歩行者も驚くことはないのではないか。

以上、検討していただきたい。

★住まい・まちづくり課長

1点目の公園管理については、現在、町では29ヶ所の公園において、町から委嘱した「公園維持管理員」の方々に、公園の見廻りや清掃のほか、園内の草刈りや低木の剪定など日常的な維持管理をお願いしている。

その中でも、草刈りや樹木剪定などの作業では、地域の皆さんからも協力いただきお礼、深く感謝申し上げます。

一方で、「公園維持管理員」からは「地域の高齢化が進み、後継者がなかなか見つからない」「きちんと公園を管理したいが、高齢化などによりできる作業内容が限られてくる」などの課題があると伺っている。

今回、提案いただいた町全体の公園において、害虫駆除や草刈り、樹木剪定などを業者委託することについては、多額の費用が発生することや専門業者数の問題などから困難であると考えている。

公園の維持管理については、「公園維持管理員」や地域の皆さんの協力が必要不可欠であり、理解と協力をお願いしたい。

維持管理員や地域の皆さんでは作業が困難な、背丈の高い樹木の剪定や枯れ木の伐採、公園のフェンスや遊具の補修などが必要な場合は、住まい・まちづくり課に連絡いただければ、適宜対応していきたい。

今年度についても、入善東公園や入善西公園の背丈の高い樹木の剪定をシルバー人材センターや専門業者に委託したところである。

今後も皆さんからの意見を伺いながら、困難な作業については町が行うなど、少しでも負担を軽減できるよう努めていきたい。

次に、2点目の長期駐車、放置自動車の処置についてである。

公園の駐車場は、公園利用者のための駐車場であり、長期間の駐車利用は遠慮いただいているところであるが、指摘のとおり、公園の駐車場には、長期間放置されたままの軽自動車が1台あることを町も把握している。

この軽自動車については、既に入善警察署に相談しているが「警察では、盗難等の事件性がなければ対応できない」との回答である。

## [入善地区]

自動車は個人の所有物であり、所有者の承諾がなければ、勝手に移動することができないことから、町では富山県軽自動車検査協会に車両所有者の照会を行い、所有者を特定し、現在、文書送付により車の移動について働きかけているところである。

しかしながら、現段階では、所有者からの返答はなく、引き続き、自動車の移動を働きかけるとともに、今後の対応について、関係機関と連携し、調査や検証をしていきたい。

### ★住民環境課長

3点目のゴミ収集車の収集時について、説明させていただく。

ゴミ収集のゴミステーションについては、地区、町内会の要望により、設置場所を設定させていただいている。

現在、設置場所については、原則、収集ルートの上側ということをお願いはしているが、昔からあるゴミステーションには、指摘いただいたとおり、収集ルートの下側に一部あるところもある。

下側にあるゴミステーションについては、周辺にゴミ収集車が安全にUターンできる場所がないとか、収集ルートや前後の収集場所の関係もあり、変更した場合は、他の所をまわってから戻ってこなければならぬということ、回収が遅れてしまうという、そういった場所が現在残っている。

もちろん、ゴミ収集に関しては、ステーションが下側にある場合は、委託業者において安全に十分配慮をして、ゴミ収集を行っているところである。

改めて、委託業者には、道路交通法の原則に従って十分安全確認を行うよう、注意を促したいと考えている。

また、収集ルートの変更については、これまでも、ゴミステーションの新設や移動があったときなどに合わせ、随時、ルートの検討をしてきており、今後も引き続き、収集ルートの検討を行い解消に努めていきたいと考えている。

また、作業中の表示や点灯などを付けたらどうかという提案であるが、そういったことも含めて、安全に収集できるように検討していきたい。

いずれにしても、ゴミの収集については、交通法規の遵守はもちろん、安全確保への十分な配慮をしつつ、地区の皆さんが利用しやすいようにしていきたいと考えている。

## (4) その他

### ☆住民

婚活パーティーにおいて、60歳～75歳のシニア枠を設けたらいいのではないかと。

また、例えばシニアが起業する場合に、資金を町が低利で貸し出すとか、この年齢になってくるとなかなか銀行も相手にしてくれないため、そういうことも必要かなと思う。

子どもは社会全体で育てるということからすると、町で結婚して家庭を持つ人には、ちまちまとした小さなことではなく、そういう人には100万円出すと、町に移住する人にも100万円出す。

そういうふうな形で、世界中で迫害を受けている人たちや難民、移民をもっと町に受け入れて、町営住宅へ入ってもらって、その家賃を助成するとか、日本語の教育をするとか、そういうことも必要になってくるかと思う。

また、8号線について、市街地部分に中央分離帯はいらないのではないか。

それから、東洋紡の跡地への企業誘致について、例えばデータセンターなどいろいろと考えられるが、併せて小水力、風力発電の普及、そういったことも考えていく必要がある。

#### ★結婚・子育て応援課長

婚活パーティーの参加年齢については、今までやってきたイベントは上限50歳までで実施している。

シニア世代にも拡大してはどうかとの意見をいただいた。

対象を拡大して何ができるかということ、検討、検証していきたい。

#### ★建設課長

8号線の4車線化について説明したい。

8号線は、現道拡幅部分については、令和7年度中に供用開始したいと国土交通省から聞いている。

4車線化になる予定であり、当然ながら今まで以上に危険性が伴うことから、構造上、どうしても中央分離帯が必要であり、理解いただきたい。

#### ★副町長

その他にも何点か提言いただいたわけだが、100万円を出すとか、そういうことで移住・定住を促せばどうかという話もしておられた。

町は先ほど話をしたように、子育てについては、県内のトップランナーということで、かなり手厚い支援をしている。

お金をどんどん膨らませていければいいのだが、切れ目のない子育て支援ということで、出産から子育てまで効果的に支援を行っているところである。

お金そのものよりも、このような手厚い支援を知らないということが聞かれる。

これは町民の皆さんにももちろん、町外に向けて非常に手厚い子育て支援をやっているということをもっとPRしていかなければならないと思っている。

#### ★町長

東洋紡の跡地利用について説明したい。

東洋紡は全体で15ヘクタール程度の広大な敷地がある。



## 〔入善地区〕

今年度をもって、全てが撤退をしていくわけであるが、これまでも年に1回は本社にも訪問させていただきながら、活用方法などについて、いろいろと提言などを申し上げてきている。

残念ながら企業の敷地であるため、町として具体的にその敷地をどうするという事は、なかなかできないということを理解いただきたい。

そう言いながらも、あれだけの敷地を今後どう維持管理をしていくのかという大きな課題もあり、このまま放置されれば、周辺の住民の皆さんにも迷惑がかかる。

1月に新年の挨拶に行く予定としており、そこでまた、より具体的な話をさせていただきたいと思う。

これまでの間に、いくつかの打診めいたものがあるが、そういったことも踏まえて、大阪の本社で議論をさせていただきたいと思うので理解いただきたい。

### ■ 「ご意見カード」より ～ 入善地区の皆さんからの意見や提言 ～

- 婚活イベントによる効果、参加人数や成功したカップルの数が、どこかで目に見えるようになればいいと思う。
- ゲストハウスなどで、町外から人を呼びこむような活動を支えてほしい。
- 入善ラーメンまつりで、あれほどたくさんの方が町に集まるのに、その中の若者で町に移住したい人がいないものか。
- 町だけでIターン、Uターンの対応は難しい。企業誘致が重要であり、県や新川地区が協力してまとまった対応が必要である。
- まつり等の伝統文化の保存・伝承に最大限の協力をお願いしたい。

・・・ 3件（5事項）

### Ⅲ 地区議題

## 2. 上原地区

開催日：令和5年11月7日（火）

会場：産業展示会館

## 議題Ⅰ「ストップ人口減少について」

### ☆住民

今の説明の中で、資料表面の一番下に、人口減少を克服するためには行政・地域住民・地元企業などが連携を密にとある。

私は地元のアイシン新和に勤めており、そこには町内や新川地区、新川地域からの従業員がやっぱり1番多いが、中には富山市から公共交通機関を使って来ておられる方もおられる。

会社側は、当然どこの企業もどこの地域も多分そうだが、人手不足が悩みどころである。

事業を継続していくためにも、経営者側もどこから、誰かいい人という話がずっとついて回るわけだが、そんな中で、富山市から公共交通機関を使ってきておられる方は、あいの風を使って入善駅まで来られるが、基本的には、そこから8号線の会社までは徒歩の方が多い。

町の機関で何かないのか見てみたが、皆さんご存知の「のらんマイ・カー」はあるが、通勤時間帯に走っていない。

町の人の足ということで、9時台に町内を巡ると宇奈月方面との南北の連携ということで走っているが、それは始業の時間に対しては、ちょっと早すぎる。

町内にはいろいろな優良企業がいっぱいあり、例えばシロウマサイエンスさんであるとか、ウーケさんであるとか、先ほど言われた陸上養殖アトランドさんにも、おそらく同じような話がこの後ついて回ってくるのではないかと思う。

富山県の人口の半分は富山市にいるという現実があり、どうしてもそこから関係人口を持ってこないといけないと思っているところで、そうであれば、公共交通機関の充実は絶対に欠かせないところだと思っている。

そこで、是非検討していただきたいが、いきなりこういうことをするのではなく、各企業さんにどういう時間帯だったらみんな使いやすいかという調査からでもいいと思う。

そういったところを一生懸命やって、利便性の高い交通機関を作ってほしい。

是非、検討をお願いしたい。

### ★町長

今ほど言われた内容は、本当に重要な問題ではないかと思っている。

町内の企業、いろいろな企業が工場の拡張や設備投資をしようとしても、それに見合う人材が確保できないというのは本当に大きな問題になっている。

その分、オートメーションとか人手不足を解消するような機械の導入ということも考えてはいるわけだが、それでも、それを動かす人が必要になってくる。

そういった点では、本当に苦勞しておられるなど感じている。

先日、黒部からカルバオンという会社が飯野地区に進出し、ウーケも4期目の工場の拡張に入るという計画も現実になってきた。

あるいは、今ほど言われたサーモンの陸上養殖もということになれば、より一層人手不足は出てくるだろうと思う。

加えて、シロウマさんも、今の駐車場を外に出して、その中に新たな工場を作ろうという動きもある。

そういったことも踏まえていくと、いかに入善町で働いていただける方々の足を確保するか、重要な問題だと思っている。

ありがたくお聞きをした。

企業の皆さんの意見なども聞きながら、検討させていただきたい。

#### ☆住民

3つの柱の個別施策として、非常に立派な施策が網羅されている。

非常に頼もしいが、今年度始まって、もう7ヶ月8ヶ月経つ。

せめて、このたくさん書いてある中でいくつかを、4月の時点でこうだったが、重点的に展開してきたら、11月にはここまで来たということの数項目入れてもらえれば、やっている成果が出ていると感じる。

文章だけで説明を受けても、全く分からない。

例えば子宝支援金についても、何人の方に支援したとか、実績を数字で表してもらえれば、わかりやすいのではないかということで資料の作り方を要望したい。

#### ★企画財政課長

今ほどの意見については、ごもっともだと思う。

今回については、この「ストップ人口減少」というものを改めて町民の皆さんと共有したいということで、一方的に町で展開している事業を説明させていただいた。

残念ながら、人口減少に歯止めをかけれていないところであり、一番大きな効果で言うと、例えば出生数や婚姻数を大々的にお知らせできれば一番いいと思うが、残念ながら今年度7、8ヶ月経過した今の段階では出生数、婚姻数ともに、このままでは前年を下回る状況である。

今後、いろいろと町で取り組んでいる施策を皆さんとともに町内外に広げていきたいという思いもあり、今回こういうふうにさせていただいた。

効果についても、どんどん発信していきたいと考えており、今後の課題として、ありがたくいただきたい。

[上原地区]

★町長

担当課長が説明したとおりであるが、入善町として少しPR不足の面もあるのではないかと考えている。

いろいろな施策を利用されるのは町民の皆さんになるが、皆さんの友人、知人、町外の方にも入善町の取り組み状況などを、是非お知らせをいただいて、入善町を評価していただきたい。

入善町に1人でも多く来ていただく、入善町の制度を利用していただくことが必要ではないかと考えており、できるだけ友人、知人などに、この町の取り組みのPRをお願いしたい。

☆住民

インパクト、みんながアツというようなものがあれば、入善町でこういうことをやっていると全国のマスコミの人達も取り上げ、それがみんなの耳に入る。

私が考えているのは企業であり、若い人にとって魅力のある企業、職場環境もあるし仕事内容もある。

それと、経済的なもので、入善町のあの企業行ったら若い人は年寄りの倍出すとか、そういった企業を誘致するときに、平均年齢などを考えて、そういった企業には税金を安くするとか、普通の企業の半分にするとか、極端に言えば。

難しいことだが、やっぱりみんなが注目されるような入善町でないと駄目ではないか。

★副町長

インパクト不足は、先ほど町長も申したようにPR不足もかなり絡んでいると思う。

例えば保育料にしても、子ども医療費助成にしても、不妊治療にしても、町は県内トップを切ってどんどん拡充し軽減をしていったが、気がつくと他の市町村も後を追い付いてきて、そして、また町が逃げていくということで、なかなか大きな差が出にくいというのも事実であるが、子育て環境については、どういう制度を並べても県内でもトップランナーである。

そのインパクトを出すというのはPRをするということで、例えば結婚活動でも商業を流しているのは入善町ぐらいであり、もっと頑張らなくてはいけないと考えている。

税金は国の制度であり、町では簡単に下げることはできない。

企業への支援については、税金はしっかりいただくが、その分、設備投資への支援などを町でやってきており、雇用の増と投資の増もお願いしている。

いずれにしても、インパクトが出るようにしっかりとPRをしていきたいと考えており、是非皆さんにも協力をいただきたい。

☆住民

「それ行け！結婚プロジェクト」について、いつも疑問に思うのは、男性に対してだけ縛りがある。

入善町に勤務するとか、入善町に住民票がある人だけであり、女性はフリーになっている。

私が住む上野3区は結構、婿取りの人が多く、なぜ、逆のバージョンをやらないのか。

去年の12月に初めて女性の縛りを入れたが、そういったものを設けたほうがいいと思う。

次に、子どもを産み育てやすい環境づくりによる出生数の増と書いてあるが、知り合いの保母さんに保育料のことをたずねたところ、その人の年収によって違うと言われた。

実はネットで見たら、岡山県に奈義町というところがある。

そこでは、出生率が2.8であり、日本の出生率1.26の倍以上である。

町長いわく無駄をなくし、子育て支援に力を入れたと言っている。

どのような無駄をなくしたかという、議員を減らしたほか、各種の補助金を減らしたと言っている。

例えば、補助金について、いろいろな各種団体から引かれており、一例を申せば、黒東安全協会がある。

予算が毎年1,000万あって、余剰金も500万くらい残っている。

なぜそのようなところに、上野3区だけじゃなく、いろいろな地区からお金を出しているのか。

そういった形で補助金をカットして、お金をつくって、保育料をタダにするとかにもっていけないのか。

また、役場に新聞が置いてあるが、いろいろなところに新聞が置いてあるらしい。

年間80万となると、町の予算からすると微々たるものかもしれないが、そういった小さな無駄の積み重ねが大きな予算になると思ってほしい。

あと、町のネットを見たら、入善町には公用車が26台あるとなっていた。

町として公用車は必要だと思うが、職員がもし150人いたとしたら、5.8人に1台の公用車があることになる。

いろいろな無駄をなくしてほしい。

★町長

「それ行け！結婚プロジェクト」で婚活パーティーなどについて、町が取り組んでいる。

この事業を始めた頃は、何で行政がそこまでする必要があるのかという批判めいた声もあったが、今は全市町村でこういったものに取り組んでいる点では、町も率先してやって良かったのではないかと思っている。

〔上原地区〕

指摘のように、男性が地元あるいは地元の企業に勤めているという制約的なものが今までも入っていたという点で、今担当とも話をしており、フリーに入善町の取り組みに参加していただけるよう、徐々に改善をさせていただければと思っている。

また、奈義町のいろいろな話について、当然のことながら無駄を省くという点については私どもも同感である。

また、省いてきているつもりであるが、それをどこまで無駄とみるかは、それぞれの思いもあるかと思う。

いろいろな活動をするための補助金などの支援も必要であると思うし、いろいろな面で目配り、気配りをさせていただきながら、無駄なものは排除させていただく方向で、手厚くやるところには予算を回すというようなメリハリの利いた行政を今後もしていきたい。

## 議題Ⅱ 「上原地区設定のテーマ」

### (1) 入善西中学校及び上青小学校の通学路安全・防犯・防災について

☆住民

西中学校及び上青小学校の通学路安全・防犯・防災ということで、大きく三つを要望する。

一つ目として、国道上野交差点から吉原迄の通学路の歩道整備。

二つ目として、あい風とやま鉄道の高架下通学路の拡幅、歩道の整備。

三つ目として、西中学校、上青小学校の駐車場整備。

これは事件、不審者など今年いろいろと発生したが、その際、学校まで保護者が送迎するわけだが、送迎する時に、どこへ迎えに行っていいいか、路上での受け渡しになってしまうので、その点を考慮した形での駐車場整備をしていただきたい。

今年度、「富山県安全・安心アカデミーワークショップ」というものが昨年度から毎年開かれており、富山県の中で入善町の上原地区と滑川市の北加積地区の2地区が選ばれ、このワークショップに参加した。

大学の先生と学生さんによる現地調査を含むワークショップが開催されたわけだが、上原地区においては4月にコンビニ強盗未遂があり、その他でも不審者情報がいろいろとあった。

その点を受けて、上原地区で実施されたことと思うが、青パトのパトロールコースを中心として学生さんや先生と回った。

その中で、学校の通学路でありながら、歩道がないところが極端に狭くなるわけで、そこにおいては、やはり非常に危険であり、防犯上も不安を感じると学生さんたちから指摘があった。

また、上原地区のアンダーパスには暗さがあって、非常に危険であり、防犯上も危ないという意見もいただいた。

そういう面においては、行政と地区民が一体となって、これを要望していかなければならない。

簡単にはいかないというのは、ワークショップの中で話は出たが、継続的な要望が必要であろうということで意見をいただいた。

このテーマに関しては、過去何回も上原地区から要望があがっている。

そこで、今現在、8号線バイパスの4車線化の拡幅工事が行われている。

その中で、上野交差点の地下道も新しくなり、9月から新しい地下道を通っている。

そこで、地下道が新しくなったということは、当然その周りの歩道も一体となって整備する必要があると考えている。

8号線から上に関しては、歩道は整備されている。

8号線の下になると、実際に学校に近いところだが歩道が整備されていないので、是非8号線の新地下道とともに、上の方から順番に、例えば、まず8号線から西中までの歩道を整備する。

その翌年には、その下を整備するなど、実現に向けた時系列のマイルストーン（プロジェクトや業務進捗における区切りや中間目標）というものを提示しながら考えていただきたい。

#### ★建設課長

入善西中学校及び上青小学校の周辺道路については、計画的に整備を行っており、昨年度は西中学校西側の縦道、町道西中学校線について工事が完了したところである。

町では、学校関係者や警察、道路管理者などからなる「入善町通学路安全推進会議」を設置し、関係機関が一体となり、各小学校の通学にある危険箇所について合同点検を行い、対策内容の協議、検討を進めているところである。

町道吉原国道線の歩道がない箇所についても、この会議において、危険箇所として挙がっており、対策内容について関係機関と協議、検討しているところである。

しかしながら、歩道の整備については、現状、道路沿いに民家や墓地等の物件が立ち並んでおり、事業の実施には、地権者の同意や多額の事業費が必要となるため、全区間通じての事業完了には相当な時間を有するものと考えている。

ただ、町としても何かしらの安全対策を講じる必要があると認識しており、今年度においては、県道上飯野入善停車場線との交差点部分について、改良工事に向けて地権者の調査等を進めているところである。

併せて、路面標示等の暫定的な安全対策についても検証しているところである。



## 〔上原地区〕

町としては、まずは、安全対策として交差点改良及び路面標示等の実施に向けて進めていきたいと考えている。

次に、あいの風とやま鉄道ガード下の拡幅について説明する。

この拡幅についても「入善町通学路安全推進会議」において、対策内容を協議検討しているが、鉄道の南側にある変電所の移設等への影響が懸念されるほか、列車の運行を行いながら工事を行わなければならないことから、工事の実施には慎重になっているところである。

以前、吉原地区道路委員会よりガード下の前後の道路を拡幅し待避所形式とする方法も要望いただいたところであり、その方法も含めて様々な調査や検証を引き続き行っていきたいと考えている。

しかしながら、この箇所についても、何かしらの安全対策を講じる必要があると認識しており、外側線の設置やラバーポールによる歩行空間の明確化、路面標示の設置による視覚的な注意喚起など、暫定的な安全対策を検証しているところである。

また、皆さんご存知のとおり、この箇所については、朝の7時から8時の間は、農耕車以外の車両の通行が制限されているところである。

この通行制限に対する取り締まりの強化についても、有効な対策であると考えているため、引き続き入善警察署に対してお願いしていきたい。

また、あいの風とやま鉄道を横断する避難路については、この町道吉原国道線のほか、県道の魚津生地入善線、同じく県道の吉原入善線などを指定している。

県が昨年度より実施していた道市跨線橋の補修工事については、今年度に完了する予定であり、この跨線橋の補修により、県道魚津生地入善線の避難路としての機能は維持されるものと考えている

今後も関係機関とともに、住民の皆さんが確実に安全な場所に避難できるように取り組んでいきたい。

### ★企画財政課長

学校への送り迎えが安心してできるような駐車場の整備をお願いしたいという要望を承った。

恒久的な駐車場の整備になると、場合によっては用地の確保等といったこともあり、この場ですぐに整備するということとは言えないが、例えば、今ほどあったように緊急的、臨時的にどうしても送り迎えが必要ということで、多くの保護者の皆さんが送り迎えに学校を訪れる場合には、西中学校であれば上原保育所の跡地が遊休地としてある。

現状としては、申請を出していただいて利用目的を確認のうえ、お貸しするという運用をしている。

ただ、学校の送り迎えであれば、もちろん無償で利用いただきたいと思っており、その辺については教育委員会とも連絡を取りながら、その際には対応させていただきたいと考えている。

上青小学校についても、新たに駐車場となると、すぐにというわけにはいかないが、隣接してさわすぎ保育所などもあるので、そこの駐車場もうまく活用できないかということも含めて、それぞれ対応させていただきたい。

#### ☆住民

歩道整備について町から説明があったが、民家や墓地というのはなかなか難しいというのは認識している。

その中で、田んぼの部分は割と用水があり、用水までと田んぼの距離の間に法面がある。

その部分は、割と整備しやすいと考えており、まずできるところからと考えていけば、その田んぼの部分を整備していただくだけでも、だいぶ違うのではないかと思う。

8号線からまずは上野神社までぐらいを見てみると、田んぼ部分は相当多い。

その部分を歩道にするだけでも、子どもたちにとって安全性は変わると思うので、検討していただきたい。

もう一点、駐車場に関しては上原保育所の跡地は非常に有効と思っており、いろいろなことがあった場合には協議しながら利用していければと思う。

上青小学校に関しては、ライスセンターもあり運動会時期となると非常に混雑する。

周りに遊休地等が出そうな場合、また検討していただきたい。

#### ★建設課長

今年度に関しては、まずは一番危ないと思われる交差点部分について今地権者との交渉にあたっており、理解いただきたい。

その部分が出来上がって、今後については、意見のとおり田んぼを中心にやるのか、また検討させていただきたい。

## (2) 空き家、空き地の管理問題について

#### ☆住民

町内の各地区同様に、空き地や空き家の管理が十分行われておらず、近隣トラブルとなっている。

例を上げると、クマが出てきて柿の木を切ってくれという要望や、空き地に車が停めてありそれをどうかしてくれ、その周りの草を刈ってくれ、このような問題がある。

〔上原地区〕

建物の取り壊しは個人の財産であることから無理であるが、周辺の雑草、樹木等の伐採や処理だけでも行政で支援してもらえないか。

もう一つ、町が音頭を取ってくれば「地区内の空き地の雑草ぐらいは刈ってあげるよ」という方がおられるが、そういう人たちへの支援というか、町から補助金とかがあれば出していただきたいという要望である。

#### ★住まい・まちづくり課長

町内では、空き家・空き地の増加に伴い、管理が十分に行われていない物件も増加しており、町の大きな課題となっているところである。

町が実施できる空き家対策としては、所有者と連絡が取れない空き家については、固定資産税情報などを活用しながら所有者を特定し、文書などで適正な維持管理をお願いするとともに、シルバー人材センターなどの管理業者を案内しているところである。

空き家などの管理責任は所有者にある。

敷地内の雑草や樹木についても同様であるため、第三者が管理を行う場合、基本的には所有者の同意が必要になる。

なお、樹木の伐採については「隣地から枝を越境された土地の所有者は、相手方の所在が不明であることなどの一定の要件を満たせば、自ら枝を切り取ることができる権利」を定めた改正民法が令和5年4月1日から施行されたところである。

地区から提案いただいた制度については、他県の自治体において、所有者から同意を得て、草刈りなどを行う自治会や団体に対して補助金を交付している事例がある。

しかしながら、この仕組みには次のような問題が懸念されている。

個人が管理すべきものに対して、税金で管理する仕組みとなってしまうこと。

「町が作った仕組みで何とかなる」と所有者の管理がおろそかになりかねないこと。

費用全額を賄うことはできないため、地区に金銭的な負担をかけてしまうことなどがある。

地域の皆さんが雑草や樹木の管理に協力していただけるのであれば、町としては大変ありがたいことであるが「空き家などの管理責任は所有者にある」という原則のもと、どのような仕組みで空き家・空き地問題の対策を図っていくべきか、今後、調査検証していきたいと考えている。

### (3) 防犯対策について

#### ☆住民

皆さんの記憶が薄れていると思うが、4月24日午前3時40分、ファミリーマート下上野店にて強盗未遂事件が発生した。

まだ犯人が捕まっていない。

お巡りさんも頑張っていると思うが、あの時に、いくつか防犯カメラがあればなというふうに思う。

8号線から下には、コンビニを除いて、防犯カメラが10台ある。

その10台のうち中学校に5台、小学校に4台、あとは上原消防分団屯所前に1台あるが、これがかかなり古い。

それで、下上野地区の皆さんの同意を得て、逃走経路になる、それと通学路が見渡せるところということで、下上野公民館に10月6日に防犯カメラを設置した。

カメラの設置と合わせて、「録画中」というのも皆さん見たことがあると思うが、これは結構、抑止力になっているのではないかと。

公民館の前にあるゴミステーション、まだカメラを付けてから1ヶ月だが、不法投棄が今のところ発生していない。

やっぱり、結構な抑止力があつたのではないかなと思う。

いろいろな行動を思いとどませる力が働いているというふうに思う。

犯罪をやめようと思わせることが大切なのではないかと思う。

ただ、カメラの台数を増やすことは簡単なことではなく、そこで、一般家庭に家庭用の防犯カメラを増やせばどうか。

設置について、町からの補助金を準備していただけないか。

朝日町には補助金はあるが、入善町にはない。

一般家庭にもカメラが増えれば、ニュースでも犯人が逃げる映像が流れると思うが、家庭用の映像が結構使われている。

それで、犯人が捕まったことも実際にあると思う。

町の補助金をよろしく願いたい。

#### ★総務課長

上原地区の皆さんには、犯罪のない安全・安心なまちづくりのために、地域での防犯啓発活動をはじめ、青色回転灯の防犯パトロールや通学路を中心とした元気見守り隊など、年間を通じた防犯活動を、地区を挙げて取り組んでいただいている。

おかげさまで、県内における窃盗犯罪などの刑法犯の認知件数が年々減少しており、町内においても10年前の平成25年には87件あったものが、令和4年には46件で大幅に減少している。

これは地域の皆さんの地道な地域防犯活動が犯罪の未然防止、抑止につながっていると考えており、心から感謝を申し上げる次第である。

〔上原地区〕

一方、コンビニ強盗未遂事件をはじめ、日々児童・生徒などへの不審な声かけ事案、住宅の侵入窃盗や自転車盗、車上荒らしなどの犯罪は依然として後を絶たないという状況である。

町では、学校やPTAの皆さんなどによる街頭指導などの取り組みをはじめ、防犯の啓発活動や青色回転灯の防犯パトロール活動、元気見守り隊活動などといった地域の皆さんの目による抑止が一番効果的であると考えており、今後も皆さんの協力をお願いしたい。

なお、通学路などでの防犯対策については、不安な箇所があれば、通学路への防犯パトロールの回数を増やすとか、防犯組合による街頭指導の重点実施など、地区の裁量や状況に応じて柔軟な対応をお願いしたい。

防犯カメラの設置については、町においても、犯罪の防止対策を総合的に実施していく上で有効な手段の一つだと考えている。

公共施設や小中学校、道路の交差点などを中心に設置をしており、町では80台の防犯カメラを設置してきたところである。

また、商工会や町内会など各種団体が設置したカメラを含めると100台の防犯カメラが町内にある。

加えて、企業や事業者が独自に設置しているカメラを含めると、相当数の防犯カメラが町内にあるのではないかと考えている。

上原地区においては、上青小学校とその周辺に4台、入善西中学校とその周辺に5台、上原の消防分団屯所前に1台、消防防災センター前に1台ということで、合わせて11台設置してある。

加えて、現在、通学路となっている国道8号の上野（中）地下横断歩道への防犯カメラの設置を進めている。

防犯カメラの設置は、犯罪の抑止効果も高まるほか、警察の捜査や行方不明者の捜索などにおいても、高い効果を発揮するものと考えているが、カメラの設置だけでは、犯罪や不審者の発生などを十分に防ぐことができないということもあり、やはり、日々の地道な地域防犯活動による犯罪抑止が一番効果的であると思う。

県警が下上野地区で取り組みをされている提案型の防犯カメラの貸出事業が10月から始まっている。

こういったことが始まったこと、それから犯罪の多発により、今後、地区内で防犯カメラの設置が必要となる場合も想定できることから、現在、防犯カメラ設置への指針や地区への助成制度などを含めて、町の新たな防犯カメラ施策について、様々に調査、検討しているところである。

なお、通学路などを含めた防犯カメラの増設については、単にカメラの数が多ければ良いというものではないと考えており、効果的な設置場所や台数については、不審者が姿を現し

やすい場所や不特定多数の人が使用する場所など、必要となる場所へ必要となる台数を適切に設置することが有効であると考えている。

また、提案のあった、「録画中」というシールに関しても抑止力があると考えており、持ち帰って検討させていただきたい。

一方で、カメラの設置者はプライバシーの侵害、肖像権の保護、個人情報の保護などに十分留意し運用する義務が課されているということに注意をしなければならない。

防犯カメラの設置にあたっては、警察と十分に相談、協議するとともに隣接地に住む住民とのトラブルがないよう理解を得た上で、適切に運用することが望ましいと考えており、地域の皆さんの理解、協力をお願いしたい。

#### ★町長

特に最近のコンビニ強盗未遂もそうだが、いろいろなところで不審者情報なども多く出てきているわけであり、そういった点では、やはり防犯カメラの必要性ということについては私どもも検討していきたいと思っている。

今ほど担当課長が申し上げたように、防犯カメラの設置についての一つの指針や、どういう形で支援制度をつくれるかということも踏まえて考えていかなければならない。

最近、この産業展示会館の前で、警察も常時、検問をしているという話も聞いている。

不審者の出没に対する情報提供がメインだと聞いているが、最近、車の中につけられるドライブレコーダーも大きな効果があると言われている。

そういったことで、今回も車をわざわざ止めて、通行された時間帯とかドライブレコーダーの整備の有無といったことも聞いておられるということでもある。

そういった、いろいろな機器を活用しながら、地域の安全対策を講じていきたいと思っており、しばらく時間をいただければと思う。

## (4) その他

### ☆住民

3月、仕事で古黒部の踏切を通った際に、手押し車の女性の方が、踏切を渡り始めた瞬間に警報器が鳴り、踏切を渡り切る前に遮断機が下りてしまった。

おばあさんが遮断機の前で止まっていたので、後方から来た私の元従業員の人間がすぐ車から降りて遮断機を上げて、おばあさんを移動させた。

踏切の時間ルールというものがあり、警報機が鳴ってから遮断機が降りるまで10秒から15秒、遮断機が下りてから電車が踏切に達するまでは15秒から20秒、警報機が鳴り始めてから列車が到達するまでは20秒から30秒。

〔上原地区〕

この最初の10秒から15秒の間に、おばあさんは渡り切れなかったということで、誰もいなかったらどういうふうになっていたかわからない。

もう一つ、役場周辺の信号機について、最初は入善高校の西、東の信号機が同時に動いていたが、役場の前の信号機がいつも少しずれているために、信号無視の車が多い。

アイシン新和さんの信号機が近くにできたので4つあるが、ちょっとずれている。

その時に信号を無視される方が多い。

この4つを、青と赤を同時にしてもらえばいいのではないかといつも思っている。

信号機屋さんに聞くと、警察が役場さんの方に伝えてくれということだった。

また、木根の信号機があるが、誰も通らないのにずっと赤のままで、誰も横から通っていかず、ずっと待っている。

あそこには、人感がいいのではないか。

#### ★副町長

まず、古黒部の踏切については、あいの風とやま鉄道の管理になる。

古黒部の踏切は拡張の要望があり、町からも要望はしているが、その前に何箇所も踏切関連の工事があるため、まだまだ時間がかかると思っている。

また、役場前の信号機については、アイシン前の信号機が増えたため、信号機がずらっと並んでいるわけであるが、その連動については整備前から変な渋滞を招くのではないかとということで、国交省、警察に重々その辺は配慮してくれと申し立てた。

結果、今の微妙なずれが現在、最適だということで本運用されているところであるが、今後、状況等を見ながら修正が必要であれば修正されると思う。

木根の信号機については、整備のときに安全性を考慮して、つけられたということである。

町は毎年、6基、7基の信号機設置の要望をしている。

LEDへの改修といったものの予算は県で持っているが、新しく付けるのは県内全体で年間1箇所か2箇所である。

このように、なかなかつかない状況の中で、ついた信号だということである。

これも安全に配慮された結果、国交省でつけられたものであり、一定の機能、効果があがるのではないかとと思っている。

#### ★町長

役場の前の信号の関係だが、現在4車線化に向けた取り組みをしている。

上原から栢山まで10箇所、信号が1つ増えた結果になったわけだが、今言われるように、同時に動かすと、役場でイベントなどがあつたときは、出るとふんづまりを起こしてしまい、車が何台もいけない状態になってしまうことが多々ある。

特に、朝晩は元々8号線を走っている車が赤で、例えば新和の信号が赤で止まると、そこで数台がたまって、役場から出ようとする車が出られなくなる。

あるいは、山側から来る車が出られなくなるということが結構起きている。

そういったことから、国交省には今時のコンピュータなどを使いながら、制御を含めたやり方について、是非配慮してほしいと常々申し上げている。

もう少し全体的な流れを見ながら、スムーズになるように、今後もしっかりと要望していきたい。

信号機の話だが、昨日も県警の方々と話をする機会があり、地域の状況が変わることに配慮した信号機の設置を要望した。

正直なところ、県の予算として、新たな信号機を設置する箇所数というのは、1、2箇所しかないそうである。

ほとんどが、信号機をLED化に切り替えていくための予算だということを聞いており、町も毎年5、6箇所を要望するが、なかなか前進しないということで、今後も粘り強く要望したいと思っている。

そういう状況にあるということを理解いただきたいと思うし、我々も町村会、あるいは市町村も含めて、みんなで要望している最中でもある。

近々ある知事要望にも入善町として、信号機の設置について要望することになっている。

どこまで実現できるかわからないが、精一杯頑張っていきたい。

## ■ 「ご意見カード」より ～ 上原地区の皆さんからの意見や提言 ～

- 防犯対策としてドライブレコーダーが有効なら、設置に対して補助金を出してほしい。監視力が上がると思う。
- 防犯カメラは現在どのぐらい設置され、実際必要とされる数量はどのぐらいか。これから満足できるよう設置してほしい。
- 防犯カメラの設置補助をお願いしたい。
- 女性防災士の受験門戸を開けてほしい。各地区区長に、ぜひ若い女性にチャンスを与えていただきたい。女性が活躍できる場を広げていただきたい。
- 体育館、遊び場への親御さんの横断が多く、安全の為、総合体育館前の道路のスピード制限をフリーから30kmか40kmに落とした方が良いと思う。
- おあしす新川とサンウエルの間の山側十字路の停止線において、停止時、左方が見にくいいため、朝日町側のカフェの看板を移動してほしい。



- 結婚、出産の環境拡充は賛成だが、そもそも今の若者達に少しずつ「なぜ結婚するのか、子供を持つのか」の気持ち自体がなくなってきていると感じる。これに対しては教育しかないと考えており、各家庭はもとより、町、学校などでも関連する意識付けが必要と考える。
- 子育てにお金がかかるとの観点から、報道各社から一時良く伝えられたのが「税金のN分N乗方式（えぬぶんえぬじょうほうしき）」の検討である。内容に一長一短はあると思うが、効果が大きいと判断すれば、町税に導入してはどうか。
- 「それ行け！結婚プロジェクト」は、婚活とうたわれると結果を出さなければとプレッシャーがかかり参加しにくい。気軽に参加しやすいものもつくってほしい。
- 洋上風力発電について、観光資源としても活用したいとの町長の発言があったが、事務所（横山）へ行っても、紹介パンフレットではなく、町外の友人は落胆していた。クイズなどを入れた観光パンフレットを準備してほしい。
- 「のらんマイ・カー」と合わせて、ぜひ新幹線との連携も再度検討をお願いしたい。公共交通の拡充をお願いしたい。
- のらんマイ・カー、町バス（大型）の入れ替えは考えているのか。
- 入善駅西側、田中踏切付近の道路の凹凸がひどい。早く直してほしい。
- 町道における、ひびやへこみの補修をお願いしたい。
- 公園の樹木の整備は地区では難しい。
- 空き家が増加しており、その対応をお願いしたい。
- 一人暮らしの高齢者が、これからも増加すると思う。
- 人口減少は全国的な問題で、色々対策を立てながら少しでも遅らせたいと思うが、最終的には市町村の合併になっていくのかなと思った。今日は色々な意見を聞く事ができて良かった。
- 今住んでいる私たちが、いい町と思えることが一番大切ではないか。入ってくるではなく、外に出ない取組みも大切なのでは。
- 偽装離婚が多すぎるため、対応が必要である。
- 現役場の跡地の活用はどのように考えているのか。
- ストップ人口減少の取り組み、大変有難いと思う。子どもを産み育てやすい環境づくり、医療、福祉に力を入れておられることがよく分かった。地域住民の1人として、伝統文化や文化活動の充実を図ったり、地域の絆を大切にしていきたいと思う。
- 入善町には獅子舞の系統はいくつかあるが、それぞれ系統内での伝承が不十分で相当違いが生じている。正しく伝承するためにも、それぞれの系統ごとに研究会を開いてはどうか。
- まちづくり懇談会では、担当課の発言より町長の発言が目立つので、行政の姿勢が見えづらい。

### Ⅲ 地区議題

## 3. 青木地区

開催日：令和5年10月27日（金）

会場：働く婦人の家

## 議題Ⅰ「ストップ人口減少について」

### ☆住民

保育所の特別保育について、乳児保育や延長保育、この仕組みは素晴らしいのはわかるが、実際の延長保育や学童保育も含めて利用状況を教えてほしい。

### ★結婚・子育て応援課長

今ほど質問いただいた延長保育等については、令和4年度の実績として町内全体で1,139人が利用している。

延長保育は夕方の6時から7時までだが、5時から6時は居残り保育ということで行っており、その部分については、延べで4万7,724人が利用している。

なお、令和4年度の保育所の入所児童については、年度末で613人の児童が保育所を利用している。

学童保育については、各小学校区に1ヶ所ずつあるが、令和4年度で年間260日から270日の開所を行っており、こちらの青木地区がある上青小学校区の学童保育でいくと、去年は73人の児童が利用している。

今年度もたくさんの児童が利用しており、今年度においても72人の児童が登録している状況である。

### ☆住民

仕事の部分で、来年か再来年に東洋紡がどうのこうのという話もあり、アイシン系もそれなりの従業員を持っているが、アイシン系も電気になると、エンジン系が少なくともなくなる、今のままだと。

そうすると、少なくとも福島工場は半導だから、それほど影響はないが、本社の方は製造でエンジン関係の部品が結構ある。

そうすると、何らかの影響が出たりする。

言いたいのは、企業との連携や企業の実態、企業の連動というものをどうするかという情報から、町の対応が抜けているのではないかと。

### ★キラキラ商工観光課長

企業との連携など、そういった実情を把握してないのではとの指摘があったところであるが、町内にはアイシンさんだけではなく、いろいろな製造業がある。

東洋紡さんの話も出たが、実際コロナを経て、経済的にも大変な状況の中でも、町内企業で投資をたくさんしていただいている企業もある。

例えば、地元青木地区のシロウマサイエンスさんも、駐車場をこれからつくり、既存の駐車場を潰して、そこに新たな工場を増設されると伺っている。

ウーケさんでも、第4ラインの拡張の計画もあり、そういった中で町内の雇用もしっかりと確保されていくのではと考えている。

町としては、そのような増設などをした企業に対しては、いろいろな支援などを行っているほか、新たな動きとしては、サーモンの陸上養殖事業といった新しい企業の進出もある。

そういったところで、町でも雇用の今後の見通しなどを立てているところである。

#### ★副町長

アイシンさんの話を課長は言わなかったと思うが、確かに言われるように、EVに転換していくと、アイシングループの中でも、部品の数が増えたり減ると言われており、当然そういうことになるので、本町内にある2社については影響が出るのではないかと。

ただ、そのためにどうしていくかというのは、両会社とも真剣に考えておられる。

町長は高岡とかアイシン精機などへ頻りに訪問し、町の企業についての支援もお願いをしている。

確かに心配になるというところである。

#### ★町長

今ほど「ストップ人口減少」についての説明をさせていただいた。

そして、行政だけではなく皆さんの力を、是非借りたいということをお願いしたところである。

皆さんの周りに、あるいは家族の中に、町外、県外に行っており、いろいろな仕事についているとは思いますが、場合によっては帰ってこないかと呼びかけをお願いしたい。

こういった町の施策もいろいろとあるということについて、もしパンフレットなどを送ってやってほしいという要望があれば、町の方へ一報いただければ、手配をさせていただきたい。

いずれにしても、皆さんの情報が本当に大切であり、今後ともこの「ストップ人口減少」に向けた様々な情報提供を、是非お願いしたい。

## 議題Ⅱ 「青木地区設定のテーマ」

### (1) 国道8号バイパス4車線化の早期実現と地域振興について

#### ☆住民

町内では、国道8号線バイパスの4車線化の工事が進められており、朝夕の渋滞解消のためにも、早期開通が待ち望まれている。

## 〔青木地区〕

町でも県や近隣市町と連携して、早期実現のための要望を国土交通省に引き続き粘り強く働きかけていただきたい。

また、幹線道路の整備とともに、町内の主要な施設や観光地などへの案内掲示やアクセスを改善し、地域振興につなげていただきたい。

現在の8号線バイパスには、町内主要施設、観光地への案内掲示板などの設置が少なく、町外からの訪問者の方々には、分かりづらい現状があるのではないかと。

アクセスにも非常に困難があるのではないかとと思われる。

特に、海洋深層水活用施設、園家山キャンプ場、高瀬湧水の庭、杉沢の沢スギ、洋上風力発電施設などへの案内を充実させて、道路整備なども進めていただきたい。

道路整備に合わせて、町の特長を生かした企業誘致や産業振興、観光振興などを引き続き積極的に推し進め、地域振興を図っていただきたい。

方法の一つとして、バイパス沿線に道の駅を設置することも検討いただきたい。

また、せっかく設置されている町の案内掲示板について、既に劣化して文字が消えているものもあり、誤って農道や町民の方々の家のほうに観光客の車が進入しているという現状を耳にしている。

早期の改善を図っていただきたい。

### ★建設課長

国が進めている国道8号入善黒部バイパス事業については、バイパス区間と現道拡幅区間があり、このうち魚津市江口から入善町上野までのバイパス区間は、新幹線の開業に合わせて、平成27年3月から暫定2車線で供用されている。

現在は、現道拡幅区間の入善町櫛山から上野間において、国の直轄事業により用地買収や工事が進められている。

4車線化の時期については、国は令和3年4月に、現道拡幅区間について、今後5か年程度で開通の見通しであると公表している。

また、バイパス区間については、令和3年4月に、今後5か年程度で4車線化工事の着手を目指す公表している。

町では、国道8号入善黒部バイパスの整備促進について、毎年、国や県に要望しているところである。

加えて、滑川市、魚津市、黒部市、朝日町、入善町の5市町で国道・バイパスの建設促進を目的とした「朝日滑川間国道・バイパス建設促進期成同盟会」を立ち上げ、他市町とともに要望活動を実施している。

また、国道関係の各種協議会で実施している意見交換会や要望活動にも積極的に参加し、国及び関係機関に要望しているところである。

今後も引き続き、国道8号入善黒部バイパスの早期4車線化整備促進に向けて、国に対して、強く働きかけていきたい。

続いて、町内主要施設へのアクセス道路整備について回答する。

町では、幹線道路網計画において、主要施設や観光施設へのアクセス道路の整備を計画的に行っているところである。

令和3年度には、海洋深層水施設から園家山キャンプ場までを結ぶシーサイドロードが開通し、今年度は丸川病院からの延伸道路で、県道入善宇奈月線から現在建設中の入善町新庁舎へのアクセス道路を整備中であり、今月初旬には開通を予定している。

今後とも継続して整備を行っていききたいと考えているが、路線によっては、財源の問題や関係者との調整を要することから、計画通り整備が進まない路線があることを理解いただきたい。

また、国道、県道の整備についても、引き続き強く要望していきたい。

なお、事業化となった際には、地元住民の皆さんや地権者の方の協力と理解をお願いしたい。

#### ★キラキラ商工観光課長

バイパスの案内表示板の設置と地域振興に関する提案について回答する。

まずは、国道8号入善黒部バイパスへの案内掲示板の設置であるが、この国道8号バイパスについては、災害発生時における避難、救助をはじめ、物資供給等の活動を円滑に行うため、緊急車両の通行を保持する重要な路線となっており、歩道を含む道路敷地内への構造物の設置に関しては、一定の制限が設けられている。

そのため、各種施設へ誘導する案内掲示板の設置については、緊急時の通行の妨げにならないよう、道路敷地内の農地や宅地などへの設置となることから、町としては、その必要性などと合わせて、効果的な案内表示の設置について検証を続けていきたい。

また、指摘いただいた看板の劣化の件であるが、特に地元の杉沢の沢スギへの既存の案内看板については、劣化を承知しており、今、修繕を依頼しているところである。

年内にはしっかりとした表示とするので、今しばらくお待ちいただきたい。

続いて、企業誘致などの推進による地域振興について申し上げる。

町ではこれまでも、町の特徴を生かした企業誘致や産業振興などに取り組んでおり、今年度、新たにカナヤママシナリー株式会社、改めカルバオン株式会社が竣工したところである。

また、今月10月17日には入善マリンウィンド合同会社による洋上風力発電所の竣工式が行われ、多くの注目を集める状況となっている。

## 〔青木地区〕

さらに下飯野地区においては、三菱商事とマルハニチロが出資する合弁会社のアトランド株式会社がサーモンの陸上養殖事業を行うこととしている。

町ではこうした企業の進出などを観光振興にもつなげていきたいと考えており、とりわけ洋上風力については、町の新たなランドマークとして、その活用の検証をしているところである。

今後においても、入善町の特徴を生かした地域振興を図っていききたいと考えている。

次に道の駅について申し上げる。

道の駅は「休憩機能」や「情報発信機能」、「地域の連携機能」を併せ持った施設であり、近くではお隣の黒部市において、昨年春に「KOKOくろべ」がオープンしたところである。

道の駅については、町の特色や良さなどを発信する拠点として、効果が期待できる施設ではないかと捉えている。

ただ、その一方で、他の施設との差別化や採算性の確保、そういった施設の運営面における課題も多いものと認識をしている。

このようなことを踏まえながら、道の駅の設置については、今後のまちづくりの一つの方策として検証していきたい。

## （２）安全・安心のまちづくりについて

### ☆住民

町の人口に占める高齢者の割合が増えており、高齢者向けの安全対策を推進していただきたい。

特に、県内の市町村で高齢者の用水転落事故が急増している。

黒部川扇状地の大部分を占める入善町では、良質な水の生産地であり、町内全域に用水路が張り巡らされている。

用水の土手の草刈り作業は負担が大きく、近年、用水ののり面に防草シートが貼られているところが増え、滑って転落しやすく、用水への転落防止の安全対策を町、土地改良区、地区と一体化して取り組みをしていただけないかという要望である。

次に、道路等の危険箇所、長年の使用で不備になっている箇所の改善を図っていただきたい。

特に旧国道などでは、見とおしの悪い交差点が多く、止まれの表示の改善やミラーの設置などの安全対策を順次進めていただきたい。

町道の側道帯の白線が車両の往来や経年劣化により、消えている箇所も多くある。

白線の塗り替え作業など、安全対策をあわせて要望したい。

★建設課長

農業を基幹産業とする入善町では、町内の至るところに農業用水路が張り巡らされている。

入善町の農業用水路の延長は用排水路合わせて約 690 キロメートルあり、そのほとんどが約幅 1 メートル未満の水路で、水路での転落死亡事故の約半数は、この 1 メートル未満の水路で発生している。

また、転落死亡事故のうち、多くは高齢者である。

町では、農業用水路の転落防止対策として、ハード事業を国や県の補助事業を活用しながら、小中学校の通学路や住宅密集地などにおいて、危険性の高い箇所から優先的に防護柵の新設や更新に取り組んでいる。

しかしながら、全ての農業用水路に防護柵の設置等ハード対策を行うには限界があることから、町ではソフト対策を推進している。

ソフト事業としては、事故防止のチラシ配布、児童や高齢者を意識した啓発活動の強化や、危険周知看板等の設置などとともに、県や町、土地改良区のほか自治会や多面的機能支払活動組織などの地域組織と連携し、地域の身近な危険箇所や安全対策について話し合うワークショップを開催するなど、地域ぐるみの安全対策推進に取り組んでおり、当青木地区においても、昨年ワークショップを開催したところである。

また、令和元年度より、多面的機能支払制度を活用したセミハード事業として転落防止網やポールコーンなどの設置が可能となったところである。

町としても、引き続き、国や県の財源を確保しつつ、土地改良区など関係機関と連携するとともに、ソフト、セミハード、ハード対策を積極的に実施し、地域住民の協力を得ながら安全な地域づくりを推進していきたい。

次に、見通しの悪い交差点のカーブミラーの設置については、毎年、各地区からの要望を受けて順次設置をしているところである。

また、路側帯の白線については、町では、毎年、春と秋に安全施設工事を発注しており、その中で、区画線の引き直しを行っている。

ただし、町の管理する町道が約 490 キロメートルあり、現状では、幹線道路から優先的に施工している。

カーブミラーや区画線の設置を要望される場合は、まずは要望書の提出をお願いしたい。

その後、現場を確認し検討したいと思うが、町では、危険性、緊急性の高い箇所から優先して対応している状況であり、早期に実現できない場合もあることを理解いただきたい。

次に、止まれ文字及び標識や停止線については、規制標識であるため、富山県公安委員会の管轄になる。

町では設置及び改善ができないので、改善の要望がある場合は、直接、入善警察署に要望していただくか、町に連絡いただければ、町から入善警察署に申し入れたい。



〔青木地区〕

☆住民

私の家の近くで、県道と町道が交じているところがあり、県道の方にカーブミラーをつけるのは入善町に申請してもよいのか。

★建設課長

町道から見て、県道の見通しが悪いということですか。

その場合は町に要望いただければ、町で県の占用なり申請したいと思う。

### (3) 高齢者が生き生きと活動できる地域づくりについて

☆住民

課題、問題点として、高齢者の団体「福寿会」が解散しているところが増えていると聞いている。

青木地区も例外ではなく、敬老会への出席率も低調である。

高齢者の方々同士のつながりが希薄になり、孤立化につながっていくと思う。

また、一人暮らしの高齢者が引きこもってしまうことも懸念される。

高齢者が生き生きと活動できる施策を町と地域が協力して進めていく必要があると思う。

町としての提案などを聞かせてほしい。

★保険福祉課長

まず、老人クラブいわゆる福寿会について、福寿会は地域における高齢者活動の中核的な組織であり、高齢者の健康・生きがいづくりや地域交流、様々な地域貢献活動を推進する上で重要な役割を担っている。

しかしながら、青木地区においては元々5つの福寿会があったが、解散や町福寿会連合会を退会したクラブがある状況であり、町全体においても、特に近年、新規の入会が少ない、会員の高齢化で参加が減った、役員のなり手がいないなどを理由に福寿会連合会からの退会や単位クラブの解散というところが増えてきている状況である。

町全体のクラブ数は、平成17年度までの61クラブをピークに、令和5年度現在、町福寿会連合会加入のクラブでは35クラブ、連合会に加入せず独自で活動を継続しているクラブもあるが、減少傾向にあり、老人クラブの会員数とクラブ数の減少は全国的な傾向でもある。

福寿会の減少は、地域社会の人間関係の希薄化が見られる今日、地域社会の活力に影響を及ぼすことが危惧され、地域の組織力低下にもつながる課題と捉えており、町では今年度、単位クラブに対する活動補助金の拡充を図ったところである。

しかしながら、会の存続は予算だけの問題ではないことも承知しており、会員減少に関して町福寿会連合会から相談を受け、全国の対策などの先進事例の情報提供なども行っているところである。

また、福寿会への活動支援のほか、町における高齢者の生きがい対策の取り組みとしては、これまでの各種生きがい教室や高齢者スポーツ大会の開催、シルバー人材センターへの運営支援などに加えて、近年、全国カローリング大会をはじめ、健康マージャン交流大会、高齢者向けのスマホ教室の開催、あるいは県内市町村と連携して世代間の交流や、高齢者の外出機会の促進を図る「孫とお出かけ支援事業」などを展開している。

そのほか、介護人材の確保対策も兼ねて、元気な高齢者も介護事業所で介護サポーターとして活躍を図る、介護サポーターポイント事業なども取り組んでいるところである。

福寿会などの地域における活動組織が衰退することは、地域にとっても大きなデメリットになると思われる。

青木地区ではコミュニティパートナーシップ協議会が組織されているほか、昨年度行われた地域福祉懇談会での意見を取りまとめた青木地区地域福祉活動計画には、3つの地域課題として「地域関係の希薄化」「高齢者の生活支援」「役員のなり手・地域活動の担い手不足」を設定し、令和5年度から5ヶ年の活動計画を策定されたと伺っている。

少子高齢化、人口減少やライフスタイルなど社会環境が変化する中、このような地域における協議の場などを通じて、まずは地域課題の共有を図っていただければと思う。

なお、高齢者の活動に関する相談があれば、気軽に役場保険福祉課の高齢福祉係まで問い合わせいただきたい。

いずれにしても、高齢者の社会参加は、自身の健康状態の改善と幸福感の向上、あるいは孤立感の軽減をもたらし、健康になることで人々が活動し、活動に参加することで健康が増進されるという好循環にもつながると思われる。

人生100年時代と言われる今日、町としても、高齢者が生きがいをもって活躍することができる機会を創出し、生き生きと健康に暮らすことができるよう、地域の関係団体と連携し取り組んでいきたいと思っている。

#### (4) その他

##### ☆住民

先ほどの8号線の関係で、令和3年から5年計画で完成するという話をしていた。

町の方は、4車線化が着実にできているように見受けられるが、一部供用が先になるということはあるのか。

魚津までの供用開始と一緒にすると、出来ても2車線でこのままでいくのか、一部町の方がだいぶ渋滞しているが、町の方の4車線化だけ先に供用開始することはあるのか。

〔青木地区〕

★町長

先ほども担当が説明をしたが、令和3年に国交省からは、柵山から上原間を5年以内に完成をさせる、あるいは、そこから魚津までの間は5年以内に着工するという返事をいただいている。

従って、入善町区間、上原までの区間であれば、来年度～再来年度までには完成をさせていく、そこでまず供用開始になると思う。

それ以降、魚津までの2車線化ということであるが、当然のことながら黒部大橋の架け替えも出てくるため、相当時間数がかかり、次のステップになっていくということを理解いただきたい。

入善町の区間、あと2年間と言ったが、今、入善西中学校の8号線横断については地下アウターが出来上がった。

この後、入善高校の前も今工事に入っており、そこからもう一步向こうに行つて入善中学校へのアウターの工事も入っていかなければならない。

そういったことがまだまだあるので、2年余りかかるということを理解いただきたい。

それが出来上がって、初めて4車線化の開通になるということである。

☆住民

一言で言うと、地区との連携がないのではと言いたい。

これで町長は10年「ストップ人口減少」に取り組んでいるが、日本中の問題であり、そのとおりになっているところはほとんどない。

もちろん、それほど難しい問題であるということは、皆さんわかっているはず。

役場だけで、金やるからどうだこうだだけで済む問題ではなく、地区との協力を考えないといけないと思う。

★町長

過去を振り返ってみると、平成元年には人口が2万9,800人まもなく3万人、入善が市になるのかと言われた時期もあった。

そういった中から、残念ながら徐々に減少し、今現在に至っているという状況である。

先ほども挨拶の中で申し上げたが、行政だけではなかなか解決できる問題ではなく、国全体の問題でもある。

そういった中で、基本的には1人でも多くの子どもが生まれ育つ、そして皆さんが健やかに生活できるまちづくりをしていく、その上で入善町を選んでいただいて、1人でも多くの方に入善町に来ていただき生活をしていただく。

この3つの柱に向かって我々も一生懸命取り組んでいるわけであり、そういった中で、また皆さんの貴重な意見などを参考にさせていただきながら、場合によっては力添えを借りな

がら、何とか1人でも多くの方に入善町で生活していただける、そういう取り組みをしていきたいと思う。

ただ、残念ながら国全体が減っているということであり、その辺は大変厳しい状況にあるということを理解いただきたい。

## ■ 「ご意見カード」より ～ 青木地区の皆さんからの意見や提言 ～

- ストップ人口減少として、年の若い方達の懇談会を進めればよいと思う。
- 婚活パーティーは、入善町の枠を超えて企画できないものか。子どもが結婚していないが、入善町でのイベントには参加しづらいそうである。
- 洋上風力発電がサイクリングの目印になるが、横山から園家山までの海岸サイクリングロードの整備をお願いしたい。吉原から高瀬までの道は狭く車とすれちがいが出来にくく、事故等が懸念される。海側へのロードの移動はどうか、海、能登半島、白馬岳も良く見える。海岸道路は車両進入禁止としたりしてはどうか。
- 町では町民生涯スポーツとして「全国カローリング大会」があり、ねりんピックで第1回全国大会を入善町で開催し、今年度は県内でのチャンピオン大会に64チーム中7チームが入善町から出るようになった。このうち、青木地区からは3チームが出場することになっている。これらを見ると入善町のカローリングが推進しているように思われる。ところが、年数とともに資機材の補充も必要になってきているので、ぜひとも、バックアップをお願いしたい。
- 排水路での事故防止対策、落下防止対策をお願いしたい。
- 空き家対策、草等対策、環境美化への対応をお願いしたい。
- 平成29年度版のバックヤードに当時の企画財政課長が懇談会内容を文章化して、問題、要求の進捗状況が見える化し継続していきたいと記入されているが、メインテーマだけでなく、その他のテーマにもとても良い意見がある。ぜひ、メインテーマ+当日テーマもバックヤードに載せて頂きたい。

・・・6件（7事項）

### Ⅲ 地区議題

## 4. 飯野地区

開催日：令和5年10月19日（木）

会場：飯野コミュニティ防災センター

## 議題Ⅰ「ストップ人口減少について」

### ☆住民

人口減少に関して、転入と転出の関係はどうなっているのか。

若者が育った後、都会へ勉強しにいきそのまま帰ってこないということは、若者も相当減る。

入善町でも新しい企業を誘致して、働く場所を確保するなどの考えはあるのか。

### ★企画財政課長

転入転出については、やはりこの人口減少を抑えるために最も重要な指標になる。

現状としては、令和4年度は転入を転出が178人超えている状況である。

今年度についても、9月末現在で39人転出が多いという状況である。

ここ数年は200人前後の転出超過で、入善町に来られる方よりも入善町から出て行かれる方が多いという状況が続いている。

ただ、町長就任以来、この「ストップ人口減少」を掲げて、雇用の創出や企業誘致にも力を入れ、移住・定住に係る手厚い支援などを行うことで、一時、平成28年度に転入・転出が拮抗したという場面もあった。

転入超過とまではいかなかったが、その年は転出が約4人ほど超えてしまったというときもあった。

その後、いろいろと策を講じてきたところだが、残念ながら特に大きな影響として、令和2年度以降のコロナの関係で、人の流れがずいぶん鈍ったところである。

しかし、今年度に入りコロナも一定の落ち着きを見せており、町も一生懸命、移住・定住施策や働く場の創出といったことに改めて努めている。

こういったことで転入の増加というものを図っていきたいと考えている。

### ★町長

私どももいろいろな企業に対して、入善町への進出といったアプローチをかけている。

ご存知のように、先月には黒部市からカルバオンという会社が上飯野地内で新しい工場を建設した。

また、去年からシロウマサイエンスも、敷地内で工場を増設したいということで、中にある駐車場を外側に出しておられる。

あるいは、先ほど申し上げたサーモンの陸上養殖やウーケも4期目の増設を計画している。

このように、いくつもの企業が頑張って増設なり、新たに新設をしているわけであるが、残念なことに、働き手がいらないということで、なかなか工場を思い切って進出できないという実態もあることを理解いただきたい。

企業が募集をかけてもなかなか定員まで埋まらないというのが今の厳しい状況である。

こういったものは、人口減少が大きく影響してきているということである。

また、今年度中に、かつて3,000人を超える従業員がいた東洋紡績が撤退をすることとなった。

50ヘクタールを超える敷地があるわけだが、何とか企業誘致などで埋められる方法はないだろうかと考えている。

今日、大手総合商社が町へ顔を出され、その場でも何か情報いただけないかとお願いをしたところである。

そういった点で、企業にどんどん進出していただきたいわけだが、いかんせんそこで働く方が確保できないという大きな問題があるということを理解いただいた上で、私どもが進めるこの「ストップ人口減少」の施策に協力いただきたい。

特に、皆さんの周りに、あるいは家族の中に、東京や県外に出ておられる方々、可能であれば帰ってきていただきたいというアプローチを是非お願いしたい。

もし町のパンフレット、リーフレットなどを送ってほしいということであれば、役場に一報いただければ、いろいろな資料を送りたいと思っている。

いろいろな情報を皆さんと一緒に町外の方々に発信をして、1人でも多くの方々に地元に戻ってきていただく、あるいは町外から入ってきていただく、入善町に住み続けていただくというような取り組みをしていきたいので、どうか力添えをいただきたい。

#### ☆住民

「ストップ人口減少」の話があったが、人を増やすにはどうすればいいか。

経済効果があるような政策を他県はいっぱい持っている。

町だけでは解決できない問題を述べさせていただくと、やはり教育である。

入善中学校が初めて県駅伝で優勝した。激励金は出していると思う。

ただ、垂れ幕を役場の前や中学校の前、体育館の前などに掲示すれば生徒の励みとなる。

同時に、役場前は他県の車が入り出すので、小さな町で優勝した、スポーツに熱心だとPRになる。

このストップ減少について、町はこういう問題に取り組んでいることを発信並びにPRを兼ねて、広報でも何でも構わないので知らせていただければありがたい。

#### ★教育長

入善中学校の駅伝について、優勝したということで激励金は当然出させていただく。

垂れ幕については、北信越大会が11月25日、全国大会が12月17日にあるため、それに向けて当然準備していこうということで教育委員会と学校で話をしている。

入善町の中学校が頑張っているところを是非PRしていきたい。

〔飯野地区〕

入善町で初めての優勝と言われたが、平成4年に入善西中学校も優勝しており、入善町としては2回目の優勝ということで、おめでたいことだと思っている。

## 議題Ⅱ 「飯野地区設定のテーマ」

### （１）防犯及び交通安全活動に係る組織体系について

☆住民

地域の安全・安心を支えるのは、地域住民による地道な防犯や交通安全活動である。

飯野地区においても、ずっと昔からこれらの活動を支えるため、それぞれ必要に応じて、組織づくりがなされて今に至っている。

しかしながら、近年、加速度的に少子高齢化が進展し、特に子どもの数が急激に減少した上、核家族化による地域の偏在がみられるようになってきている。

子どもは地域の宝である。

通学時間帯でも子どもの姿を見る機会が少ない地区もある。

疎らにしか通らない交差点で立哨するには虚しさも感じる。

一方、地区内においては、高齢者のみや一人暮らしの家庭が増えてきており、活動組織を支える適任者を選出するのも困難な状況にある。

これにおいて、提案する意見のポイントを説明する。

主な防犯・交通安全活動組織として、一つには交通安全指導員がいる。

二つ目に、青色防犯パトロール隊、飯野地区防犯パトロール隊、黒東安全協会飯野支部があげられる。

それぞれの活動においては、歴史的な経緯があると思われるが、今一度、他のものと重複していないか、また現状に即したものになっているか、検証してみる必要があるのではないかと。

その上で、有機的に組織同士の連携が図れるような、包括的な運営方法を検討してはどうか。

実態として、地区から上記活動組織の委員等を推薦するには、適任者がなかなかおらず、区長や区長経験者等においてお願いし兼務することも多くなってきている。

今後も地域の防犯・交通安全活動は昨今のネット社会、防犯等の報道を見るたびに地域の見守りが犯罪等の抑止力になると確信している。

そのためにも、地区住民が参加しやすい組織の役割や体系等の簡略化を含めて、見直ししてはどうかということをご提案したい。

これについては、飯野地区に限らず入善町全体を見回すと、どこも同じような問題を抱えているのではないかとということで、ここに提案する。



## ★総務課長

飯野地区の皆さんには、犯罪のない安全・安心なまちづくりのため、防犯啓発活動や青色回転灯を使用した防犯パトロール活動などに加え、悲惨な交通事故を防止するため春夏秋冬の交通安全運動や、毎月1日、15日の「交通安全県民の日」などの街頭指導、啓発活動などに取り組んでいただいている。

どちらも地区を挙げ、年間を通じて積極的に取り組んでいただいております、まずもって感謝を申し上げます。

おかげさまで、県内における窃盗犯罪などの刑法犯の認知件数は年々減少しており、町内においては、10年前の平成25年の87件が、令和4年には46件とほぼ半減しているほか、町内における人身事故の発生件数についても平成25年の67件が、令和4年には20件と大幅に減少していることから、皆さんの精力的な活動が犯罪の未然防止、抑止あるいは交通事故の未然防止につながっているものと考えている。

しかしながら、コンビニ強盗の未遂事件をはじめ、児童・生徒への不審な声掛け事案、住宅等への侵入窃盗や自転車盗、車上荒らしなどの犯罪は、依然として町内で後を絶たない状況であり、交通事故についても、町内の人身事故発生件数の半数以上が高齢ドライバーによる交通事故であることから、交通・防犯への取り組みに対し引き続き皆さんの協力をお願いしたい。

交通・防犯活動の担い手となる組織については、警察や各協会、県、町等のバックアップのもと、黒東交通安全協会各支部、交通指導員会、交通安全アドバイザー連絡会、交通安全母の会などが交通安全活動に取り組んでおり、各地区防犯組合、防犯連絡所、防犯パトロール隊や青色回転灯防犯パトロール隊などが防犯活動に取り組んでいる。

先ほど指摘のあった4つの活動組織について、さらに説明をすると、まず交通指導員については、交通事故防止を目的に、県警と町が指導員を委嘱し、街頭での交通指導や交通安全広報活動を中心に行っていただいている。

青色防犯パトロール隊については、地域犯罪の未然防止を目的に、警察の認証を受け、運輸局に登録された車両に青色回転灯を装備した上で、専ら車両により地域内の防犯パトロールを自主的に行っていただいている。

次に、地域防犯パトロール隊についても地域犯罪の未然防止を目的としているが、特に児童・生徒の登下校時を中心に、徒歩による地域内の防犯巡回、あるいは防犯を呼びかけるステッカーなどを貼った車両等により、自主的に地域内の防犯パトロールを行っていただいているほか、防犯意識の高揚を図るため、窃盗犯罪などの注意喚起看板の設置など地域の啓発活動を行っていただいている。

黒東交通安全協会の各支部においては、歩行者・自転車・自動車運転手など、すべての道路利用者への交通安全思想の普及と交通事故防止を目的に、入善警察署と連携しながら、交

[飯野地区]

通安全に係る広報、教育、啓発活動を通じた交通安全事業や交通安全運動を行っていただいている。

このように、多くの組織が様々な活動に取り組んでいることから、指摘のとおり活動内容については一部重複しているものや類似しているものがあると考えているが、基本的には各組織が自主的に活動内容について協議、検討、決定し取り組んでいることをまず理解をいただきたい。

また、町では、交通・防犯対策の包括的な取り組みを推進するため、「入善町交通安全対策協議会」及び「入善町安全なまちづくり推進センター」をそれぞれ設けており、先述の活動組織を含め、関係行政機関や民間企業、事業所、学校や福寿会などの推進関係諸団体と連携運営体制を整備し、町内一丸となって対策を進めているところである。

町では、地区住民の皆さんによる交通事故の防止活動、犯罪の抑止活動が一番効果的であると考えており、加えてそれぞれの活動組織が熱意や使命感、やりがいや目標などを持ちながら活動に取り組んでいることから、活動組織の拙速な役割の見直しや改廃などについては非常に難しいものと考えている。

しかしながら、指摘のとおり、少子高齢化や核家族化、人口減少の進展などにより、役員の成り手不足が大きな課題となっていることから、地区住民の参加しやすさなどを念頭に置き、活動の効果検証や組織のスリム化の是非などについて、交通安全対策協議会など連携会議の中で投げ掛けをしていきたい。

また、街頭指導への対応については、通学する子どもだけではなく、通勤ドライバーへの交通・防犯啓発効果も非常に高いものと考えており、子どもやドライバーが頻繁に通学路や幹線道路などへ重点的に人員を配置するなど、地区の事情や裁量に応じて柔軟な対応をお願いしたいと考えている。

## (2) 西入善駅を活用した入善町西部地区の活性化について

☆住民

私は60歳をだいぶ過ぎていますが、小さい頃から西入善駅を利用してきた。

高校では通学に、社会人となってからは長年通勤に利用し、現在も週4日利用している。

この間、鉄道の運営が国鉄、そしてJR西日本、あいの風とやま鉄道と変わった。

それと同じで駅周辺も様変わりしている。

今は車社会になったこともあり、なんとなく駅周辺を含めた地域の活気がなくなったように感じるのは、私だけだろうか。

そうということで、議題2の概要説明をさせていただく。

まず、鉄道は環境に優しく定時性があり、通勤・通学等には欠かせない公共交通である。

今はあいの風になってから、だいたい30分から40分に1本程度運行されており、私は通勤に使っているが、西入善駅からは必ず座って目的地まで行くことができる便利な公共交通である。

西入善駅は開業から約60年余り経っており、入善町西部地区においては重要な交通結節点、ターミナルとなっていると思う。

利用客の減少に伴い駅周辺がかつての賑わいを失い、その利便性がなんとなく認識が薄れつつあるような気がする。

補足すると、開業が昭和35年7月1日、令和4年調査では1日あたり乗車人数が154人である。

かつては、酒屋さん、雑貨屋さん、洋品店、自転車屋さん、床屋さん、美容院、郵便局、そして西入善タクシーなどがおられたが、今はだんだん減り、自転車屋さん、床屋さん、郵便局と少なくなってきた。

西入善駅へのアクセスには自転車や自動車の利用が多いが、駅前広場は狭く、歩行者と車両が混在して危険である。

駅前広場には、駐車場や駐輪場が整備されているが、朝夕の通勤通学帯では、送迎の車が多く、ひやひやすることもある。

次に、観光の面から考えると、近隣には高瀬湧水の庭、黒部川湧水群、そして海洋深層水利活用施設、園家山キャンプ場などが点在している。

西入善駅から1～3キロメートルぐらい離れており、徒歩で行くのは厳しい状況である。

その他にも、入善牡蠣ノ星、近ければカギタエさんというフレンチなど、いろいろな飲食できる施設もある。

今、概要説明をしたが、議論、意見交換のポイントを説明したいと思う。

駅前広場を再整備することにより、車両等のスムーズな乗り入れを可能とし、交通事故の危険性が軽減できるのではないかということ。

駅前には町道が3方向から乗り入れして、T字路やクランクになっており、見通しの悪い箇所もある。

また、駐輪場や駐車場の配置などもあり、見通しを悪くしている。

次に、近年よく言われるが、パークアンドライドを促進することが大事だと思っている。

近年利用者が減少し空きが目立っている町営駐車場の無料区画の拡大や、利用料の低額化を検討してはどうか。

入善町町営の駅前駐車場は50～60台が止められるかと思う。

ちょっと調べると、ひと月3,500円ということと、無料区画が5台あるということである。

あいの風とやま鉄道は駅前のところに10台駐車するスペースがある。

次は、駅から観光施設へのアクセスを容易にするための方策を検討してはどうか。

## 〔飯野地区〕

例えば、「ウチマエくん」はあるが、レンタサイクルを駅前に設置し移動しやすい手段を設定してはどうか。

また、観光施設や飲食施設のマップやルート案内をしてはどうか。

この前、天気がよく自転車で行ってみたが、なかなかいい施設が点在しており、時間的にも1時間ほどで回ってこられる非常にいいところだなと思った。

ハイキングコースを検討するのもひとつの手だと思う。

次に、あいの風とやま鉄道とも、駅前の整備や利活用方法について、意見交換を積極的に行なっていただければいいのではないかと思う。

西入善駅周辺には、あいの風とやま鉄道がJRから引き継いだ土地も広くあり、やはり整備にあたっては、鉄道の協力が欠かせない。

未利用の土地を活用して駅前の再整備計画、夢のある計画を作してほしい。

私だけではなく、こちらに集まりの中にも西入善駅を利用している方が多々おられると思うので、いいアイデアがあれば提案していただければと思う。

### ★キラキラ商工観光課長

現在の西入善駅前については、東、西、南の3方向からの動線が交錯しており、今ほど指摘があったような状況で、駅前駐輪場の位置が悪く見通しが悪い状況となっている。

また、朝夕のラッシュ時には送迎や通勤通学など駅前駐車場付近を中心として、車両の輻輳が発生しており、道路と駅前広場の境界が曖昧なことなどからも危険な状況になっていると認識している。

こうした状況を踏まえ、町では現在、西入善駅前の再整備に向けて、あいの風とやま鉄道が運営する「駅前駐車場」の「町営駐車場」への移設や「駐輪場」の移設、改修について、あいの風とやま鉄道との間で協議を進めているところである。

今後の取り組みとしては、今年度中に駅前広場の再整備に向けた実施設計を行い、来年度以降、駅前広場の再整備工事に着手する計画としている。

提案いただいたパークアンドライドの促進であるが、指摘のとおり町営駐車場の区画の見直しなどの取り組みが不可欠であり、あいの風とやま鉄道の駅前駐車場の移設などを踏まえ、今後の運用や活用について検証を進めていきたい。

また、西入善駅から観光施設等へのアクセスについては、現在の状況は、徒歩あるいはタクシーを活用した移動のみとなっている。

飯野地区には高瀬湧水の庭や海洋深層水活用施設、園家山キャンプ場などが点在しており、町の観光エリアの一つとなっていることから、提案のあったレンタサイクルや「ウチマエくん」による移動手段の導入というのは、観光施設の入込客数などに一定の効果があるのではないかと考えている。

ただ、その導入にあたっては、利用ニーズなどの調査も必要というふうに考えており、今後の課題として検証していきたい。

### (3) その他

#### ☆住民

高瀬湧水の庭の水飲み場について、最近、県外ナンバーの車がとても増えている。渋滞することもある。

朝は5時ぐらいから夜は11時ぐらいまで、皆さん30分から1時間ぐらいかけて、水を汲んでいかれる。サイクリング、トラックの人達も休憩をしていく。

しかし、自分の家の前で小便をする人がいる。注意をすると喧嘩になり、警察を呼ぶこともある。

そこで看板、カメラを設置したが、あまり効果があるとは思えない。苦しんでいる。なんとかしてほしい。

#### ★キラキラ商工観光課長

高瀬湧水の庭については、先ほど申し上げたように町の観光名所の一つとなっており、連日大勢の方がおいでになり、人の流れが途絶えないという状況が続いている。

地元の皆さんにはそういう方々を温かく迎えていただいているが、中には今ほど指摘があったような大変マナーの悪い方もいると伺っている。

改めて、この状況を聞いたので、どのようなことができるのか考えさせていただきたい。

#### ☆住民

今、地方議員の成り手がおらず、入善町も一緒だと思う。

もちろん給料が安いなど、もろもろの問題があると思うが、議員がいなくなると行政そのものが動かない。

議会の方でどのように捉えているのか。

また、傍聴席に町民がどのくらい来ているのか教えてほしい。

#### ★副町長

議会のことについては、町議会議員の皆さんがいるので、議員の方から少し話をいただければと思う。

#### ★鍵田町議会議員

私は議会改革特別委員会の副委員長をやっているが、私達議員もある程度魅力ある議会にしたいと考えている。

〔飯野地区〕

一時、入善町の給料が安いのではということで調べてみたところ、数千ある町の中で、高い方のベスト100の中に富山県の町議員が入っていた。

その中で一番高いのが入善町であった。

それをもう少し上げて、私の考えでは議員になったから子どもを大学に出せないとか、専門学校に出せないとか、そういうのをなくしたいなという考えがある。

ただ、金額を上げるのも町民の皆さんの同意が必要であり、皆さんの提案がなければならぬと思う。

議員の成り手不足を解決するため、また女性の議員がどうやったらなってもらえるか、先日、秋田と山形へ視察に行ってきた。

いろいろと勉強したが、それなりの確実なことはなかなか見つからなかった。

これからも一生懸命勉強し、あと2年後までには結果を出したいと思っている。

★議会事務局長

傍聴の件については、手元に数字がなく感覚的に言うと、多いときで傍聴者は15人から20人ぐらい、少ないときは0人ということもある。

ただ、傍聴席に来なくてもケーブルテレビで議会放送を流しているほか、インターネットでも見ることができる。

議会としては、傍聴席に来ていただければ大変ありがたいが、是非ケーブルテレビやインターネットで議会を見ていただいて、関心を持っていただければと思う。

■ 「ご意見カード」より ～ 飯野地区の皆さんからの意見や提言 ～

- 防犯パトロール隊と青色回転灯防犯パトロール隊の合流をお願いしたい。
- 防犯カメラの設置状況を知りたい。
- 防犯カメラの設置をお願いしたい（不審者、子供行方不明、高齢者徘徊、ひき逃げ、強盗、警察の負担減）。
- 旧国道8号線の上飯野（西）交差点に右折信号を設置してもらえないか。
- 災害後、避難所において仕切りを用意してほしい。
- 地域コミュニティの強化として、若い方々が気持ちよく各行事に参加できるような状況づくりが大切である。しかし、これを当たり前にするのは難しいと思われる。
- 昔から住んでいる住民が魅力を感じなければ、子どもたちは出ていくのみ。私の子どもや同級生はほとんど町外へ出ていった。

- あたえる施策だけでは出生率及び人口は上がらないと思う。将来に安心感がもてる、また町としての魅力を上げる施策が必要。
- 結婚に関しては、昔おられた「やり手ばあさん」的活動が必要ではないか。今のやり方では、はずかしいと思われる人が多いのではないか。せつかく各地区に委員がおられる。
- 保育料について、第1子から町の負担を増やしてほしい。
- 学校給食の無料化をお願いしたい。
- 人口減少によりボランティアの負担が増加する。シンプルにできないか。
- みらーれテレビで時間を決めて体操の放送を入れてほしい。家で体操ができれば、じいちゃん、ばあちゃんも元気で長生きできるのではないか。1日2回がいいと思う。
- 金さん銀さんの他に、飯野に老人ホームを設置できないか。
- 大きな老人ホームをつくり、関東地区から入居者をつのってはどうか。東京近辺より安くなる、人口も増える、お世話する人も来る。
- 花見（桜）ロードを整備してほしい。コスモ21近くの農業用水路沿いに立派な桜並木が海岸まで続いている。しかし、農業用道路の為か、草が生い茂り歩道としては利用されていない状況だと思う。飲食施設も近いことから整備してはどうか。
- 地域資源である黒部川を利用したレジャーラフティングなどの川遊びを検討してはどうか。
- 深層水を活用したスーパー銭湯及び宿泊施設を設置できないか。
- 入善牡蠣ノ星の近くに、オートキャンプ場又は宿泊施設を設置できないか（黒部市のコンテナホテルetc）。
- 黒部川堤防沿いの陸地に風力発電機を設置できないか。
- 黒部川の河口グラウンドにパークゴルフ場の設置できないか。
- 若者がたくさん集まれるイベントを企画してほしい。
- 入善町で企業誘致をしなければ、仕事をする場所がなく、人口増にはならない。
- ショッピングセンターや映画館を誘致してほしい。
- 飯野地区にも食料品を扱うスーパーを誘致できないか。飯野地区は田んぼとパチンコ店のみで、なぜ店は入膳地区だけなのか。飯野住民は黒部に行けば良いとの意見が出るが、車を運転ができない老人が増加していけば、買物をするのも大変になる。車はいつまでも運転できない。
- 運転免許自主返納の利用券を割引券にして期間を長くしてほしい。
- 小学生の通学路に歩道がない道があり、道もせまく危ない所もあるので、できるだけ歩道をつけてほしい。

[飯野地区]

- 空き家対策への支援をお願いしたい。
- 1人暮らし高齢者へアドバイスをして、空き家バンクを推進してほしい。
- 町としてのマスコミへの発信を増やすべき。町に関する諸行事を、入善町の全国化に向けて発信する。朝日町等に比べて発信数が少ない。
- 入善町を他県や他市町村に積極的にPRすべき。
- まちづくり懇談会への出席者に若い世代が少ない為、良い意見が出ない様な気がする。
- まつりの伝統文化を強制しない（親の負担が多い、共働きが多い、休日を家族で過ごす、他から転入者が多いのでしたくない人も多いのではないか）。
- まつり等への助成が必要である。

・・・14件（34事項）



### Ⅲ 地区議題

# 5. 小摺戸地区

開催日：令和5年11月29日（水）

会 場：小摺戸地区公民館

[小摺戸地区]

## 議題Ⅰ「ストップ人口減少について」

☆意見なし

## 議題Ⅱ「小摺戸地区設定のテーマ」

### (1) 超高齢社会の課題について

☆住民

日本の高齢化率は世界一と言われているが、入善町と小摺戸地区の現在の高齢化率はそれぞれ何%になっているのか。

また、65歳以上の高齢者のみの世帯の割合は、入善町と小摺戸地区でそれぞれどうなっているのか。

少子高齢化の進展とともに、高齢者のみの世帯の割合が増え、一方で働く高齢者が増えていることもあり、町内会や関係団体、あるいは町から依頼された役員の選出や担い手不足が大きな課題となっている。

仕事の運営にも支障をきたすこともあり、こうした課題にどう対処すればいいのか、今困っている状況である。

また、生活面においては、若者がいない高齢者、特に後期高齢者のみの世帯では、家事、買い物、ゴミ出し、医療、除雪、老老介護等で大変な苦勞をとまなっているところである。

さらに、高齢者の孤立化も課題の一つではないか。

人生100年時代と呼ばれる中、超高齢化社会は様々な課題を抱えており、その中で誰もが元気に活躍し、安心して生活できるまちづくりに取り組んでいく必要があると思うが、どうか。

### ★保険福祉課長

入善町の高齢化の状況については、令和5年10月1日現在で、65歳以上の人口が8,591人、高齢化率が37.8%となっている。

小摺戸地区では、476人で高齢化率が40.7%となっている。

次に、高齢者のみの世帯の状況については、ひとり暮らし高齢者は、町全体では1,280世帯、小摺戸地区は55世帯である。

また、2人以上の高齢者のみの世帯は、町全体で1,214世帯、小摺戸地区は76世帯となっている。

町としては、このような状況を把握、認識した上で、住民の皆さんの意見などもいただきながら、福祉・介護・医療・健康づくりといった取り組みを推進している。

★総務課長

地区役員の成り手が少ないといった問題について、説明させていただく。

地域活動の担い手である町内会や各種団体の人材に関する課題、要は人材がいない、人が少ないといった部分に関しては、今ほどの高齢化の状況、それから人口が減っているといった点と、もう一つは、定年の年齢の引き上げや核家族化、多様化する生活スタイルといったことから、地域コミュニティに参加をする方たちが、なかなかおられないという状況である。

実際、生活をしているが、地区活動に参加をされていないといったところも大きな課題の一つではないかと考えている。

役員の数などの見直しについては、それぞれの地区や地域での団体内で検討いただくことが大切であるが、人口減や高齢化の実情を踏まえて、その活動の目的や運営に支障がないよう定数などの見直しについて、しっかりと地区内で話し合いをしていただきたい。

地区や役員の活動に対して、町としては、地区内のコミュニティ意識を高めるため、コミュニティ・パートナーシップ構築事業や元気な地区づくり応援補助金、地区振興補助金といったものを活用して、引き続き、財政面において地区のコミュニティ活動を支援して、多くの方が地区の活動に参加できるように促していきたい。

また、DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進といった、近年、急速に広まるICTの活用も有効と考えており、例えば電子回覧板アプリなどの紹介や導入に対する支援などを行っている。

電子回覧板には会合の電子化や災害時の安否確認の運用も可能であることから、このような地域活動のデジタル化が進められ、各地区における事務の効率化や役員の負担軽減が図られるよう働きかけていきたい。

★保険福祉課長

高齢者の生活面のサポートについては、本年度新たに「入善町ボランティアポイント事業」を開始した。

この事業は、事前に登録いただいたボランティアの方に、高齢者または障がい者のみで構成される世帯を対象に、除雪の支援や買い物代行、通院、散歩などの付き添い、ごみ出し、草刈り、草むしり、掃除といった日常生活支援を行っていただくもので、その活動に応じてポイントを付与して、年度末にポイントを町内で使用できる商品券に交換するものである。

この事業の概要については、町のホームページや広報入善12月号に掲載しており、協力いただける方は、是非登録いただきたい。

このボランティアポイント事業をきっかけに、地域における支え合い活動の推進、さらには地域のつながりや高齢者の孤立化防止にもつなげていただきたい。

## [小摺戸地区]

その他の生活面のサポートとして、町のシルバー人材センターでは「在宅生活お助けワンコインサービス」という1回500円で30分以内のちょっとした作業で困りごとを手伝ってくれるサービスを行っている。

サービスの事例としては、蛍光灯などの交換、精米作業、洗濯物干しや取り込み、暖房器具への灯油の補給などがあり、都合に応じて、シルバー人材センターのこのサービスも利用いただきたい。

また、人口減少や超高齢化社会を迎え人口構造の変化といった「量的な変化」とともに、家族関係の変化や地域コミュニティの希薄化といった「質的な変化」も相まって、生活面はもちろん、地域における担い手不足など様々な問題が生じている。

こうした状況において、国では「地域共生社会」の構築を目指している。

この「地域共生社会」とは、制度・分野ごとの縦割りや支え手・受け手という環境を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画して、人と人、人と地域資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、そして地域を共に創っていくという社会である。

この国の方針に歩調を合わせて、町では高齢になっても誰もが安心して暮らすことができ、様々な課題を抱えた人が社会的に孤立することなく、住み慣れた地域でその人らしく生活し続けることができる地域の実現を目指して、健康寿命の延伸や介護予防、認知症施策の強化、高齢者の生きがいづくりと社会参加の機会を創出する取り組みを行っている。

「地域共生社会」の実現には、行政の取り組みだけではなかなか困難であり、地域住民の皆さんや地域団体、民間の事業者等の理解と協力が必要である。

人生100年時代と言われる今日、いきいきと健康に暮らすことができるよう、課題を共有しながら地域の関係団体の皆さんと連携して取り組んでいきたいと考えている。

## ☆住民

今、この超高齢社会と若者が少ないということについての説明を承った。

現状で考えると、10年たたないうちに、若者世代というか、60歳以下の世帯が半数以下になると見ている。

地域だけではなく、地区だけではなく、町と関係団体で人口減少対策に取り組んでいきたいという話を承ったわけだが、実際、私は区長や防災、交通安全協会、神社の総代を兼務し、現状では4役をやっており、地元の秋祭り、あるいは防災関係等に支障をきたしていくと思っている。

町の方では、現在どういう団体、関係団体があるかということをご存知ないかと思われるが、例えば、もう役割を終えたような委員の選出は見直していただけないかという意見も持っており、どう考えているのか。

★総務課長

今言われた中で、特に交通安全、防犯、防災といった面に関しては、地区の皆さんが自分の地区を守るといった部分からすれば、人が少なくなっても、その少ないうちで何とかしなければならない。

自助、共助、公助といった部分での連携は、しっかりしていかなければいけない。

その他に、かつて青年団や婦人会、児童会などもあり、それぞれの目的で活動をしていた事例があると思う。

それが、時代の流れで、その活動がなくなってきているということも実際ある。

役割がもう終わったというものに関しては、やはり自然淘汰をしていく部分があると思うが、町がお願いをしている各種委員については、例えば民生児童委員の皆さんは当然必要である。

黒東交通安全協会の役員についても、これは役場が直接運営するわけではないが、実際交通安全といった部分で必要であり、必要な数の役員を選任してくださいということで、地区にお願いをする形になっている。

私どもも役員数の見直しなども含めて、いろいろと今後話をさせていただければと思っています。

お互いに問題意識を持って取り組んでいければと思う。

☆住民

テーマがいろいろとあったが、人口減少について触れたいと思う。

私どもは黒東小学校校下ということで、保育所の園児がそのままスライドして黒東小学校に入学してくれるという関係で、人数がだいたい把握できる。

多分、来年度の新1年生は、12人か13人ということで、極端にいつもより少ない。

当面は学校の統合等は考えていないという話だったが、入善町全体の出生数が100人を切っているという話も聞き、中学校も入善西中学校と入善中学校と2校あるが、2つもいらなのではないか。

3つぐらいしかクラスができないことになる。

ある程度、青写真を作っていただいて、今どうのこうのではなく、こうなったらこうなりますよとか、住民に示した方がいいのではないか。

私らの同級生は学年だけで122人いた。

あの頃はまだ2校で、小摺戸小学校と新屋小学校。

私どもが60人、新屋が62人で122人ということで、今の黒東小学校の全校児童の数と一緒にいらいである。

将来的なビジョンを示していただければ、住民も慌てなくて済むのではないか。

[小摺戸地区]

★町長

この「ストップ人口減少」の3つの柱を掲げて、少しでも人口を減る速度を遅くしていきたいという思いがある中で、この対応の一番の話は、1人でも多くの子どもが健やかに生まれて、健やかに育ち、地域づくりをしていくということが基本だろうと思う。

残念ながら、若者の姿が年々減ってきているということであり、皆さんの家族、友人、知人で県外行っておられる方がいれば、是非帰ってきていただけるような働きかけをお願いしたい。

そのことで、若い人達が入善町に根を張って生活をしていただく、その中で1人でも多くの子どもが生まれるということに結びつけていきたいということが一点目。

その上で、できるだけ若い人達から健康で健やかに生活できる地域をつくっていく。

そのことも人口減に歯止めをかけていく一つになるのではないかとということで、様々な減塩運動をはじめとする、様々な健康づくり運動に取り組んでいる。

そして、移住・定住という町外から入善町を選んでいただける、入善町へ来ていただける、そういう取り組みを今やっている。

この3つの柱で何とか入善町の人口の減る速度を緩やかにしていきたいというのが、私どもの願いである。

私も飯野小学校の同級生が145名いた。

当時は各地区に小学校があった中で想定すると、同級生だけでも700人、800人いたと思うが、今はその1割、80人、90人しか生まれない時代になっていることが、やはり大きな課題である。

このような中、子どもたちの状況をどうするのか。

保育所については、かつて私が役場に入った頃14あった保育所が、今年の春でようやく6つになった。

小学校も徐々に統合され、小学校が6つ、中学校が2つになっているわけであるが、そういった時代の流れがあるということである。

統合関係について、教育長から話をさせていただく。

★教育長

令和4年度の出生数までは明らかになっているが、黒東小学校においては、今のところ複式学級にならないと計算している。

そういったことで、今のところ統合をしなくてもいけるのではないかとという計算をしており、議会でもそういう議論をしている。

慎重に協議を進めていきたい。

## (2) デマンド交通のあり方について

### ☆住民

町では、町民の交通手段として、町営バス「のらんマイ・カー」とタクシー車両を活用したデマンド交通「ウチマエくん」が運行されている。

「ウチマエくん」は、ワンコインで町内の公共施設あるいは商業施設、医療機関等へ行くことができ大変便利であるが、なにぶん隣接する黒部市や朝日町へは行くことができない。

黒部市民病院やあさひ総合病院に通院するには通常のタクシーを利用することとなり、年金暮らしの高齢者にとっては経済的にも負担が大きいのではないかと。

入善町には総合病院がないため、黒部市民病院やあさひ総合病院へ通院している高齢者は多くいるのではないかと。

私も基礎疾患をもっており、通っている一人である。

「ウチマエくん」で町外へ行くことができるのであれば、たとえ1,000円かかってもいいという声もたくさん聞かれる。

デマンド交通の隣接市町への乗り入れについては、以前から地区を問わず強い要望があると聞いている。

ちなみに、魚津市では魚津市内と北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅を結ぶ予約式のあいのりタクシーを年中無休で、料金が1,000円で運行していることも聞いている。

今後、ますます高齢化社会が進むことが予測され、自宅から黒部市民病院やあさひ総合病院へ直接行くことができる公共交通手段の確保など、高齢者を更に支える取り組みが今後は重要になってくるかと思う。

先ほど町から話があったが、小摺戸地区の高齢化率が40%を超えているという現実もあり、この辺を踏まえて、町全体として、今後の高齢化社会に向けて、是非とも取り組みをしていただきたい。

### ★キラキラ商工観光課長

現在、町では公共交通として、町営バス「のらんマイ・カー」とデマンド交通「ウチマエくん」の運行を行っている。

「のらんマイ・カー」については、入善駅から野中、舟見地区を結ぶ「舟見線」と、入善駅から中沢公民館又は宇奈月市民サービスセンターを結ぶ「新屋線」を定時定路線で運行しており、1日に朝夕の新屋線と舟見線の2路線、全部で15便を運行している。

また、「ウチマエくん」については、登録した方が予約をすることで、自宅から町内全域に68ヶ所ある目的地まで、あるいは目的地から目的地までの移動ができる公共交通となっており、この2つの体制で町内全域の移動をカバーする状況となっている。

## [小摺戸地区]

「ウチマエくん」の隣接する市町への乗り入れ、特に公的病院への乗り入れについては、これには様々な課題が山積している状況となっている。

具体的には、町内の医療機関との関係や独自にバスを運行している民間病院との兼ね合い、町内外における交通事業者やタクシー事業者との調整、運行距離の延長に伴う財政負担の面などの課題があることから、その実現が難しい状況となっている。

さらに、現在の「ウチマエくん」については、3台体制で運行しているところであるが、ドライバーや車両の台数の確保などの状況を踏まえると、現在の3台体制が最大限の運行の体制となっている。

そのため、町外まで運行範囲を広げると、町内における「ウチマエくん」の運行にも支障をきたす状況となることから、現時点においては町外への乗り入れは考えていないことを理解いただきたい。

一方で、隣接する市や町へは、あいの風とやま鉄道でつながっており、各市町の公共交通はあいの風とやま鉄道の駅を起点としてダイヤ編成がなされており、鉄道を利用すれば各自治体の病院をはじめとした主要施設へ行くことが可能な状況となっている。

こうした鉄道を使うということは、高齢者にとっては肉体的な負担が大きいという指摘もあると思うが、隣接する市町の医療機関への通院にあたっては、「ウチマエくん」の利用に鉄道を組み入れた連携交通網の活用をしていただきたいと考えている。

高齢者の移動支援という観点でいくと、町独自の取組みとして、免許返納を行った高齢者の方に対し、「のらんマイ・カー」や「ウチマエくん」、町内のタクシー会社で利用できる公共交通利用券を発行して、外出機会の確保につなげているところである。

この制度は、2ヶ年度に渡って使用できる利用券を毎年3万円ずつ3年間交付する内容となっており、令和4年度においては、新規で150名の方に利用券を交付したところである。

今後もこの制度をしっかりと継続させていきたいと考えており、免許返納を考えている高齢者の方がおられたら、是非利用いただきたい。

また、例として挙げていただいた、魚津市内と北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅を結ぶ予約式のあいのりタクシーについては、入善町においても北陸新幹線の開業に合わせて、黒部宇奈月温泉駅と入善駅を結ぶ二次交通として「入善新幹線ライナー」の運行を行ってきた。

この新幹線ライナーは平成27年3月から片道500円で、新幹線のダイヤに合わせて運行していたが、初年度をピークとして、利用者数の減少に歯止めがかからなかったという状況から、令和2年の12月をもって廃止したところである。

入善町では、高齢化社会が一層進行する中、現在の公共交通をより利便性の高いものとしていくため、継続的に検証を行っているところであり、理解と協力をお願いしたい。

## ☆住民

私の孫が入善高校に通っている。



この前、学校の終わる時間が11時頃だったそうだが、「のらんマイ・カー」のバスがない。親も仕事をしており、自宅に帰って来る時どうするかというと、1時間かけて歩いて帰ってきている。

学生は、ものすごく重い荷物を持っている。

図書館があればいいが、図書館もちょっと離れている。

デマンド交通が、先ほど言ったように困難であるならば、せめて「のらんマイ・カー」のバスを増便してもらいたい。

インフラの整備をしないと、若者たちがやっぱり入善町から出ていく。

若者を引き止めるにはインフラの整備が非常に大切かと思うので、その辺を考えてもらいたい。

小摺戸には残念ながら「のらんマイ・カー」の停留所がない。

新屋は便利かもしれないが、小摺戸は非常に不便である。

そこをなんとか「のらんマイ・カー」の便を多くしてもらうか、線を作ってもらえればありがたい。

#### ★キラキラ商工観光課長

今ほど指摘いただいた、入善高校の生徒が自宅に帰るとき、路線バスが走ってないということで、大変不便であるという指摘である。

「のらんマイ・カー」の路線については、以前は小摺戸地区も含めた町内全域を対象として、8路線を運行させていたが、利用者が少ないという状況などを踏まえて平成27年7月に現在の運行体制に変更し、町内全域を網羅する、より利便性の高い「ウチマエくん」の運行に切り替えたという経緯がある。

この「ウチマエくん」については、当然登録していただければ高校生の方も利用できる公共交通であるため、よろしければ「ウチマエくん」への登録をしていただきたい。

予約については1時間前からできるため、「ウチマエくん」の利用も検討していただきたい。

### (3) その他

#### ☆住民

下水道利用料について、前に値上げの話を聞いたような気がするが、その辺の実情はどうなっているのか。

#### ★副町長

下水道の採算については議会ともずっと議論をしてきている。

[小摺戸地区]

今、基金という貯金を持っているが、その貯金を食いつぶしながらきているという状況である。

収支の見通しでは3年後ぐらいに底をつき、マイナスになっていくというところで、値上げも視野に入れた議論を今進めているところである。

どの程度どうするか、いつからどうするか、そういったことを何度もやっているわけだが、いつから、あるいはいくら、ということにはまだ至っていないが、私どもの思いとすれば、いずれしかるべきときに少し負担等をお願いできないかという思いはある。

☆住民

各地区で井戸を掘ってポンプで各組合の各家に水を送っているが、もう50年経っている。毎年、パイプが切れたり、タンクが壊れたりということで修繕費がかかっている。町では現在、上水道の整備について、どのように考えているのか聞きたい。

★副町長

上水道の整備については、現在、計画も構想も正直なところない。

町営で管理している、井戸を使った簡易水道を各地区で一部整備をしてきているという状況である。

個人で井戸を維持されている方、私のところは30軒ほどで1つの井戸を維持して、何とかやっているわけだが、舟見や野中の町営の簡易水道を使っておられるところについては、料金が他と比べると相当高くならざるを得ない。

そういう課題等もあるので、今のところ上水道を町で整備するという事は一切考えていない。

☆住民

民生児童委員、主任児童委員をさせていただいているわけだが、担い手不足に関して質問したい。

現在、いろいろな担い手において、成り手がいないということで、担い手の高齢化社会ができるのではないかというくらいである。

私も定年制がなくなり、そのために、いろいろな業務を兼務している。

かなり負担がきており、民生児童委員に加えて消防分団長もやらせていただいているが、平日をどうしても休まなければならないということが多々発生している。

若手もそういった環境でなかなか休めないとか、そういったことで、行政の方の対応が後手にまわっている。

実際にある地区にいくと、民生委員も区長も成り手がなく、区長が兼務するということも発生している。

そういった中で、企業内において地域の役を担っても十分に対応できるような環境を、行政組織から企業へ配慮を求めるなど、働きかけをお願いしたい。

町レベルでやっても相手にしていただけないことから、県レベルで働きかけをしていただき、会社の方で対応してくれる体制づくりが必要ではないかと思っている。

そういったことについて、是非取り組んでいただきたい。

#### ★町長

様々な役員の成り手がいないということで、その要因の一つとして定年延長が大きく影響しているのではないかと思う。

シルバー人材センターでも、今まで60歳で定年になって、もう少し余力があるという方々が勤めておられた。

それが定年延長になって、60、70近くになって辞められても、なかなかそこまでいけないということで、シルバー人材センターで働かれる方も相当減ってきていると聞いている。

そういったことも踏まえて、元気な間にいろいろな役職などをやっていただくことも大事なことだろうと思うので、今言われたように町レベルでなかなか企業相手に動くというのは大変厳しいわけであり、機会を捉えて、県とも1回話をさせていただきたい。

#### ☆住民

農業者という観点で、少し話をさせていただきたい。

まず、今回の農産物品質向上臨時交付金について、県内、国がまだ施策を検討している段階において、速やかに実施していただき、心より感謝を申し上げたい。

皆さんご存知のとおり、今年の品質低下、米価が下落した中、非常に経営体力がなくなっているという状況の中では、非常にありがたい交付金であり、心より敬意を表したい。

それと合わせて、空き地対策について、これは答弁はいらないので、事例紹介ということで話をさせていただきたい。

家を壊されて空き地になってから、国の相続土地国庫帰属制度を活用されて、要は国に引き取ってもらった。

その土地を、国が田んぼにして売却されたということで、どういうことかということ、その宅地の横に圃場があるが、それを1枚にして売却したということで、担い手にとっては、土地が広がる。

それから、角がなく非常に作業性がよくなり、非常にメリットが高い方法だなどと思って、ある意味、目からうろこであった。

農業者制度からすると国は昔、転作していく中で、新しく田んぼにするのは駄目だよということを通達していた。

## [小摺戸地区]

私からすると、ずっとそういうことがあったことから、宅地を田んぼにするなんてありえないという感覚だったが、そういうことが実際に行われて、両者ウィンウィンだった。

空き家の対策については、非常に積極的にやっているのは承知しているが、空き地が登録されても、この小摺戸の不便地では、なかなか売れないと思う。

そうすれば、何年間か登録したが駄目だというようなものを担い手に貸し付けていただければ、非常にメリットがあると思う。

そういうことを、是非研究をして検討いただいて、施策に反映させていただけたらありがたい。

### ★副町長

農産物品質向上臨時交付金については、10アール当たり2,000円を町から交付するという制度を臨時議会で可決をいただいて、12月途中までに給付をするという事業をやっている。

今ほど出た、宅地を田にというのは、今言われたように以前は駄目だったが、最近、それが弾力運用できるようになり、農業委員会経由で許可を出している例が町内でいくつもある。

希望があれば、是非農業委員会へ相談いただきたい。

また、田んぼの面積要件もなくなったということで、どなたでも田んぼを持てる時代に入った。

今言われたのも一つのいいアイデアであり、相談があれば対応していきたい。

### ☆住民

今の町勢要覧を最初に見たとき、疑問を感じるどころがいっぱいあった。

最初に思ったのは何かというと、地図の中に何で墓ノ木キャンプ場というのが括弧書きで入っていないのか、青野パークゴルフ場もあってもいいのではないか。

そんなお金がかからないと思うし、名前を入れていいと思う。

PR効果が足りないのでは。

それと、新幹線の側道が書かれていない。

行政の人たちは一生懸命やっておられるが、もっと力を入れて、抜かりのないようにしてもらいたい。

次に、総合計画の審議委員のメンバーを見たときに、一般公募なり、諸団体、法人の団体からの推薦の方が入っていた時期がある。

メンバーを見直す機会があれば、黒部川扇状地研究所の所長さんを入れてもらおうと、知恵袋として私はすごくいいと思うので推薦したいと思う。

また、人口の社会増という表現をされたが、これからは、小摺戸地区は交流人口の増大を求めていかなければと私は思っている。

高齢者同士が交流するコミュニティをつくる、そういう方向でいってもいいのではない  
か。

高齢者がこの地区で交流する機会を大きくするという方針に切り替えてもいいのではない  
か。

その拠点となるのは、地区公民館が拠点になるべきだと考えている。

また、eスポーツと健康マージャン、カローリングの支援をお願いしたい。

カローリングはお金のかかる競技であり、全国大会の主催者側でもあるため、是非とも支  
援をお願いしたい。

## ■ 「ご意見カード」より ～ 小摺戸地区の皆さんからの意見や提言 ～

- 自分の子供は県外にいるが、戻って来いとは言えない。
- 中学校を統合する場合には、運動公園の近くに建設をして、体育館とグラウンドを住民と共有化  
することを考えるべきである。
- 新役場の近辺に町で1ヵ所の保育所・小学校・中学校等をまとめて造ってはどうか。
- 運転免許返納者への公共交通利用券の交付は3年間だが、利用できる年数を増やしてほしい。
- 体育館利用料にシルバー料金を設けてほしい。
- 上水道の整備は考えていないのか。
- 用水の利用について、夏期などは用水の利用が多い為、排砂などは冬期に行えないか検討してほ  
しい。
- 地区により積雪量が大きく異なる為、除雪の判断するポイントを新屋、小摺戸にも設けてほしい。
- 民芸保存の各地区交流を図って頂きたい。
- 総合計画審議会の委員メンバーに黒部川扇状地研究所の所長さんを加えてほしい。
- 黒部川右岸堤防・河川敷の活用を推し進めてもらいたい（墓ノ木キャンプ場のトイレを水洗式に  
してほしい、青野パークゴルフ場のコースを増やしてほしい）。
- 町勢要覧の費用対効果を考えてほしい。
- 高齢者の生きがいと居場所づくりを推進してほしい。
- 水博物館構想、ジオパーク構想、道の駅は具体化にどうなったのか。
- 風力発電の今後の展望を知りたい。
- 人口10万人あたりの自殺死亡者数は、目標値にどの程度近づいたのか知りたい。

[小摺戸地区]

- まちづくり懇談会の課題は何か、現状で満足していないか。
- 交流人口を第一に、関係人口は第二に、移住した「定住人口」を第三と考えたらと思う。
- 町主催の健康マージャン大会の継続を希望する。
- eスポーツの普及をお願いしたい。
- カローリングの普及をお願いしたい。
- 地区公民館を拠点とした教室やイベントなどの開催し、地域活性化を推進してほしい。
- 地域のささえあい推進事業の具体的な中身について知りたい。

・・・ 6件 (23事項)

### Ⅲ 地区議題

# 6. 新屋地区

開催日：令和5年11月2日（木）

会 場：新屋公民館

〔新屋地区〕

## 議題Ⅰ「ストップ人口減少について」

☆意見なし

## 議題Ⅱ「新屋地区設定のテーマ」

### （１）県道入善宇奈月線 J A みな穂南部支店交差点の街灯設置について

☆住民

夜暗くなると、J A 支店前はかなり暗くなる。

ちなみに、上は新屋交差点信号機から下は黒東小学校魚八さんの間の街灯までとなり、電柱6本で、5区間が暗く街灯がない。

歩行者、自転車、通学等、防犯上においても問題ではないか。

県道拡幅工事前は、J A みな穂支店入口横の街灯はついていたが、マイマイガの大量発生等により現在はついていない。

また、県道沿いの民家だったところが空き家、空き地が多くなり、夜になると暗くなる。

11時過ぎには、精米機の照明も消え、自販機のみのも明かりとなり、特に天候が悪いときは周辺がかなり暗くなる。

昨今、避難者誘導支援等が呼ばれている中、側溝は全て蓋が設置されているが、更地になったところと、側溝との間の段差等がかなりあり、つまずき、転倒の危険があるため、足元の確認できる街灯は必要だと思う。

一応、新屋地区のメインストリートであり、対応をお願いしたい。

★建設課長

街灯のうち道路照明灯については、交差点や交通量が多い道路を中心に、現場調査等を踏まえ必要性を検討して設置しており、町道であれば町が設置し、県道であれば県が設置している。

J A みな穂南部支店の前を南北に走る県道入善宇奈月線については、県が管理している路線であり、道路照明灯の設置を要望される場合は、県に要望いただくようお願いしたい。

ただ、町内においては、道路照明灯の大半が交差点に設置されており、交差点以外の道路沿いに設置されている照明灯の多くが、各地区において設置・管理している防犯灯となっている。

県道入善宇奈月線においても、交差点等以外については、各地区で防犯灯を設置しているところである。



県に確認したところ、交差点以外の道路沿いにおいて、道路照明灯の設置を要望される場合は、検討に時間をいただきたいと聞いており、地区として早期設置を希望される場合は、県への要望に加え、地区による防犯灯の設置についても検討いただきたい。

なお、町では、LEDの防犯灯の新設や改修等に対し補助制度を設けており、もし地区で防犯灯を設置されるということであれば、設置前に町まで相談いただきたい。

☆住民

今の答えの場合に、県道であろうが地区で申請をしなければいけないのか。

実際に夜、夜中の11時頃天気の悪いときに、新屋地区地元の方であの辺を通られる方もおられると思うが、本当に足元も見えない状態になる。

町が要望として答えてもらうべきでないか。

★建設課長

県道であろうと防犯灯の場合は、地区で設置して管理していただいているのが現状であり、他の県道においても、防犯灯については、地元で管理運営している。

なお、交差点等については、交通安全上支障があるということで、県において道路照明灯を設置している。

もし、交差点以外のところで要望ということならば、県に相談いただきたい。

そのときは、町も協力したいと思う。

★総務課長

防犯灯について話をさせていただく。

今、交差点で設置ということで、県道であれば県への要望という話をさせていただいたが、基本的に地区の中でどうしても暗いということであれば、まず防犯灯の設置などを地区で考えていただければということである。

その支援があり、LEDをつける金額の75%、上限が2万4,000円になるが、町で補助をしている。

この制度は各地区で利用いただいております、年間200件弱の申請をいただいている。

地区で若干の負担があることから、地区でまず話をさせていただいて、つけようということになれば、総務課に相談いただきたい。

## (2) 黒東小学校及び入善西中学校の児童・生徒数の減少を背景とした学校再編等について

☆住民

近年の少子化により、黒東小学校及び入善西中学校の生徒がかなり減少している。

今度、黒東小学校では新1年生が12、13人ぐらいたと聞いている。

## 〔新屋地区〕

西中も今まで3クラスだったところが、新1年生が2クラスになると聞いている。

一時、西中は統合の時は6クラスあったわけで、それからみればかなり人口、生徒数が減っている。

学校再編について、まだまだ遠い世界かなと思っているが、これだけ減少数が多くなれば、学校再編も考えるべきなのかなという時期がきている。

そういうことで、町当局の考えを聞きたい。

私たちも考えてみると、小学校も母校がなくなった、中学校も母校がなくなったという悲しい状況であり、新屋地区、小摺戸地区の合同の黒東小学校を残していきたいものだなと思って、それは時代の流れで、入善町が一つになるか二つになるかはわからないが、西中校下で小中統合義務教育の学校という考えもできるのではと思いつつ見ている。

町当局の考えを、是非この場で聞きたい。

### ★教育委員会事務局長

指摘のとおり、少子化の進行により児童・生徒数が減少傾向となっている。

黒東小学校においては、10年前の平成25年度で160人であった児童数が、今年度では118人となっており、10年間で42人の減少となっている。

また、入善西中学校においても、同じく10年前の平成25年度で374人であった生徒数が、今年度は274人となっており、10年間で100人の減少となっている。

今後も児童・生徒数の減少傾向は続くと言われている。

そういったこともあって、地元の皆さんの中には、学校存続について不安を感じる方もおられるのではないかと感じている。

また、学校統合の問題に関しては、そのメリットとして、一定規模の集団生活の中で切磋琢磨するなどを通して、社会性や協調性が定着しやすくなるというメリットがある。

その一方で、校区の範囲が広がることから通学時の送迎の問題や地域資源としての学校がなくなることによる地域の活力の低下といった課題もあるため、現段階においては、学校を統合するということは考えてはいない。

また、小学校、中学校を一貫とした義務教育学校制度の導入については、メリットとすれば従来の小学校6年、中学校3年ではなく、9年間を通したきめ細やかな教育による学力の向上や小学校から中学校への環境の変化で起きる、いわゆる「中1ギャップ」と呼ばれるものの解消などが挙げられる。

デメリットとしては、学校統合の場合と同様の課題があることに加えて、9年間を同じ学校で同じメンバーで過ごすことになり、人間関係が固定化しやすいといった点もあり、義務教育学校制度の導入については、そのメリット・デメリットをしっかりと見極めていく必要があると考えている。

いずれにしても、急激な少子化時代における児童・生徒数の減少問題は、大きな問題であり、町としては、今後の子どもの出生数の推移などをしっかりと注視をしながら、よりよい教育環

境について考えていきたい。

### (3) 有害鳥獣対策について

☆住民

有害鳥獣被害として、特に山沿い地区、墓ノ木・下山地区の中で、毎年、サルによる被害が拡大している。

内容としては、自分で作った畑の作物が食い荒らされる、扉をこじ開けて住宅なり納屋に侵入して荒らされる、荒らされた後は獣の臭いが残る、販売作物、桃及び大豆などが荒らされているのが現状である。

それと補足で、墓ノ木自然公園内に、イノシシが生息していることが何回か確認されており、キャンプをされている人に危害を加える可能性も十分あり得ると思う。

そこで行政が、もっと積極的に被害状況を把握していただいて、防止対策を実施してもらいたい。

具体的には、捕獲の数、駆除を増やしてもらいたい。

計画数、何匹駆除したかに対して、その実績数を確認し達成度を見極めながら、その都度対策を行っていただきたい。

そうすることで、サル自体が人間は怖いというのを植付けさせることが大事ではないかと思っている。

先ほど冒頭で説明があったとおり、昨日の10時45分頃、墓ノ木で子グマ2頭、成獣1頭のクマの可能性のある目撃情報があった。

怖いのは、子グマがとび回って、それを親グマが監視するような状況の中で、そこに人が入ることになると、大惨事ということになりかねないとは私に思っている。

町の考えを聞かせていただきたい。

こちらの提案だが、パトロールを実施するなり、クマに遭遇した際の対応を全戸に配布する。

児童へのクマよけ鈴の配布等を提案したい。

#### ★がんばる農政課長

まず、サルによる被害の把握状況について、町では大規模な農作物被害については関係機関と情報共有をしながら情報収集に努めているが、家庭菜園あるいは生活環境被害といったものについては通報がない限り把握することができていないのが現状である。

県のサル対策の専門家によると、サルの追い払いについては、花火あるいはエアガンが有効であり、現在は「入善町野生鳥獣被害対策連絡協議会」で用意した花火を要望に応じて各地区に提供しており、引き続き地区の皆さんによる追い払いをお願いしたい。

〔新屋地区〕

しかしながら、人間がいても逃げない、向かってくるようなサルについては、町に連絡いただき、鳥獣被害対策実施隊による追払いを行うので、がんばる農政課まで連絡をお願いしたい。

なお、家庭菜園などの狭いエリアへの効果的な侵入防止対策としては、サルは垂直方向に約1.5メートル、ジャンプすることができることから、それ以上の高さの電気柵設置が推奨されている。

現在、メーカーからは様々なサル対策用の資材が開発されている。

設置を検討される際には、どのような資材が有効か、町から県の専門家に相談することもできるので、要望があればがんばる農政課へお問い合わせいただきたい。

さらに、地区全体といった広範囲の侵入防止対策としては、周囲を電気柵で囲むことは設置費用が非常に大きく、困難であることから、町では毎年4月から7月までの間は鳥獣被害対策実施隊によるパトロールを毎週日曜日の朝、実施しているところである。

今年6月には下山地区の大豆の田んぼにサルが侵入したと連絡を受けて、パトロールを強化してきたところである。

ただ、サルの対応については、本町に限らずどの市町も対応に苦慮しているところであり、サルは非常に賢く素早いので、実施隊員が近づこうとすると、銃の射程範囲外にすぐに移動してしまい、駆除することはなかなか容易ではない。

また、捕獲檻も経験の少ない子ザルが入ることはあるが、大きな効果が期待できないというのが現状である。

したがって、行政によるサル対策には限界があるということを理解いただきたい。

県のサル対策の専門家によるとサル対策について、一番効果的なのは、地域ぐるみによる花火等を用いた継続的かつ組織的な追払い、これが最も効果があるということである。

サル対策で成果があった富山市細入地区では、サルが出没したらその情報を直ちに地区全体に伝達し、地区住民全体でサルが山に帰るまで執拗に追払いを行っているとのことである。

県のサル対策の専門家を招き、地区においてサル対策に関する研修会を開催することもできるので、要望があればがんばる農政課に相談いただきたい。

町としては、下山・墓ノ木地区において、是非地域ぐるみでのサル対策に取り組むことを検討いただきたいと考えている。

次に、墓ノ木自然公園におけるイノシシについては、過去にも目撃情報があり、実施隊による搜索や公園内に注意喚起の看板を設置して対応している。

実施隊員によると、山に生息しているイノシシが川づたいに移動し、墓ノ木自然公園に出没したとのことであるが、イノシシは人身被害に及ぶこともあるため、目撃した際には直ちに役場あるいは警察に連絡をお願いしたい。

次に、クマ対策については、今年は全国的にクマの出没が多発し、先日は富山市において人身被害が発生しており、町としても警戒意識を高め、毎日実施隊員による舟見山のパトロールを行っているところである。

町内では、9月に負釣山登山道での目撃情報が1件あり、それ以降は昨夜の目撃情報まで目撃あるいは痕跡情報が全くなかった。

町では、今後もパトロールを継続してしっかりと実施していきたいと考えている。

また、クマに遭遇した際の対応については、昨今の全国的なクマの出没を受け、先日町のホームページに掲載したので、是非参考にさせていただきたい。

また、児童へのクマよけの鈴については、それぞれの家庭において必要な数をホームセンターや雑貨店などで購入いただきたいと考えている。

なお、町ではクマの目撃情報や痕跡情報があった際には、直ちに防災無線や緊急情報メールでお知らせをしており、町の緊急情報メールの受信登録をしていない方については、是非登録をお願いしたい。

また、その他に皆さんでできるクマ対策については、クマを引き寄せない、出会わないといった対策がとても重要であると考えている。

柿などの誘因物となるものはできるだけ除去していただき、未収穫の野菜や生ごみなどを適切に処理すること、朝夕の不要不急の外出やひとりでの農作業、屋外での活動を控えるなど協力をお願いしたい。

#### ☆住民

4年前にも同じ議題があったが、似たようなことが毎年多くなっているというのが現状である。

電気柵をうまくスルーして、巧妙なやり方を知っている。

この電気柵の本当に有効な使い方を知らないなので、是非そういった情報をいただければ助かる。

#### ★がんばる農政課長

電気柵については、最近、サル対策に有効なネット式のものなどいろいろ出ている。

具体的な思いがあれば、是非がんばる農政課に相談いただければ、その場ですぐ解決とはならないかもしれないが、一緒になって考えていきたい。

#### ☆住民

有害鳥獣対策について、年1回舟見、野中、新屋地区の山間部による協議会をやっているが、その時に詳しい講師を呼んで、対策をとる会合を設けていただければと思うが、どうか。

## 〔新屋地区〕

### ★がんばる農政課長

県の専門家の先生を呼んで、そういった学習会などを開催したいと思う。

墓ノ木地区あるいは下山地区でも手を挙げていただければ、町から県に講師をお願いする。公民館に来ていただいて、あるいは現地を見ていただいて、いろいろなアドバイスを受けることができるが、できれば地区でそういった組織が立ち上がればいいと思う。

どのような対応ができるか一緒になって考え、勉強していければと思うので、是非がんばる農政課に相談に来ていただきたい。

## （４）その他

### ☆住民

役場の新庁舎の状況について、二点ほど教えていただきたい。

一点目は、建設計画に対する工事の進捗状況はどういう状況なのか。

二点目は、資材がいろいろと上がっているが、建設費用の予算に対する増額があるのかなのか、あるとすれば大体どれぐらいなのか。

せつかくの機会であり、皆さん知りたいと思っているので、教えていただきたい。

### ★副町長

まず、進捗状況ということで、先ほどの町長の挨拶でも申し上げたが、目標は来年の５月に開庁ということで整備を進めているところである。

細かな話は別として、現在、数%遅れているという状況であり、何とかその遅れを取り戻そうと業者さんが頑張っておられる。

次に整備費については、資材が上がっているということで、以前のまちづくり懇談会でも建てた場合いくら程度という話をしていたが、その後、資材がどんどん上がり、当初、建て替えた場合は、もろもろ含めて35億程度かなと思っていたが、現在、43億というところまで上がってきている。

日に日に上がっている状況であり、ちょっと頭の痛いところであるが、財源についてはしっかり確保したということである。

### ☆住民

地元の方から要望があり、今、黒東小学校の横で拡張の工事を行っているが、今施工されている業者の現場事務所が道路上にあると。

道路上に仮設の現場事務所が置いてあるということで、私も50年近くこういう建設業をやっているが、公道に現場事務所を建てたことは1回もない。

直ちに動かせるような状況であるので、ちょっと考えていただきたい。

★建設課長

町道名については黒東小学校線と言ひ、令和4年度から新規事業として立ち上げ、新屋の方から小摺戸に抜ける道路であり、拡幅改良を予定している道路である。

今年度においては、入善用水の橋の架け替えや新屋校区の工事を進めているところであり、皆さんにおかれては、通行止め等、大変迷惑をおかけしている。

小屋については、早速現場を確認させていただき、業者に撤去、移動させるように注意したい。

☆住民

時々、緊急防災メールの中に不審者情報が流れている。

私は地元であることから、登下校する子どもたちを見ているわけだが、登下校の間に家がない。

もし仮に子どもたちが、不審者に遭った場合、逃げ込むところもないという状況の中、町としては、不審者に対してどのような安全対策を考えているのか。

また、最近是非常に犯罪が多い中、防犯カメラ等の設置で足跡がつくとか、そういったこともあると思うが、どのように考えているのかお聞きしたい。

★教育長

各小学校で4月当初に不審者にあつたらどうするかという防犯教室を行っている。

不審者には近寄らないということを指導、徹底しているわけだが、強引に車に乗せられるとか、そういった事案が万が一起こるかもしれないということで、心配されるのは最もである。

子どもたちには乗らない、行かない、誘いに乗らないということを十分徹底しながら、自分の命は自分で守るということを子どもたちに指導している。

また、地域の家々には「子ども110番の家」をお願いしており、どこにどういった「子ども110番の家」があるということも子どもたちには周知しているところである。

「子ども110番の家」も利用しながら、自分の命は自分で守る、そしてまた、地域の力も借りながら、子どもたちの安全を守っていければと思っている。

また、地域の方がオレンジのビブスを身に着け、日常生活の中で子どもの安全を見守る「元気見守り隊」という活動を行っている。

地域の方にオレンジのビブスを貸し出しており、犯罪の抑止に繋がるように協力していただければありがたい。

★町長

見守り隊のビブス、オレンジ色のものだが、これは皆さんで散歩される方もおられると思うが、そういったときに着用していただければ、大変効果があるのではないかと。

## 〔新屋地区〕

下校時は子どもたちの時間帯がバラバラなため、なかなか難しいわけだが、朝の登校時7時半過ぎから8時ぐらいまで、子どもたちと一緒に学校までウォーキングをしていくという方がたくさんおられる。

全体では100名を超える方々に協力をいただいている。

そういった方々の力で、しっかりと子どもたちを見守っていきたいと思っている。

もう一点が「子ども110番の家」ということで、万が一何かあったときに逃げ込める家として、地域の中でも在宅の方々をお願いをしている。

いずれにしても、地域全員が一丸となって子どもたちの安全対策を講じていかなければならない。

不審者情報などが出れば、メールなどで保護者も含めた地域の皆さんに案内をしている。

皆さんで、是非地域の子どもの見守ってやっていただければと思う。

### ★総務課長

防犯カメラについて、説明させていただきたい。

町や商工会などで設置している防犯カメラの台数は100台あると把握している。

もちろん、民間でつけているところはたくさんあり、そちらの把握まではしていないが、かなりの台数がある。

また、県警が防犯カメラの設置箇所に関して、こちらの方につけたらどうかと、地区へ提案し、防犯カメラを4ヶ月ほど設置した上で、その状況を見ながら、その後は地区で買い取りをするという制度が10月から始まった。

防犯カメラの設置箇所については、どこにつけたら効果的だということが素人ではわからない部分があり、警察と連携を取りながら、適地に付けていくことも必要であると考えている。

防犯カメラについては総務課に相談させていただきたい。

### ☆住民

先ほどの「子ども110番の家」について、私も県道に面しており、通学路でもあることから20、30年前から「子ども110番の家」を承っている。

実は、表示板、看板が各校下バラバラである。

新屋は6軒か7軒ほどあるが、小摺戸とは違った表示板であり、私もずっと前から町内のいろいろなところをまわることもあるが、上原、青木、やっぱりバラバラで統一されていない。

また、もう何十年も経つことから、老朽化して更新したいと思うが、その費用はどちらに請求して、どのようにしていただけるのかお聞きしたい。



★教育長

県からの表示板と地域の表示板で、地域によってバラバラになっている。

県のものは一緒だと思うが、地域によってバラバラになっている部分もあると思う。

県の部分については、かなり長い間、ずっと掲げてあり、はげている部分もあると思う。

調査をさせていただき、統一できるものについては統一していくように検討させていただきたい。

■「ご意見カード」より ～ 新屋地区の皆さんからの意見や提言 ～

- 防犯カメラの設置計画はあるのか。
- 交差点等の各地区要所地点への防犯カメラの設置をお願いしたい。
- 防災放送が聞こえないという人が多くいる。
- 以前、各家庭に防災受信機があり、機能していたと思うが、現在は破損して使い物にならず地区に1ヵ所あるスピーカー放送に頼っている。風向きにより全く内容が聞き取れず、地区内の設置数を増やせないか。ボリュームのみを上げると、近くの人達にはうるさく聞こえる事も問題である。
- 防災無線購入に補助をして、購入するよう通達してはどうか。
- 消防団人員数の見直しをしてはどうか。
- 担い手不足の対策をお願いしたい。
- 公民館まで遠い為、下山芸術の森の近くに防災機能を兼ねたコミュニティ活動が出来る施設があるといい。
- ストップ人口減少は、現在、町で一番重要な問題だと考えている。子育て、自然減に対する施策については満足いくものとなっていると思う。しかし、若者の町外への転出は増加しているように感じる。若い人たちは、町内に住みたくないのではなく、仕事（収入）面で町内に住めないのではないかと思う。企業誘致、通勤費用の助成等、一層進めていただければと思う。
- 平素より人口減少に歯止めをかけるべく、奮闘、努力されていることに敬意を表する。労働人口をいかに保つか、交流人口をどうやって増加させるか、まだまだ議論の余地があると思う。
- 人口減少は大きな課題であり、出生率の減少も大きいのが、転入者をどのようにして増やしていくか。大人が増えれば子供も増える。住みやすい魅力のある町づくりが重要である。
- 人口減ストップ対策として、町外への通勤、通学に対する（新幹線、高速代金）の助成をしてはどうか。
- 入善町の暮らし易さのPRを大々的に打って、移住・定住の促進を図る、IターンUターンを促

[新屋地区]

す、教育現場での意識づけなどももっとあっても良いのではないかと思います。

○入善高校の活性化をお願いしたい。県下でも少ない農業科をより良く活用し、寮などを作って県外の若者を集め、人口減少に歯止めをかけてはどうか。

○本日の参加者は年齢が高い方が多かったと思う。年代別にするなど、若い人の意見が多く出るようなことを考える必要があるのでは。

○どの地区も高齢化しており、買物や医者へ行くのが不便で、すごく困っておられる。高齢者が手軽に移動できる手段を考えてほしい。現状はとても不便である。

○高齢者の免許返納後の町外への通院（タクシー代）の助成を考えてほしい。

○年金で払えるような値段の安い老人ホームを増やしてほしい。

○民生委員の任期について、あまり長い期間ではなく、3年間位で変わるようにしてほしい。

○新幹線の補助金を出して、都会の人の移住を促進してはどうか。

○移住・定住するには、仕事がないと厳しい。企業誘致の活動はしているのか。

○企業誘致による仕事（収入）の安定化が必要である。

○若者が選びたい会社が少ない。

○Iターン者の新築助成は親との近居、つまり同地区内となっているが、この制限を緩和して隣の地区でも親の住居の半径500m以内なら良いとして頂けないものか。

○スーパー農道より山側の除雪があまり行われていない様に感じる。山側の方が雪が多いので通勤時間前に適切に除雪してほしい。除雪する時間帯と回数を見直してほしい。

○積雪対策として、消雪装置を充実させてほしい。

○老朽化した消雪設備をなんとかしてほしい。

○新幹線道路が黒部駅まで延長してほしい。

○道路維持管理について、白線ラインが整備されていない。対策をとってほしい。

○熊対策として、無人・自動の装置の設置をお願いしたい。

○様々な事につき知る事が出来て良かった。

○ゴミ分別資料の配布（再発行）をもう一度してもらいたい。

○島地区の諏訪社と横のゲートボール場の桜の木の剪定費用の補助を考えていただけないか。最悪の伐採はさげたい。

○砺波市が実施している屋敷林の枝処理助成等は考えているか。

・・・22件（34事項）

### Ⅲ 地区議題

## 7. 桐山地区

開催日：令和5年10月20日（金）

会 場：桐山公民館

## 議題Ⅰ「ストップ人口減少について」

### ☆住民

今、「ストップ人口減少」ということで説明いただいたが、施策のひとつひとつは、まとめたもので大変立派なものだと思う。

実は18日の北日本新聞に、翁百合（おきなゆり）という日本総研の理事長が北日本新聞社のインタビューに答えている。

厚生省事務次官を務めた翁久次郎（おきなきゅうじろう）の息子の奥さんという紹介であった。

その中でどういうことが書いてあったかというところ、人口減時代の県政の課題ということであった。

その人口減に対して、一番重要な事は何かというところで、雇用が大事だと。

多様性を実現している企業を増やさなければならないと書いてあった。

あと、子どもの出生率の件で、各自治体がいろいろと子育て支援の手を打っているが、なかなか効果が上がってないのではないかな。

そのことに対して、大きな差のポイントは三つあり、まずは低所得者の所得を上げる、二つ目は男女を問わず働き方改革、三つ目は男女共同で子育てをすることと書いてあった。

日本総研の理事長だから、多分全国で同じようなことを言っていると思う。

この話題は全国でいろいろと言われていることだから、概ねこれであたっているのではと私も受け取った。

そして、思ったのは、こういう人口減少みたいな事が、町だけでの対応だとなかなか難しいのではないかな。

個別の施策を解決する部分に関しては、いいことばかりなので反対はない。

だが、町の単位だけで雇用の創出という部分はなかなか難しい。

特に入善町の場合、入善町の中だけで就職している人はそんなにいないと思う。

町から外へ出ている人がたくさんいるため、こういった施策をする時に町だけじゃなく、県とか他の市町村とか、企業が全体にわたるものなので、そのへんのところの関係性というか、他の所との協調はどのようにやっているのかという事を聞きたい。

### ★副町長

非常に貴重な意見で、私も記事を読んでなるほどと思ったところである。

今言われたように、町だけで解決すべきものではない。

最終的には国策としていろいろ取り組んでいただきたく訴えてはいるが、国が遅いということで、町が先行して積極的にいろいろなものに取り組んできているということである。

最初の雇用については、町も企業誘致を積極的に行っており、町の方へ誘致をしているが、これは町がやることである。

ただ、企業誘致にしても、町だけでというのはなかなかであるため、富山県と一緒に誘致活動を行っている。

富山県は県全体のことを考えていく、その中で入善町を是非、優先してくれということやってきている。

なかなか入善だけで雇用を賄えるのかということは、言われるとおりであり、昼間の人口は町の方はがくと減って、いろいろなところへ働きには出ていっている。

ただ、働きにいつているが、住むにはいいところだということで、是非、町に住んでいろいろなところで働いていただきたいという思いである。

一例だが、新たに海洋深層水を使ったサーモンの養殖事業もスタートしたほか、ウーケさんも第4期の拡張ということでまもなくスタートできる。

あと、洋上風力発電等々もあるほか、最近では黒部から飯野に工場を立地された企業もあり、これも町がしっかり持ってきたというものである。

そういったことで、雇用の創出等も一生懸命やっているが、富山県と一緒に今後もしっかりやっていきたい。

次に出生率の話で、所得の関係、働き方改革の関係、男女共同での子育てということも、国は強く打ち出してきたはいるが、なかなか具体化していない。

町の方で低所得者の所得を上げるというのは難しく、それは国にお任せするとしても、生活支援は町ができるため、側面からサポートしているという状況である。

今の意見も参考にしつつ、今後また頑張っていきたいと思う。

#### ★町長

副町長の言葉に少し補足させていただきたい。

まず雇用の確保、働く場の確保であるが、今申し上げたようにいくつもの企業が、今入善町で新たに工場を設置する、あるいは拡張するというような動きがある。

一つ抜けていたが、シロウマサイエンスさんも、敷地の中にある駐車場を外側に出して、新たな工場をつくりたいという動きがあり、今整備を急いでいる。

そういったことがいくつもあるが、なかなか働き手の確保ができないと企業の皆さんが悩んでいる。

そういった点で、町でも企業の皆さんと職を求めている方々のマッチングフェアというものも年に何回もやって、何とか地元の企業に就職をしていただきたいという働きかけも行っている。

## 〔柵山地区〕

特に若い女性の皆さんが帰ってきてても働く場がないということが、結婚への影響もあるのではないかと思っており、今後の企業誘致にあたっては、そういったことにも目を向けながら県と一緒に企業誘致に努めていきたい。

なお、出生数あるいは出生率の向上が大事だということも指摘をいただいた。

そういったことを踏まえて、町では5、6年前から不妊治療あるいは不育症治療に対する支援を9割という形で行っている。

当時の宮腰大臣が少子化担当大臣のときも、町の取り組みとして報告をさせていただいた。

当時は、おおよそ入善町で生まれる子どもの2割がこの不妊治療によって生まれてくる子どもたちであり、町の制度とすれば、それなりの効果が上がっていると思う。

ただ、こういったものが全国的に広がってほしいということで、当時の大臣に私自身も申し上げたわけだが、ようやく去年から保険適用ということになった。

そういったことで、少しずつではあるが、町の取り組みが国で評価をいただき、ようやく目を向けていただけたのかなと思う。

また、県内にも先駆けて男女共同参画社会の構築ということで、年に何回かイベントなどを開いており、そういった社会づくりにも取り組んでいるところである。

少し時間はかかるかと思うが、皆さんの知恵も拝借をしながら雇用の確保、あるいは出生率の向上に向けて努力をしていきたい。

## ☆住民

最初のこのグラフで、2060年2万人を目指しますと、普通にいけば、この点線で約1万人を切って9,225人になるところを、2万人台を目指すという理解でよろしいか。

ということは、ここでポイントは、このグラフを見る限り、社会増の上積み分がポイントであるということだと思う。

にもかかわらず、裏の資料を見ると、社会増が3番目にきており、一番力を入れたいと言われたのは、子どもを産み育てやすい環境づくりということである。

当然これは大切なことだと思うが、単純に普通に考えて、結婚、妊娠、出産と書いてあるが、その前に社会増で若い人たちが入善に来てもらわないといけない、これがポイントだと思う。

でなければ、結婚もなければ、妊娠も出産もない。

3番目のこの社会増の推進、2060年に2万人をキープするには、これがポイントではないかと当然思う。

そんな中で、社会増の部分では、若い人たちが入善に住民票を持ってくるとなると、やはり住まい、住宅取得がしやすい環境、そこがまずポイントではないかと思う。

これは違うかもしれないが、まず住んでもらって、住民票をとってもらい、そこから全てがスタートするような気がする。

もっと考えれば、もう1回最初のグラフに戻ると、多分入善町の推計で点線の1万人切るのを2万人目指しますと書いてあるが、入善町だけでなく、日本全国、市町村こんな状態ではないかと思う。

ここで、入善だけが1万人のところを2万人にもっていくということは、他の市町村の人口を入善町にもってこなくてはならない、いわゆる他の市町村と競争ではないかと思う。

隣の黒部より入善に住民票を置いたら、家を建てたら、どんなメリットがあるのか、露骨に出していったほうがいいのか、若い人が住宅取得しやすいようにと思うがどうか。

#### ★副町長

2万人というのは非常に高い目標であるが、是非実現したい、それに向かっていきたいというところで、高い目標を置いている。

施策の1、2、3、これは別に優劣はない。

ただ、まずは生んでほしい、そのためには若い人が入ってほしいと、いろいろとリンクしてくるということである。

また、自然減を減らすということで、いつまでも若く、元気で健やかに暮らしていただきたいとか全てにリンクをしてくる。

今、社会増の取り組みとしては、ここに簡単に書いてあるが、町外から、例えば住宅を町で建てるというときは、非常に手厚い町外加算、子育て加算などのいろいろと加算をつけて、多ければ百数十万円の支援を出しているところで、そういうメニューはたくさんある。

そういったものを町外者の方にいかに伝えるか、これも非常にネックになっており、課題だと思っている。

今、言われたことは本当にごもつともである。

社会増、自然増、これをリンクさせながら何とか頑張っていきたい。

#### ★町長

町として少しPR不足で、せっかく作っている制度がなかなか理解していただけない。

特に町民の皆さんよりも、町外の皆さんに知っていただいてPRしていくことが大事なことだと思っており、特にSNSの時代でもあるので、町外に向けた発信をできるように、職員全体で考えていきたい。

#### ☆住民

今の話とリンクしてくると思うが、子どもをつくるのをためらう一つに、子育てにかかる費

## 〔柵山地区〕

用が子どもを一人前に育てるのに、ものすごくかかる。

2人目、3人目を躊躇するようなどころがあると、最近ニュースなどで聞いている。

教育の面で、入学祝い金や給食費の支援とかあるが、これもお金のかかる話で、なかなか一朝一夕というわけにはいかないと思うが、無償化とかよく話が出ている地域がある。

もしこういうことになれば、結構PRにもなり、IターンやUターンの誘因になる。

その辺の考えはないのか。

### ★町長

いろいろな子育て支援に対する中で、大きなウエイトを占めているのは、やはり学校給食費の関係で、毎月大きなお金がかかっており、今の入善町では給食費に対して月額2,000円の支援をしている。

隣の朝日町は今、全額無償にしていると思う。

今年、岸田総理大臣が富山に来られたときに、この学校給食費の無償化の話をして15市町村あげて要望した。

よい返事であったが、これまでにまだ具体的な話は出ていないが、近いうちにそういったことについて動きがあるのではないかと思っている。

町の方でも、今までよりも質を落とさないということを前提に考えており、できる限りの支援も考えていかなければならないと思っている。

少なくとも小学校にたどり着くまでの部分については、少し手厚くしていく必要があるのではないかというふうに思う。

例えば、保育料の面も含めて、検討させていただければと思う。

## 議題Ⅱ「柵山地区設定のテーマ」

### (1) 旧柵山保育所の再利用計画について

#### ☆住民

先月9月1日にとり保育所の竣工式が執り行われ、9月2日の見学会を見させてもらった。

子どもたちが元気に遊び過ごせる保育所と大変嬉しく思う。

それに伴い、柵山保育所は閉所となり、昨年の懇談会で今後5年間譲渡先が決まらなければ解体とのことで先行きが心配される。

柵山保育所は平成13年11月に竣工し、21年経過した木の温もりのある建物で、公民館に隣接し、駐車場も広く立地環境がよい施設である。

是非、柵山地区に有益な施設として、再利用していければと思う。

については、普遍的に進める上で、区長会、各種団体等の構成員で結成する再利用推進実行委員会（仮称）を設けて、現状の把握、再利用計画として例えば集会所、防災拠点、作業室、資料室等について協議し、要望をまとめていければと思う。



町の方では、地区の要望に対応する窓口部署を定めていただき、施設に係る情報等を提供し、地区の活動を支援していただければと思う。

次に、採用例の一つとして梶山消防団より、防災拠点等として提案があるので、お願いしたい。

#### ☆住民

今、区長さんが言われたとおり、梶山住民はこの旧保育所の行き先をすごく心配しており、私も個人的に心配している。

消防の立場として一つ提案させていただきたい。

この旧保育所を入善町の東部の防火防災、また復旧の拠点にできないかということである。

当梶山地区は、入善町10地区の中で唯一、海から遠い、大きな川もない、山もないということで、当然、津波、洪水、土砂災害、がけ崩れ、またクマ、イノシシなどの鳥獣被害も考えにくい比較的安定した土地柄だと考えている。

ということは、有事の際は梶山地区のこの保育所を拠点として災害対策基地などにも最適である。

そして、保育所のつくりを見ても、各部屋は緊急対策室、資機材の保管や食料の備蓄、炊事もできるので、炊き出しなどもできる。

遊戯室にあっては避難所にもなる最適な場所ではないかと。

日頃の防災訓練などでも、ここに大きな駐車場もある。

警察も近く連携も取りやすいということで、もちろん改築は必要だが、最適と考えるがどうか。

#### ★企画財政課長

今ほどいただいた旧梶山保育所の利用について、梶山地区にとっては最も大きく関心のあ  
る課題ではないかと捉えている。

昨年のまちづくり懇談会においても、同様の質問に対して回答させていただいているところであるが、改めて説明させていただきたい。

旧横山保育所、梶山保育所を統合して、9月4日から「とうり保育所」が開所したところである。

とうり保育所の建設にあたっては、事業費の財源として、より有利な地方債である「公共施設等適正管理推進事業債」というものがあり、こちらを活用し整備にあたったというところである。

この財源の要件として、統合後の施設の供用開始から5年以内に統合前の施設を廃止するという条件が一つある。

〔柵山地区〕

この廃止というのは、単に保育所としての機能を廃止することではなく、要は保育所がなくなりましてよというだけではなく、「除却」いわゆる解体であるとか、もしくは他の団体や民間等に売却などをする事によって、公共施設としてすぐに使えることができない状態にしなければいけないという条件が一つある。

また、保育所という機能だけでの話ではなく、町が所有している様々な公共施設があるが、この施設の総面積が減らないといけないという条件になっている。

とはいうものの、町としては安易に施設を壊して解体するのではなく、譲渡などによって、町以外の所有者の方に有効に活用していただきたいと、第一に考えている。

これまでもこのような施設、入善町内では「にゅうぜん保育所」と「いいの保育所」こちらの整備にも同様の地方債を財源として活用させていただいている。

閉所後、未使用となっていた旧東部保育所、西部保育所、芦崎保育所について、町は公募入札を行い、その結果、旧芦崎保育所については、障害福祉サービス事業者が落札され、そちらに譲渡し、現在は生活介護事業所として再利用されているという例がある。

ちなみに、旧東部保育所、西部保育所についても、建物がある状態で公募をかけたが、応札がなかった。

その間に、この期限の5年が迫ってきたということもあり、両保育所は建物を解体し、更地になっているというのが今の状態である。

今後、更地になった状態で改めて公募等を考えていく必要があるのかなというのが現在の状況である。

また、旧柵山保育所と同時に閉所となった旧横山保育所については、敷地の一部が町以外の方のものであった。

その所有者でもあり、隣接して障害福祉サービス事業を行っている民間の福祉事業者に、今後の利用を確認したところ、利用の申し出があったことから、条件を協議した結果、建物については無償で、土地については有償で譲渡することとした。

旧柵山保育所については、旧横山保育所と同様に敷地の一部に借地となっている土地があることから、譲渡するにあたっては、土地の所有者との協議、調整が必要になってくる。

現在のところ、町として具体的にここをどうするという計画は持ち合わせていない。

しかしながら、柵山地区にある建物、敷地であり、地元がやはり最優先ではないか。

柵山地区として有益に再利用していただければ、是非、利用していただきたいと思っているが、土地所有者との調整等を行い、所有権を完全に地区に移す必要があるということも理解いただきたい。

そして当然、地区のものとなったときには、維持管理は地区の方で行っていただきたいと考えている。

ちなみに、旧芦崎保育所についても、閉所当初に地区に相談させていただいており、地区で当初は利用したいという話があった。

その中で、いろいろな条件等を話させていただいたが、最終的には維持管理の問題が地区としては大きなネックとなり、断念し町に任せるという結論をいただき、公募入札を進めたという経緯がある。

いずれにしても、今後どうするかは、これまで廃止した他の保育所はもちろん、町には一部遊休となっているような土地、町有財産等もある。

こういったものとの公平性も配慮しながら、土地の所有者や地区の皆さんの意見などを聞きながら考えていかなければならない。

相談窓口については、企画財政課になるので相談いただきたい。

また、地区で委員会を立ち上げて、これから議論していきたいという話であるため、そういった議論の内容も含めて、いろいろと相談いただければと思っている。

ただ、今まで説明したとおりで、なかなか町としても曲げられない部分もあり、そちらは理解いただきながら、またいろいろとアイデアをいただきたい。

#### ☆住民

今、当局の説明を聞いたが、理解できるどころとできないところがある。

消防団の立場として提案したが、どういう形であれ、この旧保育所を残したいというのは、梶山住民の本当の強い気持ち、熱望と切望であり、心から強く望んでいる。

どうか笹島町長さんも前向きに検討していただければと思うがどうか。

#### ★町長

町有施設として維持していくことは難しい、できないという条件がある。

そういったことから、地域の皆さんで管理運営をされるということであれば、それは一つのやり方だろうと思う。

あるいは、どうしてもできないということであれば、民間にも声を掛けていかなければならないと思うが、まずは、梶山地区の皆さんの考え方をしっかりと整理をしていただいた方がいいのではないかとということで、今回説明をさせていただいた。

これまでの財源的な問題も含めて、芦崎保育所や入善の東部、西部保育所も含めて、そういう条件のもとで動いていることをまず理解いただきたい。

少なくとも、町から離さなければならない施設になるということを理解いただきたい。

#### ☆住民

去年、このテーマについて質問させていただいたが、今の町長の説明でも、町のもので継続していくのは難しいだろうなと感じとれた。

[梶山地区]

そこで、5年以内ということだが、いつから起算して5年ということになるのか。

また、その5年間は、町のものとして使うことができないのか。

★企画財政課長

5年間の起点がどこかということであるが、「とうり保育所」統合してできた新しい保育所の開所日が令和5年9月4日である。

こちらが起点となり、ここから5年以内ということになる。

また、施設を5年間使うことができないのかについては、施設があるので使うことができないとは言わない。

ただ、建物があることで当然、維持管理に費用がかかることも理解いただきたい。

今のところ、閉めた保育所については、電気等は解約し止めている状態である。

これが少なからず稼働することになれば、そういった費用を考えなければいけない。

☆住民

地域で使いたいということで、5年間、何か使わせてもらえないかという声が上がれば、町として考えてよいということか。

★企画財政課長

その時に問題となってくるのが、今利用していないことから全て止めている状態をオンにすることになる。

その維持管理に対して、地区にどのようにお貸しするかという点について、これまでも、そういった施設や土地などをお貸しするというのも町有財産としてあるが、いわゆる賃借料、そういったものを考える必要が出てくる。

何でもかんでも地域だから無料というのは、ここではお答えしづらいところはあるが、そういったところを考えなければいけない。

梶山保育所として稼働していたとき、電気代は大体、年間で150万円前後かかっていた。

もちろんフル稼働しているわけで、どういった使い方をするかによってその金額の増減はあると思うが、どの程度地区の方にとということも話していかなければならない。

★町長

5年と言っているが、もし、地域の皆さんで使っていこうという意思表示があつての5年ならいいが、5年ギリギリまできて、やめたと言われると、取り壊す予算的なものやタイムスケジュールもあるため、そういったことを少し考慮に入れていただければと思う。

☆住民

町がこのあと継続して維持していくことはできないということで、民間に使ってもらうよう

に移譲するなり、まだそういう話は全然していないということか。

★企画財政課長

今のところ、そういった話を何か進めているということはない。

☆住民

このあと、進めていく予定はあるのか。

★副町長

まずは、地元、地区の思いを最優先にしたい。

芦崎のように、やっぱりいいわとなってから、どうするという考えをスタートしたということで、地区で一定の思いがある間は、町も勝手に公募したりはしない。

ただ、町長が言ったように、5年間近になると、私どもも制度的にタイムアップになってしまうので、どこかの段階までに方向性、地区の思いを整理していただければと思う。

☆住民

地区の思いは、これからいろいろと詰めていかないといけないと思う。

去年、このまちづくり懇談会で、国の制度を使っているので、5年以内に取り壊すか、民間に移譲しないといけないということを私は初めて聞いた。

そういったことは、それを決める前に、地域の皆さんに話をすることは、なかったと思うが、それはあったのか。

★副町長

長い年月をかけてこの統合に向かってきたところだが、何度もこういう条件ですよという話はさせていただいた。

その上で、結果的にはこれは供用開始後、5年以内に廃止になりますよということである。それは何度も話をしてきた。

☆住民

それは、「にゅうぜん保育所」とか、三つ、四つあったが、それをやるときに、「とうり保育所」も含めてという話なのか。

それとも、「とうり保育所」をつくる前に、そういう話をしていたのか。

★副町長

先行した「にゅうぜん保育所」「いいの保育所」この「とうり保育所」と、スタート時は少しずれているが、同じように説明会や地元と話をしながらやっており、いずれの保育所についても早い段階で条件的にはこういう条件ですよということをしっかり伝えて、いろいろと協議に入っている。

[ 梶山地区 ]

☆住民

それは、どういう場所でそういう話をされたのか。

★副町長

まずは議員さんにしっかり伝える、地元の議員さんにしっかり伝える。

それと、地元のいろいろと打ち合わせというか、委員会みたいなものを組織して、その前段のところでしっかり説明をさせていただいている。

★町長

私どもも他へということよりも、是非、梶山地区で活用していただきたいという強い思いを持っている。

今、実行委員会などを立ち上げようという動きもあるようであり、地域の皆さんでしっかりと議論をして、良い方向に向かっていただければと思う。

## (2) 通学路の安心安全について

☆住民

コスモ21北側にある通学路は、小・中学生の児童が多く通学している。

しかしながら、道路幅が狭く、車とすれ違う時は大変危険であることが事実である。

今回、提出させていただいた写真について、本当は登下校の状態を撮影できればよいのだが、個々の肖像権も関わってくるため、今回、自分の妻と子どもに協力してもらい、どれだけ車と自転車、車と歩行者が近接しているかを理解いただくために撮影した。

実際、その日は晴れていたが、条件としては大雨が降ったり、積雪時はもっと悪路となっている。

先日、小さな子どもたちが待ちに待った、「とうり保育所」が開所した。

登下校時間帯に、車両と子どもたちがすれ違う頻度も増加しつつある。

また、冬期間は、通学時間帯に歩道が除雪されていない場合、児童が車道にはみ出す恐れがある。

そこで提案として、この道路幅を広げていただき、新たに歩道を設けていただきたい。

子どもたちがより安全に安心して通学できるよう、是非、道路幅の拡張と歩道の設置をお願いしたい。

もう一点、積雪時において、通学時間帯に歩道が除雪されていれば、登下校時の児童が車道にはみ出すこともなく安全に通学ができると思う。

小学校付近の通学歩道の降雪状況を見ながら、迅速な対応をお願いしたい。

これは、最悪な事故を未然に防ぐことにより、町で取り組んでいる「ストップ人口減少」にもつながると思われる。

★建設課長

コスモ21北側にある通学路とは、梶山用水から県道小杉梶山新線に通じる、町道中寺田線である。

この路線については、令和3年度に行った交通安全危険箇所合同パトロールにおいて、黒東交通安全協会からの要望を受け、富山県、入善警察署、入善町の合同で現地を確認したところである。

また、今年度において、地元より要望書の提出をいただいたところであるが、町外在住の土地所有者がおられるため、町で現在、確認作業をしているところであり、確認が取れ次第、地元と協議をさせていただきたいと考えている。

現在、町では事業を実施するにあたっては、限られた予算であることから、危険性、緊急性の高い箇所から優先的に対応している。

この路線については、今までの小、中学校の生徒の通行に加え、「とうり保育所」が今年9月に開所したことによる交通量増も勘案しながら、事業の実施に向けて検証していきたいと考えており理解をいただきたい。

次に歩道除雪について回答する。

小学校付近の歩道とは、県道小杉梶山新線であり、現在、県道を管理している入善土木事務所が機械除雪で対応している。

当該区域は、県の道路除雪実施計画において「除雪の必要性が極めて高いところ」として位置づけられており、早朝、昼間を問わず、必要なときに確実に除雪を行うものとされている。

実際の除雪作業については、県から委託を受けた除雪業者が早朝に歩道の積雪状況を確認し、通学児童と歩行者が通学時間帯などに、安全に歩行できるよう除雪作業を行っていると同っている。

積雪時において、歩道が除雪されていないなど、歩行者の通行上、支障がある場合などには、歩道を管理する入善土木事務所に直接連絡していただくか、建設課に連絡いただければ、こちらから入善土木事務所に連絡し、除雪を行っていただくよう、働きかけていきたいと考えている。

また、町道に関しても支障があるようなら、区長さんを通じて連絡いただければ対応していきたい。

☆住民

桃李小学校は、もう3年もすると創立30周年を迎える。

[柵山地区]

この道路については、私どもの先輩達も何度となく要望しているわけである。

しかし、未だに全然変わってないのが実情であり、広がらない理由を教えてください。

★町長

今ほどの道路の拡張については、私も2年ほど前、現地を見させていただいた。

広げないということではなく、今、広げるためのチェックもしており、また町外の地権者の方との接触も進めている。

町道や地権者に関係ないところであれば、何とかなると思うが、スムーズに事を運ぼうとするには、それなりの対応が必要になってくるということである。

少なくとも広げないという認識は持っていただきたくなく、我々も精一杯努力しているということを理解いただきたい。

(3) 中央公園と水の小径の安全対策について

☆住民

中央公園では夜間に運動している人も多いが、一部に灯りがなく危険な場所がある。

主にテニスコートの後ろらへんから、野球場あたりがとても暗い。

女性アスリートの方も多く、防犯上の観点からタイマーもしくは感知式のライトを設置していただきたい。

また、水の小径では、レンガの歩道の一部が木の根の影響で、表面が凸凹の状態になっており、つまづくことが多く危険な状態である。

水の小径では、いろいろな年代の方がウォーキング等で利用しており、定期的に歩道のメンテナンスをお願いしたい。

☆住民

前年度にもあげられていた点だが、中央公園の前の交差点について、要望が一つある。

主にそこが交差点だと気づかず、通り過ぎる車が多数みられるという点で、子どもが通ろうとしている時など、特に見えにくいので危ないと感じた。

そこで、前年度に引き続き、横断歩道での信号機の設置、また、それだけでは難しいかと思われるので、警察署の方と連携してパトロールの強化と指導の徹底をお願いしたい。

中央公園は、特に子どもを育てている方や、他の地域の方にとっても足を延ばしていきたいと思う場所であり、駐車場から公園までの交差点で事故のないように、この要望をしたいと思う。



★教育委員会事務局長

中央公園については、令和4年度で年間94,000人以上の非常に多くの方に利用いただいている施設となっている。

また、夜間においても、テニス、野球、ランニング、ウォーキングと、多くの町民の皆さんが運動を楽しんでおられる施設である。

令和3年7月に竣工したわくわくドーム、あるいは令和4年4月に竣工した中央公園リニューアル整備の際において、その周辺の照明設備を追加し、夜間の利用時の各種目別のゾーンに安心して通行できるよう整備をしたところである。

しかしながら、今ほど指摘をいただいた、公園の西側の園路については、日中の利用を想定していることから、夜間の利用のための照明設備は設置されていない。

また、その場所での夜間のウォーキングについては、樹木に囲まれた園路であり、特に今からの季節になると、落ち葉などによって非常に滑りやすく、危険な状況もある。

そのため、夜間のウォーキングを楽しむ方々に対しては、照明設備の整っている陸上競技場の走路を、是非活用いただきたいと思っている。

★総務課長

中央公園北側駐車場前の横断歩道にかかる信号機の設置については、県警本部にある県の公安委員会、入善警察署へ信号機の設置を要望している。

加えて、町としてできることとして、横断歩道の付近にドライバー向けの注意喚起看板を設置した。

また、横断歩道の手前には、横断者に向けた注意喚起の路面標識を設置するなど、公園利用者の安全確保に向けて対応している。

引き続き、交通安全の徹底を促すとともに、信号機の設置者である県に強く要望をしていきたい。

また、歩道での一旦停止については、これまでも入善警察署が随時パトロールを行っている。

中央公園リニューアル以降、わくわくドームなどもできたため、北側駐車場前の横断歩道を通る方が大変多くなった。

横断歩道に係る一旦停止の取り締まりが、頻繁に行われているため、この点では事故のないよう、警察を中心として交通・防犯体制を徹底している。

★住まい・まちづくり課長

水の小径については、平成3年度から平成5年度までの3年間にかけて、せせらぎ水路や散策路を整備したものであり、完成から30年が経過している。

[ 梶山地区 ]

町では、春と秋の年2回、現地をパトロールしており、せせらぎ水路や散策路などの施設の現状や、樹木や草花の生長具合などを確認し、必要に応じて施設の補修や樹木の剪定を実施している。

レンガ歩道は、全長1キロメートルの水の小径の内、公衆トイレから中央公園までの区間、約560メートルの石畳でできた散策路が該当する。

指摘のとおり、沿線にある樹木の根の影響や目地からの雑草などにより、部分的に路面が持ち上がり、歩行者がつまづく恐れがある箇所を町も把握している。

中でも特に危険な2箇所については、本年9月に補修を行ったところである。

水の小径の維持管理については、各地区の公園と併せて、優先度の高い箇所から順次対応している。

町では引き続き、パトロールなどを実施し、多くの方々に安心して利用いただけるような適切な維持管理に努めていきたい。

★町長

信号機の設置については、皆さんが要望されているこの場所だけではなく、町の中にも何ヶ所も要望してほしいという箇所がある。

例年、県警に出向いて、何とかならないかとお願いもしているわけだが、どうも県の予算が県下全体で新設は1基、2基の話である。

ほとんどが今あるものをLED化にするとか、リニューアルをしていくということに主眼が置かれた体制であり、なかなかこの信号機の設置というのは認めてもらえないというのが実態である。

例えば、梶山の国道8号線にある荒又の信号機なんかでも、しっかりとした形のものにしてくれということになると、どっかを外せとか、何かおかしいことになっている。

なかなか信号機の設置は難しいということをまず理解いただきたい。

今、わくわくドームができて体育館の方に横断歩道ができた。

その設置にあたって、水の小径の交差点の歩道を取ってもいいのなら、という条件を出してくるということがあった。

結果とすれば、要望したとおり新たに横断歩道はつけていただいた。

ただ、できた当時、なかなか一旦停止をされないということで、警察の方で捕まった方もたくさんおられると聞いているが、そういったことのないように、安全対策とすれば粘り強く信号機の設置を求めていかなければならないと思っている。

町内外からもたくさんの方々に利用していただいている施設でもあり、来年の春には役場庁舎もあちらの方に移転することになれば、人の流れ、子どもたちの流れも変わってくると思う。

今後もこの信号機の設置については、粘り強く県へ要望していきたい。

## ■ 「ご意見カード」より ～ 梶山地区の皆さんからの意見や提言 ～

- 人口減少は日本全体のことであり、パイのうばい合いの対策では根本的なことは解決されない。  
安心して働ける企業の誘致や生活できる賃金を確保することが重要である。また、定住できる外国人の受け入れをやっていく必要があると思う。
- 旧保育所の活用について、防災対策の関係施設としての活用が望しい。合わせて、特産品等の売店等への活用も施設の有効活用として、効果が大きく期待できるのではないかと。
- 旧梶山保育所の利活用にかかわる制約とは何か知りたい。
- 新保育所に木があれば良いと思う。
- 地域課題の質問の他に、その他の意見を聞いて欲しかった。
- 風力発電を推進してほしい。
- 海岸沿いのサイクリングロードを整備してほしい。
- まだまだ深層水の取り組み、研究が必要である。
- 梶山の祭りを町のイベント等でアピールしてほしい。
- 町のホームページをもっと検索しやすくしてほしい。町からのきめ細かな情報がほしいが、何をどう調べればいいのか、どこから入れればいいのかも分からない。
- 積雪時の除雪の強化、融雪の設置をお願いしたい。
- 梶山の国道を梶山東交差点まで延長をお願いしたい。
- 入善町道の君島梶山寺線の街路樹が道路を浮き上げており危険である。樹木の変更も検討いただきたい。
- 荒又の中心道路の中間部分にあたる宮の横の道路が急曲線であり、樹木や小屋で見通しが30～40メートルと少なく、車がスピードを出してきて事故寸前であった。事故が起きないうちに改善をお願いしたい。

・・・ 8件 (14事項)

### Ⅲ 地区議題

## 8. 横山地区

開催日：令和5年10月18日（水）

会場：横山地区交流防災センター

## 議題Ⅰ「ストップ人口減少について」

### ☆住民

富山県で入善町と同じぐらいの人口の地域で、人口が増えているところがあるのか、急激に減少していないところがあるのか。

もしあるとすれば、入善町とどこが違うのか、そのような調査をしてはどうか。

富山県でも他の県でもいいが、調査をして参考にしてはどうか。

### ★副町長

県内ではよく似た人口規模で言うと、立山町、それと上市町は少し低いが、よく似た人口である。

平成に入ったころは、入善町も滑川市も人口はあまり変わらなかった。

今、立山町の人口減少幅がだいぶ減ってきており、滑川市もなかなか減らない。

なぜかという話になると、やはり富山市のベッドタウンというところが非常に強いというところである。

全国的にも、石川県でも人口が増えているところはベッドタウンばかりであるが、そんなことを言っても入善町が富山市の横にいくというわけにいかない。

先ほどの町長の挨拶でもあったが、入善町の子育て支援を含めた人口減少対策は県内ではトップランナーである。

しかし、そういったものが浸透していないのではというジレンマがある。

そこで、今回、町からこの「ストップ人口減少」というテーマを挙げさせていただいて、是非、皆さんの方からも入善町はいい町だぞということを伝えていってほしい。

町も頑張ってPRをして、どんどん人口減少を食い止めたいと思っており、協力をお願いしたい。

### ★町長

この「ストップ人口減少」を実現するためには、1人でも多くの子どもが生まれるということが基本である。

今、副町長が申し上げたようにベッドタウン化して、隣の町から移り住んでもらうということも方法の一つであるが、いかに子どもが生まれるかが基本になるのではないかと。

そういった点でも、できるだけ入善町の産婦人科医院などを使っていただいて、1人でも多くの子どもがこの入善町に生まれてほしい。

そういう思いで、結婚から出会いの場を創出するといった、取り組みも始めているところである。

地域の皆さんにお願いしたいのは、県外町外に出て行った若い人たちに、帰ってきていただけるような呼びかけをしていただきたい。

その上で、地元で結婚していただき、1人でも多くのお子様生まれるような環境に持っていくということも、大事なことではないかと思っている。

皆さんの周りに若い方々、町外県外に行っておられる方がいれば、是非、帰ってきてほしいということを一言付け加えていただければありがたい。

#### ☆住民

運動公園のリニューアルはすごくいい。

小さい子からお年寄りまで、入善町にあのようなところがあると嬉しい。

#### ☆住民

先ほどから子どもをたくさん生まないと人口が増えないなどいろいろな話があるが、入善町に住んでもらうことを考えると、やはり雇用がないと住んでもらえないと思う。

そういう意味では、企業の誘致にもうちょっと力を入れるべき。

入善町の子育てに関する施策は、富山県内でもびかいちだと思うが、それなのに人口が増えないのは、移り住むにも雇用がない、仕事がないと移り住めないということだと思う。

通うにもやはり距離的なものであるとかいろいろな制約があると思う。

そういう意味では、近くに仕事があって初めて人が住めるのかなと思うので、企業誘致に力をもっと入れた方がいいのではないかな。

#### ★町長

私どももこの企業誘致、要するに働く場の確保ということについて、手をこまねいているわけではなく、先月も黒部市のカルバオンという会社が入善町で工場を作ってくれた。

あるいは、サーモンの陸上養殖やウーケのパックご飯の会社も第4期の拡張工事にかかる予定もあり、シロウマサイエンスも工場拡張を狙って今駐車場の移転を考えている。

そういった点で働く場はある程度あるが、なかなか人材がないということが大きな問題である。

また、私自身も常々思うのは、女性の働く場、特に若い女性の働く場がなかなかないという点で故郷に帰ってきていただけないという話をよく聞いており、今後の企業誘致にあたっては、そういったことも踏まえていろいろな企業にアプローチをしていきたい。

町の中の既存の企業の話聞いていても、なかなか働く人材が確保できないというのが今の状況であるということを理解いただきたい。

町でも人材マッチングフェアという形で企業の皆さんと、仕事を求めておられる方々をマッチングさせる取り組みも年2回ほどやっている。

## 〔横山地区〕

それなりに効果は出ているが、それに見合うほどの人材が町の中で企業の方に向かっていただけないという実情がある。

今後も働く場の確保について一生懸命頑張っていきたい。

先ほども申し上げたが、今入善町で生まれる子どもが年間に80人ぐらいしかいない。

私自身飯野の小学校だが、同級生だけでも145人おり、1級上が160人いた。

今入善町全体でそれだけしか子どもが生まれないということであり、確実に自然減に向かっているということを理解いただきたい。

そのためにも、企業誘致などを通じて町外からも町に移り住んでもらうことも大事であり、今後も一生懸命取り組んでいきたい。

## 議題Ⅱ「横山地区設定のテーマ」

### (1) 副離岸堤の整備について

#### ☆住民

春日地区内を流れている「入川」の河口は、台風や日本海で低気圧が発達するたびに波浪のため、砂利が堆積して水位が上昇する。

通常の水位の倍以上となり、堤防からあふれんばかりの水量となるため、見る者には氾濫の危険を抱かせるものでもある。

水位の上昇は、同時に河口付近にある舟溜まりの水位の上昇にもなるため、同所に流れ込む排水路に水が逆流して田の水が排出できなくなり、稲の成育にも悪影響を与えかねない。

当地区では、このような事態が発生した際は、必要の都度、町に砂利の除去をお願いして対処いただいていたが、根本的な解決にはなっていない。

当地区にとって砂利の堆積は、自然環境や生活環境への危険にほかならず、町における認識が共有されるには、早急な根本的な解決策が待たれるところである。

そのような折、この度、横山地区地先の海上において副離岸堤設置工事が行われ、同工事は今後、東方に向けて進められると聞き及んだ。

当地区「入川」の河口の実情を推察の上、次の副離岸堤工事が優先的に同所が先に行われるよう、県や国交省、国会議員への要望活動に尽力をお願いしたい。

#### ★建設課長

海岸、堤防などの危険箇所の整備については、入善海岸全域のうち、園家地区から古黒部地区までの区間は、国の直轄海岸として、国土交通省が離岸堤や副離岸堤の整備を進めている。

国では、離岸堤や副離岸堤の整備については、高波で越波の恐れのある地区や著しい浸食のある地区の対応のため事業を実施していくこととしており、まずは高波で越波の恐れのある箇所を優先しながら進め、今年度は吉原地区において、離岸堤の改良、八幡地区において、副離岸堤の整備を実施している。

来年度以降についても、吉原地区、八幡地区などにおいて、副離岸堤の整備など、順次、その対策を行っていると同っている。

地区要望の「入川」河口及び「入川」より東側付近については、黒部河川事務所に確認したところ、現状までの整備で、高波や著しい浸食のための対応は整備済みと同っている。

町では、副離岸堤の設置や離岸堤の改良などの海岸保全対策については、毎年、国の黒部河川事務所や北陸地方整備局、本省へ要望しているところであり、今回いただいた地区要望についても、国にしっかりと伝えていきたいと考えている。

今後も引き続き、住民の安全確保のため、副離岸堤の設置や離岸堤の改良などによる海岸保全対策を進めていただくよう、国に対して強く働きかけていきたい。

#### ★町長

ご存知のように「入川」は県が管理する河川であり、当然のことながら河口が、そういう波などで埋まれば、県の方が浚渫なり土砂上げをするということになる。

現状では抜本的な解決になっていないため、もちろん国交省にも要望はするが、県と一緒に要望するような形を取らせていただければと思っている。

#### ☆住民

今月の初旬に寒い時期があり、冬型になった時期があったが、その時かなり海岸が荒れて、大量に土砂、砂利が上がった。

河口の方も舟溜まりの方もかなり水位が上がり、排水路の方にも水が逆流している状態であった。

写真を撮ってきたので、見ていただきたい。

状況を認識していただきたいという思いで写真を撮った。

町から県土木に連絡が行き、県土木の担当の方が10月11日に砂利の撤去をしてくださった。

その際に、私から県の担当の方に、今度この河口の沖合に副離岸堤の計画があると話をしたが、副離岸堤を設けると砂利が堆積し、波が引かなくなり、堆積するばかりで、逆に埋まってしまうのではと懸念していた。

副離岸堤が果たしていいのかどうか、県と国の間に町が入って、その辺りを調整していただけないものか、意見として伺いたい。



[横山地区]

★町長

副離岸堤を設ければ完全に解決するかということについては、国交省の考え方もあるかと思う。

問題は、いかに砂利がたまらないようにするかということだろうと思う。

どういふ方法があるかも踏まえて、解決できるような方法を模索していきたい。

(2) 子どもたちの通学の安全確保について

☆住民

冬季における横山地区内から桃李小学校までの通学方法について、児童の安全を確保するため、他の小学校のように通学バスの運行を要望する。

★教育委員会事務局長

町では、遠距離通学者の安全確保のため、入善中学校の生徒については、特に通学距離が遠距離となる舟見・野中地区の生徒を対象としてスクールバスを通年運行している。

冬季における遠距離通学者の安全確保ということでは、入善西中学校については、飯野小学校及び黒東小学校の生徒を対象として実施をしている。

また、小学校では黒東小学校の児童のうち、通学距離が概ね4キロメートル以上の地区を対象とした運行ルートとしており、11月下旬から3月上旬までの間、運行を行っている。

冬季におけるスクールバスの運行を行っていない学校については、学校統合時の取り決めや、これまでの経緯もあるわけだが、通学距離が概ね4キロメートル以上の児童・生徒を対象として運行を行っているということであり、それぞれの道路の事情、安全面、必要な経費なども十分に考慮しながら、今後、慎重に考えていきたい。

☆住民

その4キロメートルというのはどのように算出されたのか。

例えば小学校1年生で4キロメートル歩くというのは、とても辛いことだと思う。

特に冬の道で4キロメートルを小学校1年生が歩けるか、それは大人の感覚で4キロメートルと出したのか、4キロメートルを1年生が歩いた時間を、同じ距離でなく時間を大人が歩いて確かめる。

例えば、大人の感覚でいえば8～10キロメートルある感覚かもしれない。

その4キロメートルという算出が正しいのかどうか、検証していただければと思う。

★教育委員会事務局長

確かに4キロメートルというのは決して近い距離ではないということは十分認識している。

これについては、入善町だけの基準ということではなく、近隣の市町村、概ね4キロメートルということで判断して運行がなされているということである。

ただ、小学校1年生で大変ではないかという指摘としては、そうなのかなというふうに思う。

検証を望むということであれば、そういったことも含めてもう少し一緒に考えていきたいと思う。

☆住民

今後、町とすれば通学バスを検討していただけるというふうに理解してよいか。

★教育委員会事務局長

様々なことを考慮して、いろいろなことを考えてみたいと思う。

### (3) 町民体育大会の種目の見直しについて

☆住民

住民の高齢化により参加者を集めることが難しく、大会参加が憂慮される。

種目の見直しをして、高齢者向けの種目を考えてほしい。

★教育委員会事務局長

町民体育大会については、今年で55回目となる町を代表するスポーツイベントである。

この大会については、教育委員会や入善町体育協会、地区体育協会が共同で開催している。

球技の部については6月中旬から9月初旬までの間に11種目、陸上の部は10月15日に12種目で行われる予定であったが、あいにくの悪天候で今年度は中止となったところである。

大会をどのような種目で実施するかについては、1月に行う「日程等調整会議」にて、さらに詳細な部分については、球技の部では5月、陸上競技の部では9月に行う「準備委員会」でいずれも決定をしている。

いずれも地区体協長の皆さんが中心となって協議、決定をさせていただいている。

特に陸上競技の部では、各地区体協長の皆さんより、それぞれの地区の状況などを踏まえて、大会実施の有無、実施種目、各種目の年齢要件の緩和など、協議しながら実施要項を決めている。

今後においても、地区体協の皆さんはもとより、多くの町民の皆さんが参加していただけるよう、皆さんとしっかりと協議をしながら適切に運営していきたい。

[横山地区]

★町長

私は町の体協長をしており少し説明させていただくが、地区の体協長の皆さんに集まっていただき、地域の皆さんの意見を聞きながら、種目の内容を考えている。

球技の部では新たにカローリングといった町の競技を入れたり、陸上競技の種目の中でも、年齢層などを少し高齢者向けに上げたりというような配慮もしながら、各地区の体協長の皆さんの意見を聞いて体育大会の内容を決めさせていただいている。

いろいろな意見を横山地区の体協長さんの方からも出していただいて、話し合った結果の内容にしていだければいいのではないかと思う。

くれぐれも、私も町の体協の代表として、こういう形でやってくださいということをお願いしているわけではなく、皆さんで話し合っただけであればいいのではないかと思う。

ただ、町民体育大会であるため、やはり若い人たちにも参加していただけるような内容の中には入れていかなければならないと思っており、理解いただきたい。

#### (4) 防犯カメラの設置について

☆住民

昨今、個人ベースでのドライブレコーダーや防犯カメラの設置が進んでいるが、古黒部地区会や横山防犯組合では、公民館や主要な交差点などへの防犯カメラ設置を検討しているものの、資金面や設置場所の選定問題などでなかなか設置に至っていない。

安全安心なまちづくりのため、町が目標を示し、それに従って地区や団体が検討するようできないか。

また、助成金制度を設けてほしい。

★総務課長

最初に、横山地区の皆さんには、犯罪のない安全・安心なまちづくりのために、防犯啓発活動や青色回転灯を使用した防犯パトロールなど、年間を通じた防犯活動について、地区を挙げて取り組んでいただいております、心から感謝を申し上げます。

おかげさまで、県内における窃盗犯罪などの刑法犯の認知件数は年々少なくなっており、町内においても、10年前の平成25年の場合87件あったものが、令和4年には46件と大幅に減少していることから、皆さんの精力的な防犯活動が犯罪の未然防止、抑止につながっているものと考えている。

しかし、コンビニ強盗の未遂事件をはじめ、児童・生徒などへの不審な声掛け事案、住宅等への侵入窃盗や自転車盗、車上荒らしなどの犯罪は依然として後を絶たないという状況である。

このことから、屋外への防犯カメラ設置について、犯罪の防止策を総合的に実施していく上で有効な手段の一つと考えており、これまでも公共施設や小中学校、道路の交差点などを中心に82台の防犯カメラを町で設置してきたところである。

また、商工会など各種団体などが設置したカメラを含めると、100台の防犯カメラが町内に設置してあることを確認している。

加えて、企業や事業者等が独自に設置しているカメラを含めると、相当数の防犯カメラが町内に設置されているものと考えている。

横山地区においては、横山分団屯所前に1台、サン・ビレッジ入善前に1台、合わせて2台設置しているところである。

防犯カメラの設置場所については、公共施設を除いて、いずれも複数の候補地から現地を確認し、地元の区長さんや学校、警察などと協議を重ねて選定、設置をしたものである。

防犯カメラの設置は、犯罪の抑止効果が高まるほか、警察の捜査や行方不明者の捜索などにおいても高い効果を発揮するものと考えており、一方で、カメラの設置だけで犯罪や不審者の発生を十分に防ぐことはできないと考えている。

犯罪を防ぐ特効薬というものはないわけだが、やはり地道な防犯啓発活動や青色回転灯の防犯パトロール活動などといった地域の皆さんの目による抑止が一番効果的であると考えており、町としては、今後も粘り強く息の長い防犯活動に取り組んでいくことに、引き続き、地域の皆さんの協力をお願いしたい。

このようなことから、町においては、防犯カメラの設置目標台数は掲げておらず、設置に対する助成制度についても現時点においては設けていない。

しかし、県警が町内会への提案型の防犯カメラ貸出事業を始めたことや、地域防犯の多発により、今後、地区内で防犯カメラの設置が必要となる場所も想定できることなどから、現在、防犯カメラ設置の指針や助成制度なども含めて、町の新たな防犯カメラ施策について、様々に調査、検討をしているところである。

なお、防犯カメラの効果的な設置場所や台数については、不審者が姿を現しやすい場所や不特定多数の人が使用する場所など、必要となる場所へ必要となる台数を適切に設置することが有効であると考えている。

一方では、カメラの設置者はプライバシーの侵害、肖像権の保護、個人情報の保護などに十分留意し運用する義務が課せられていることに注意をしなければならないことを理解いただきたい。

このことから、防犯カメラの設置にあたっては、警察と十分に相談、協議するとともに設置地域内で周知を図り、隣接地に住む住民の皆さんとのトラブルがないように十分理解を得た上で、慎重かつ適切に運用することが望ましいと考えている。

## 〔横山地区〕

いずれにしても、町内の犯罪発生状況やこれまでのカメラ設置に係る効果、近隣自治体の状況などを調査、検証し、防犯カメラ設置に係る方針や助成制度など、今後の町の防犯カメラ施策について十分に検討していきたい。

### ☆住民

要望する地区があれば、防犯カメラ設置の助成制度を設けてもらえないか。  
朝日町は10年前からやっており、入善町も考慮願いたい。

### ★総務課長

近隣の自治体の状況も十分調査の上で、検討させていただきたい。

また、警察が提案型で防犯カメラの設置を行っている。

警察がこの箇所に関しては防犯カメラが必要だろうという提案を地区にしたうえで、防犯カメラを設置し、4ヶ月経った後に、その防犯カメラを地区の方で買い取りをするという制度であり、10月からスタートしたと新聞報道でもされている。

警察などとも情報交換をしながら、皆さんとも話をさせていただきたい。

## (5) その他

### ☆住民

入善町への要望事項が3件ある。

1つ目に、洋上風力発電観光客のための公衆トイレの新設をお願いしたい。

洋上風力建設のときに、100名あまりの方が見学者として訪れていた。「長野から来たが、トイレはどこですか」と尋ねられた。

これからも観光客が多く訪れると思うので、公衆トイレの新設をお願いしたい。

2つ目に、桃李小学校から横山公民館までのスクールゾーンの用水路に蓋をしてほしい。

3つ目に、川にゴミを捨てる人が多くおり、広報誌などを利用して川にゴミを捨てないよう啓蒙してほしい。

### ★副町長

洋上風力のトイレの話は、去年のまちづくり懇談会でも提言されていた。

その時の対応策ということになれば、海岸には海岸防災林があり、むやみに切れないということで、土地の一定の制約がある。

また、入善マリンウィンドのトイレについては、平日は開放しているが、土日は閉鎖されており、当面はこちらの公民館か又は体育館のトイレを使っていたらと昨年も話をしたところである。

これから人の流れがどうなっていくのかということと、少し時間がかかるが、今サイクリングロードが西からどんどん来ている。

第1期目は沢スギまで、第2期はそれ以降ということで、そういった人の流れ等々も見極めながら考えさせていただきたい。

次に、スクールゾーンの蓋については、新しくできたアンダーをこえて少し行った交差点までは県道であり、現場を県と一緒に確認をし、必要であればお願いをしたい。

それより下の柵山新から公民館までは町道であり、こちらも現場をしっかりと確認をさせていただきたい。

また、多面的事業でも用水路の蓋掛けが事業費の範囲内で行える。

用水路は町内にたくさんあり、町だけで全部蓋をしていくのはなかなか難しい。

各地区では多面的事業を活用しながら蓋をしている例もあるため、その中で相談をいただければと思う。

次に、ゴミ捨てについては、海岸部を中心にいろいろな啓発看板を設置しているが、各用水に看板ばかり立てるわけにはいかないため、ひどいところには看板を設置しなくてはいけない。

また、町外の方についてはなかなか難しいが、町内の皆さんについては、広報誌等を使って普及啓発活動を行っていききたい。

#### ★町長

昨日ようやく待ちに待ったマリンウィンド合同会社の竣工式があり、多くの横山地区の皆さんにも参加をしていただき、無事スタートすることができて喜んでいる。

今日の新聞等でも私のコメントも書いてあったと思うが、何とか観光資源としてこの風力発電というものを、いろいろな方に見ていただけるような対応をしていきたい。

したがって、当然のことながら土日が多い観光客ということであれば、トイレの話も出てくることは重々理解をしている。

もう一つが、この富山湾の湾岸のナショナルサイクルルートにも指定をされているということもあり、少し前向きに検討させていただくことについては、それなりに検討させていただければと思う。

ただ、トイレということになると管理という問題が出てくるわけであり、そういう話が出てきたときには、皆さんと話をさせていただきたい。

## ■ 「ご意見カード」より ～ 横山地区の皆さんからの意見や提言 ～

- 「ストップ人口減少」の施策について、大変な努力をされていることがよくわかった。なぜ帰ってこないのか、なぜ入善への移住が進まないのかは働き場所の問題だけではなく、魅力的な場所づくりが足りないのではないかと。例えば、じょうべのま遺跡を使ったイベント、沢スギ林や園家山を使った活動などを企画するグループを立ち上げることも大切だと思う。隣の町の宮崎海岸、美術館、埋文館、笹川地区のイベントなど、羨ましいかぎりである。
- 人口減少が重要な課題であるのは理解できた。
- 人口減少に効果的で具体的な対策を示し、説明して実行してほしい。
- 子育て世代+結婚する世代向けのアプローチ（宣伝）が弱いと思う。県内でもトップクラスの子育て支援をしている事は理解しているので、その周知力が弱いのはとてももったいない。お金をかけないで、知恵を出しながら、SNSを利用したアピールに力を入れてほしい。県内に向けてというより日本で移り住むなら入善が選択肢となるぐらいを目標にしないと、現実的に減少を止めるのは難しいと思う。
- 町外から移り住む人向けのサポートとして、数年間の一部交通費サポートがあってもいいかと思う。
- 若い人に住んでもらう為にも、若い人の働く場を確保してほしい。
- 学校給食への助成について、補助金を増やしてほしい。
- 親の送迎負担を減らすためにも、桃李小学校への冬期通学バスを検討してほしい。
- 高齢者としてボランティアポイント事業に期待する。
- 洋上風力発電を多くしてほしい。
- 洋上風力発電が作動したが、横山地区に恩恵はないのか。
- 洋上風力発電の観光としての利用など、具体的な対応を考えているのか。
- 洋上風力発電が完成したので、横山から古黒部までのウォークラリーなどの行事を実施して、横山地区の発展を考えてほしい。イベントを多く実行していただきたい。
- 海岸沿いのサイクリングロードの整備をお願いしたい。
- 道の駅が出来ないか検討してほしい。
- 特産品をアピールしてほしい。
- 入善町には飲食店が少ない。若い人達を呼びこむためにも、飲食店を誘致してほしい。新庁舎にも飲食店を入れてほしい。
- 入善町に耳鼻科、皮膚科がないため、誘致してほしい。

- 空き家の利活用の促進をお願いしたい。
- 古民家の活用にも力を入れたらどうか。
- 古黒部北部の町道未舗装分について、工事の促進をお願いしたい。
- 酪農家の減について、対策をお願いしたい。
- 集団営農を20年、40年等の長期スパンで見た際の限界を直視し、集団営農からの「脱却」or「進化」への協力と支援助成を要望する。
- 「ウチマエくん」を電車利用後の帰宅（入善駅～自宅）によく利用している。電車が駅に到着する時刻にあわせて予約をしているが、大雨、強風、事故等予測不能なトラブルで到着時刻が遅れた場合でも予約キャンセル料が発生するのが納得できない。バスがない横山には、とても良い交通手段なので一考をお願いしたい。

・・・13件（24事項）



### Ⅲ 地区議題

## 9. 舟見地区

開催日：令和5年10月12日（木）

会 場：舟見交流センター

## 議題Ⅰ「ストップ人口減少について」

### ☆住民

町から説明があった「ストップ人口減少」に向けての様々な施策について、町外に対してどのようにPR、発信しているのか。

### ★副町長

例えば、町では「富山県入善町移住リーフレット」という冊子を作り、移住関連イベント等で配布しているほか、ホームページにおいても掲載している。

また、首都圏や関西圏で行われている移住懇談会へ積極的に参加し、移住に興味のある方々と直接やり取りをしながらPRをしている。

その他にも、婚活イベントについては、テレビコマーシャルを流すなど、いろいろな手を使って発信している。

町だけでなく、地区の方、町民の方が自分の縁故者に町のいいところを是非紹介していただきたいという思いもあり、今回このテーマを設定させていただいた。

縁故者において入善町への移住に興味があり、移住リーフレットが欲しいということであれば、どれだけでも提供するので声掛けいただきたい。

### ★町長

発信の場としては、年に一度だが、東京で入善町にゆかりのある方々にお集まりいただいている「ふるさと懇談会」や「東京入善会」「関西入善会」「東海入善会」のほか、入善高校同窓会をベースにした「関西支部総会」「東京支部総会」といった機会がある。

このような場では、必ずこの問題を皆さんに申し上げ、周りに移住を考えている方がいれば、町に連絡をいただきたいとお願いしている。

また、今ほど副町長が申し上げた、チラシ、リーフレットも入善ジャンボ西瓜を発送する際に必ず入れさせていただいている。

少しでも多くの方々に、入善町の取り組みなどを理解していただけるよう、また興味を持っていただけるように取り組んでいるが、ここにおられる皆さんをはじめとする町民の皆さんの積極的な対応というものが、やはり一番効果があるのではないかと考えている。

移住に興味を持っている方がいれば、是非、私どもに一報いただければありがたい。

### ☆住民

舟見や入善全体として、どこまで知っているのか疑問なところもある。

町内においても回覧などでPRをお願いしたい。

### ☆住民

運転免許自主返納高齢者への公共交通利用券交付事業について、返納者の感想はどうか。

自分の周りでも返納した人が少なく、なかなか返納しにくいという意見がある。

★キラキラ商工観光課長

免許の自主返納制度については、65歳以上で免許を返納された方を対象に、公共交通利用券3万円分を3年間連続で交付している。

実際、利用された方の意見等については、この利用券は「ウチマエくん」と「のらんマイ・カー」のほか、町内のタクシー業者においても利用できるということで好評をいただいている。

また、交付は3年連続のため、毎年申請にこられた方からは、病院行くのに使ったなどの話を聞いており、好評いただいていると考えている。

利用の実績としては、令和4年度は150名の方に新規で交付しており、320万円の利用があった。

☆住民

積極的に免許を返納できるよう、この制度をPRしてほしい。

★キラキラ商工観光課長

積極的にPRしていきたい。

## 議題Ⅱ 「舟見地区設定のテーマ」

### (1) 獣害対策について

☆住民

電気柵が4年前に恒久化され、設置や撤去の省力化と耐久性に効果を得ている。

維持管理は舟見地区電気柵実行委員会が中心となり、定期的に巡回を行っており、管理保全に努めている。

課題の1つであった柵を横断している排水路の隙間に、侵入防止のフラップゲートを設置していただき、更なる効果を得ており感謝している。

ただ、鹿、イノシシ、サルの出現は完全になくなったとは言えず、田畑の被害等も確認されており、害獣の種類によっては人身に危害が及ぶことも懸念される。

舟見地区は、入善町内での害獣侵入防止という重要な役割を担う地区であり、これからもできる限りの対策、防止策を進めていかなければならないと認識している。

これらを踏まえた上で、今後の取り組み、地区からの要望については、まずサル対策として、電気柵支柱へのよじ登り防止対策と柵の未設置部分を含む不完全箇所への追加設置を要望する。

山際には群れで、町中では離れサルが出没しており、大きな被害が出ないうちに対策が必要と思う。

続いては、イノシシ、鹿の侵入防止対策であるが、侵入防止グレーチングを試験的に設置し、効果を確認するとともに問題点を抽出し改善する。

〔舟見地区〕

この方策については4年前から要望しているが、検討するにとどまっており、未だに進展がないのが実情である。

どのように取り組まれ、検討されたのかを説明していただきたい。

また、6区の電気柵の端部から舟川河川敷内に降りたイノシシが上流に移動し、途中の田畑を踏み荒らしている。

河川内の移動防止対策として、草木の刈り取り整備と橋付近へのフラップゲートの設置が有効と考えられるが、県管理の河川ゆえに横断構造物が許可されないとのことで実現できていない状況にある。

ワイヤー1本が河川法に抵触するのか事由は分からないが、生命、財産をおびやかす状況を改善できないものか、町当局の取り組みをお願いしたい。

最後に、これらの対策を講じる上で、予算の確保が必要となるが、現在のところ資材費、人件費ともに足りておらず、人件費については地区内での協力によりある程度は賄えるとしても、資材の購入等については厳しい状況である。

まだまだ害獣にとって、抜け道はいっぱいある。

例えば、道路の両サイドに電気柵はあるが、道路には防御がない。

道路に防御があったとしても、先ほど申したように、片側河川であって、そこから侵入されてしまうというところもある。

対策を完璧に実施するには、さらに時間と費用がかかると思うが、今後、専門家も交えた上で、舟見地区と入善町で、中長期的観点と重点指向で何をいつまでにどうするか具体的な協議の場を持っていただけないものか。

★がんばる農政課長

舟見地区の皆さんには日頃より有害鳥獣対策として、舟見山の電気柵の設置、維持管理、また、花火等を使ったサルの追い払い活動などに尽力をいただき大変感謝している。

耐雪型の侵入防止用電気柵については、舟見地区の長年の要望に応えるかたちで、令和元年度、令和2年度の2ヶ年で国の交付金を活用して「入善町野生鳥獣被害対策連絡協議会」にて延長約2.4キロメートルを設置し、地区の皆さんにより維持管理されているところである。

柵を設置以来、不具合があればその都度、可能な限り改善策を講じたところであり、昨年度においては、柵を横断している排水路の隙間に通電したワイヤーを垂らしたフラップゲートを設置し、さらなる侵入防止策を講じたところである。

ちなみに、過去3年間に町が通報を受けた、柵を越えて侵入した事案については、クマは1件もなく、イノシシについては、今年度に目撃情報が1件と痕跡情報が1件、昨年度は目撃情報が1件のみ、令和3年度は目撃情報が2件であった。

また、県が取りまとめた農作物被害については、昨年度はイノシシによる水稻被害が90アールであり、令和3年度においては、サルによる大豆被害が160アール、イノシシによる水稻被害が26アールである。

とは言うものの、今年は県内の山の木の実が不作であり、先日、富山市内でクマによる人身被害が発生したことから、一昨日、ツキノワグマ緊急対策会議が県で開催されたところである。

幸いにも本町では人身事故は発生していないが、引き続き、獣害対策の実施隊によるパトロールをしっかりと行っているところである。

それでは、まずサル対策について、元々この電気柵はイノシシの侵入やクマのよじ登りを防ぐことを目的として設置されたもので、サルに対しても効果を期待していたところであるが、最近では通電されていない電気柵の支柱を伝って侵入するという事案が見受けられている。

このことについて、県の専門家に相談、協議をしてきたところ、支柱に電線を巻き付けた、よじ登り防止用の機材が最近メーカーで発売されていると教わったところであり、これについては費用もさほど高くないとのことから、協議会において設置ができるよう進めていきたいと考えている。

次にイノシシ、鹿等の侵入防止対策としての侵入防止用のグレーチングについては、電気柵が設置されている区間の中で道路による開口部が3箇所あり、その柵と柵の間を動物が侵入するため、その箇所の上に、動物の足が落ちる穴が連なったグレーチングを設置してほしいという要望が町にあったところである。

その内の1箇所である、谷江の堤へ向かう林道羽生・明日線については、現在、道路拡幅工事中であり、この整備に合わせて今年度中に侵入防止用のグレーチングが設置されることになる。

残る2箇所のうち1箇所は舟見城へ続く道、いわゆる町道舟川沿東線の山道の入り口付近であるが、勾配があるため、グレーチングの構造上スリップ事故防止の観点から、危険であり設置できないという専門家の見解を得ているところで、別の方法で検討する必要があると考えている。

残り1箇所、舟川ダムへと続く林道の入り口で、舟川にかかる細越橋付近に設置する要望であるが、こちらについてはグレーチングを設置しても、横を流れる舟川の川べりを伝って侵入するケースが考えられることから、同時に川べりからの侵入対策を行わないと効果的とは言えないため、他の新たな方法を検討すべきと考えている。

また、舟川の中をイノシシが移動することを防止する目的で、川を横断させたゲートにすだれ状の通電したワイヤーを垂らす、いわゆるフラップゲートの設置については、舟川は2

## 〔舟見地区〕

級河川であることから、県が管理を行っているため、設置について県と協議を行っているところである。

しかし、河川を横断する構造物の設置については、洪水時流されるなど安全管理上、どのような手続きを行ったとしても許可できないとの回答であったため、別の有効な方法を模索していきたいと考えている。

また、舟川沿いの草刈りについては、年1回、県の補助を受け、地区の皆さんにより行われているところであるが、近年では、町家や海岸部にクマやイノシシが発生するという事案もあり、専門家によると、川を通じて移動する、発生しているという意見もあることから、獣害防止の観点により、舟川河川敷についても草刈りを行っていただくよう、県としっかり協議していきたい。

次に対策費について、町の有害鳥獣対策については「入善町野生鳥獣被害対策連絡協議会」の中で協議、決定し実施されている。

その協議会は、町と農協からの補助金によって運営されているところである。

今年度における電気柵に係る事業としては、より利便性を向上させるために幅4.5メートルの門扉を民地との間に取り付ける事業などが今後予定されている。

また、この事業の内容によっては国の交付金の活用も考えられるため、必要な資材等があれば、事務局である、がんばる農政課まで相談をお願いしたい。

また、来年度から舟見地区での実施に向けて検討を進められている「中山間地域等直接支払交付金事業」において、獣害対策に必要な資材の購入が可能であるため、その活用についても地域の中で検討していただきたい。

## （２）舟見地区消雪組合の予算確保について

### ☆住民

舟見地区には現在、1区から6区までの間の町道に消雪管が設置してある。

平成8年度に事業を開始したものである。

その収入の主な財源は、関係地区である1区から6区までの戸数に12月から3月までの4ヶ月間、月1,000円ずつ4,000円負担していただいている。

町からの補助金は、おそらく平成は電気代総額の20%の運営補助金、令和に入って電気代の30%を補助していただいていると思う。

問題はその収支であるが、ここ9年見ても、大体20万円前後、20万円台ぐらいの赤字が続いている。

ストックを切り崩しながら何とかやっているが、問題は電気代の高騰である。

これが非常に大きく、近い将来破綻しそうな感じになってきており、かなり切迫してきている。

その原因は、発足当時、1区から6区までの戸数が350軒あり、地区負担金は140万円になる。

その頃の電気代が10.14円/キロワット、総額の電気代が82万3,256円で、多分、町から補助金は出ていたと思うため、結構な予算は確保できていたと思う。

当初、この消雪は地区住民に割り当てて、メンテナンスは自分たちでやっていた。

最初の頃はプラスであったため、2,000円くらいの商品券などを手当していたが、ここ最近はずっと赤字のため、完全に無償ボランティアでやっている。

また、業者でなければできないような修繕作業、水漏れやノズルの交換といったものは、毎年20万円台くらいの金額がかかってくる。

それが、先ほど言った350軒で140万円あった地区負担が、令和4年度258軒で103万2,000円となっている。

電気代は先ほどの10.14円で、今回11.67円でいくらも変わらないように見えるが、実際、電気代というものは使えば多くなる。

それに電気代はキロワット/円だけではなく、基本料金や再生エネルギー単価、燃料費調整単価といったものが毎年変わって、電気代がいくらになるか読めない。

先ほど言った電気代の単価が、令和4年度11.67円だったが、おそらく来年度26円台になるという話である。

昨年の収入が258軒で103万2,000円、町の補助金が多分電気代の30%で50万2,000円入っていて、合わせて153万4,000円である。

電気代は163万4,000円で、10万円前後の赤字である。

ここ10年近くほとんど赤字で、プラスだったのは令和元年度の1年のみである。

おそらく来年は、この電気代の上がり方だと、見当がつかないような差額が出そうだ。

ストックもあるが、そういう金額が続くと、舟見地区消雪組合の原資がなくなり、おそらく、近い将来破綻すると思う。

人口はもちろん減っており高齢化もしている。

負担金を増やすのは結構きつく、これからも減り続けることから、ここを何とか町の方に考慮していただきたい。

電気代の30%ぐらい補助していただいているが、電気代の足りなかった分を補助していただきたい。

ちょっと大胆だが、そういう方法を検討していただきたく思っている。

そうすれば、雪が降らなければ電気代はかからない、電気代が上がらなければ補助金もいらないという形になると思うので、検討していただけないか。

[舟見地区]

★建設課長

消雪施設は、主に堆積場所が確保できていない人家連たん部など、機械除雪が困難な路線において整備されており、町内においては約60キロメートルが消雪区間であり、冬季の道路交通確保において、機械除雪と共に重要な役割を担っている。

この消雪施設については、昭和50年代から順次整備が進められており、整備後30年以上経過する施設も数多くあることから、施設の更新が喫緊の課題となっている。

これら消雪施設の管理については「入善町消雪装置の設置及び管理に関する要綱」に基づき、地元協力金をお願いしているところである。

この地元協力金については、町道の格付けや交通量、公益性などを踏まえ、第1種、第2種、第3種の3つの種別に分類し、種別ごとに町と地元の負担率を設定しているところである。

負担率については、過去5回改正しており、徐々にではあるが、地元負担の軽減を図っているところである。

直近では、令和元年度に幹線道路以外の生活道路である、第3種の電気料負担率を全額負担から80%負担に軽減したところである。

町としては、今後においても、社会情勢の変化を踏まえながら、適宜必要な見直しについて検証を行っていきたいと考えており、理解と協力をお願いしたい。

☆住民

もし、破綻した場合にどういう対策をとるのか、考えを持っているのかお聞きしたい。

★副町長

破綻した場合にどうするかという質問であるが、町とすれば、今のところ想定はしていない。

ちょっと語弊があるかもしれないが、約束事でスタートした制度である。

ただ、世帯数の減などもあり、そのままではどうにもならないということで順次軽減をしてきたところである。

誤解がないように聞いていただきたいが、ちなみに、私の地区の方はだんだん世帯数が減って、現在48か49世帯で消雪組合を維持している。

少しずつ上げてきて、現在1戸当たり6,000円で何とかやっている。

大きな修繕等があれば、参ったするという状況であるが、今のところは何とか持ちこたえている。

これが持ちこたえられなくなれば、私の地区であれば値上げということも検討していかなければならないと話をしている。

それがこの舟見地区にそのままはまるかといえばそうではないが、そのような状況という事



で理解いただければと思う。

☆住民

町長さんにお聞きしたいが、飯野と舟見の雪の量を知っているのか。  
どれだけ降っているのか、そういうことをまずは調査すべき。

★町長

私はつぶさにこの舟見地区の雪の量を精査したことはないが、かつて、何回か通ったところ雪の量の多さに驚いた時期もあった。

ただ、最近の雪の量をみると、去年あたりは里雪の傾向が強かったのではないかと。

一昨年もそうであり、そのときの状況によって大きく違うということもあるのではないかと  
思っている。

私の地域、笹原地区は消雪組合というのは持っておらず、万雑の中で支払っている。

現在42戸の戸数があるわけだが、およそ37～38万円の電気代が毎年かかっている状況である。

ただ幸いなことに、大型の修繕ということになれば、町の補助制度もあるので、昨年そういったものを利用し配電盤の整備などをした。

私どもは万雑の中でやりくりするため、1軒あたりどれだけというようなことはなく、相対的な中でやりくりをしている。

そういった町の中には様々な取り組みで何とか維持をしようという地域があるわけであり、何とか皆さんにもいろいろと検討いただければと思う。

町としても私が町長に就任してから令和元年度に少し見直しをさせていただいた。

実は笹原地区は今からもう40年、50年程前に整備した地域である。

私のおじいちゃん、おばあちゃんの時代に契約をされた内容が支援はしないという契約で、町からの支援は一銭もいただけていなかった。

これが令和元年によく電気代の2割だけいただけるようになった。

そういったところもあるということを理解いただいた上で、舟見地区としても、どういう形で消雪組合を健全に運営していかれるのか検討いただければと思う。

私どもも皆さんからの意見を聞いて、どこまで支援を拡充できるのか検討させていただきたいと思うが、消雪関係は海岸部も含めて入善町全域にあるため、そういったことも踏まえて判断をしていかなければならないと思っている。

皆さんの願いを何とか1つ実現できればという思いも持ちながら、検討させていただければ  
と思う。

☆住民

多分、全地区に当てはまると思うが、直近3年では、一昨年が一番雪が多く、除雪費もかなりかかっていると思う。

## 〔舟見地区〕

昨年度は、それよりも減り、電気代も少し減っている。

ところが、令和4年度、明らかに雪が少なかったが、それでも、一昨年の雪が最近では一番多かった時よりも電気代が高い。

令和2年度、151万6,000円のところが、令和4年度のあれだけ雪が少ないのに163万円かかっている。

今の状況で電気代が上がると、おそらく倍くらいになるのではないかと。

3割、4割負担額を上げて、とてもじゃないけど追いつかない金額になるのは、見え見えである。

電気代の高騰は半端じゃないことから、よく考えていただきたい。

他の地区でも、これはかなり直撃すると思うので、その辺を考慮していただきたい。

### ★副町長

電気代の高騰は、各家庭でも公共施設でも、この消雪でもということ、なかなか困った話である。

消雪の電気料のあり方というのが不思議な料金体系になっているようで、降らなかつたら減るのではないかと思うが、降らなかつたら単価が上がっていく、使えば単価が下がっていく、そういう料金体系になっているようである。

降らなくてもなかなか下がらないのは、そういう仕組みの中だそうである。

この電気料については、一緒に注視していきたいと思う。

## (3) その他

### ☆住民

今、全国的に忠魂碑や慰霊碑は様々な問題を抱えている。

一つは遺族の高齢化により維持管理をどうするのか、忠魂碑そのものが経年劣化により修繕や取り壊しが必要だが、その費用はどうするのか、など様々な問題が出てきている。

維持管理について、除草や草刈りなどを行っているが、これからの若い人たちの手間を省くためにも、忠魂碑の周りを整理したいと思っている。

忠魂碑は元の舟見中学校の跡地、町の敷地の中にあるわけだが、そこに古い木の切り株や残土などがあり、この始末や行き先が分からない。

町当局の知恵なり力を貸していただいて、コンクリートを打つなど整備をして手間のかからないようにしたいと思っている。

それともう一つは、敷地内に忠魂碑をはるかに超すような町指定のクスノキがある。

1991年9月27日から28日にかけての強い台風によって、藤保内神社のケヤキなどの木が倒れ、社殿、隣接する民家を直撃して壊した。

隣に喜楽苑があり、忠魂碑をはるかに超えるクスノキは、そのまま倒れれば喜楽苑に届く長さの木である。

倒れない先に木を切り縮めたり、枝打ちなどの配慮をお願いしたい。

★副町長

忠魂碑については、舟見地区はしっかりと管理をしていただいているが、他の地区では後継者不足や高齢化で、もう世話ができないという声をいくつか聞いているというのが実情である。忠魂碑に公費を支出するということに対して、全国各地で住民訴訟が起こっている。政教分離の関係で、そういう支出をすべきではない、すべきだ、こういう論争も片方である。何とか地元の皆さんで維持管理をお願いできればと思っている。保存木のクスノキについては、担当課でしっかり見させていただく。ただ、保存木であり、無下に伐採というわけにはいかないと思うので、頭を落とすにしても相当の費用がかかることから、もう少し検討させていただきたい。

☆住民

忠魂碑の整備に関しては、町当局の費用はあてにしていない。先ほど私が言ったのは、その廃材処理、残土処理をどこにでも捨てるわけにはいかないことから、その事に対しての知恵と力を貸してほしい。

★副町長

土地については町有地に置いている忠魂碑が多いが、管理は地元でお願いをしている。その廃材についても、規定の大きさに揃えていただいて、ゴミ焼却できるものならば焼却のものとして出していただくか、「エコぽ〜と」に直接運んでいただきたい。できれば地元でやっていただければありがたい。

☆住民

クスノキを伐採していただけるものなら、そのときに、古い切り株を一緒にという思いを持っていた。今の話を聞くと、お金がないからクスノキは絶対切れない、そういうふう聞こえるため、これは弱ったなと思っている。

★町長

クスノキは町の保存木ということもあり、伐採は難しい話である。ただ、先ほども言われたように倒木の危険性も踏まえて考えていけば、やはり安全対策を講じておかなければならない、これは間違いのない話である。大きな木であるため、わずかな金額で剪定作業等も含めたことができるかというとなかなか難しいように思う。今日、初めて聞いた話でもあり、予算の関係もあるため、持ち帰ってどういう作業が必要なのか、地域の皆さんとも相談をさせていただきたい。それまで、今回の廃材を処理せずに、そこへ放置されるのかということも当然出てくると思う。

## 〔舟見地区〕

どの程度のものがあるのか分からないので、一度現場を見させていただき、予算的なものも検討しながら、まずは安全対策をしっかりとしていきたい。

### ☆住民

舟見城址公園内は管理が行き届いており、とても綺麗になっている。

しかし、展望台や舟見城周りは樹木、杉の木の整備がされておらず、自慢の散居村の景観がほんの少ししか見えず、雄大な黒部川扇状地全体を見渡すことができない。

地名や名所を示した観光案内板も設置してあるが、周りが見渡せないのも、あまり意味がないように思える。

近々整備する予定と聞いたが、具体的にいつ頃するのか、どの程度の整備を予定しているのか教えてほしい。

また、舟見山自然の森の害獣侵入防止柵は、支柱が腐って倒れているところや、網が破れている箇所が見受けられる。

観光者の安全確保のためにも、整備をするときに同時に点検整備をお願いしたい。

### ★キラキラ商工観光課長

舟見城址館からの景観について、木の枝が伸びて見えづらくなっているということで、この件については、議会でも指摘があった。

今、地権者の方と話をし、来年度に向けて不要なものを伐採できないか、これから協議をしようとしている。

いつ頃するのかについては、予算等の関係もあるため、まずは、どれだけのものを切るることができるかなどを踏まえた上で、必要な予算を確保していければと思っている。

害獣対策については、周りにフェンスや網等をかけて、中への侵入を防いでいるところがあるが、穴が開いているなどの指摘があったため、早急に対応したい。

### ☆住民

舟見山自然公園に遊具があるが、傷みが激しいように思う。

せつかく道が整備されて、子どもたちが行くようになったときに、怪我などしないように遊具の整備もお願いしたい。

### ★住まい・まちづくり課長

遊具についても、現地を再度確認し、傷んでいるところがあれば早急に直したい。

### ☆住民

中山間地域事業において、生産者にも何か労働に対する費用を中に盛り込んでほしい。

★がんばる農政課長

「中山間地域等直接支払交付金事業」についてどのように利用していくかは、あくまでも地域の中での話し合いで決まることであると認識している。

一部の方のみでの話ではなく、地区の皆さんの合意の上で、地区の中でどのように使っていくか考えていくという趣旨である。

地区の中で話し合ってもらい、皆さんの理解の上で執行していただければと考えている。

☆住民

身内に要支援者がいるが「ウチマエくん」を利用しやすいよう検討していただきたい。

★キラキラ商工観光課長

「ウチマエくん」の予約については、1週間前から乗車の1時間前までの予約が可能となっている。

なかなか午前中電話がつながりにくいと聞いているが、この「ウチマエくん」は、あくまでも乗合いであるため、ご自身で歩ける方、あるいは、介助が必要な方はその介助の方が一緒に乗るという形になる。

その辺を理解いただき利用いただければと思う。

■「ご意見カード」より ～ 舟見地区の皆さんからの意見や提言 ～

- 婚活プロジェクトにおいて、町外の男性の参加も期待したい。優秀な人材を入善町に引っばることができる。
- 保育所、給食費は安くなっているのに、学童保育料が高い。
- 学童保育指導員が高齢化している。地元では成り手がいない。町からの求人などで依頼してほしい。
- 保育所担当看護師を配置とあるが、認識不足なのか、保育所に看護師の方がおられるのかわからない。何年度から各保育所に配置されているのか、常駐されているのか、応急処置道具はきちんと整備されているのか、保育所便りなどでもよいので概要を周知していただきたい。舟見地区は大きい医者まで20分以上かかるので、看護師の方がおられると適切な初期対応していただけるので安心である。
- 中学校を1つにしてはどうか。教員や維持費の削減になるほか、部活の選択や友だちとの関係も広がる。
- 保育所、小中学校の運動会は、日があると熱い。子供達がかawaiiそう。春先に変更を検討できないか。

[舟見地区]

- 高齢者だけでなく除雪支援が必要な家庭もあると思うので、町のボランティアをお願いしやすいよう対策してほしい。
- 福寿会（老人会）の今後の存続と、会員減少（任意加入の為）の対策を講じてほしい。
- ふるさと納税の充実を図り、町の財源を潤わせてはどうか。いろいろなお店とのタイアップ。
- リサイクルマークの無いリチウム電池（中国製互換品など）は、家電店で引き取ってもらえない。再生広場で回収できないか。
- 舟見城跡のイノシシ用ネット、サル侵入防止のためのネットは1 mでは飛び越えるが120cmの高さでは飛び越えない。補強用ポール（150cm）を、あと130本あれば全体補強できるので早急をお願いしたい。
- 足湯の近くにトイレを設置してほしい。イベント、足湯利用者の不便の声を多数聞いている。
- まつり等への町の応援がほしい。
- 旧のこどもの国（公園）の荒廃による木々の伸び放題と、枯木の対策を検討してほしい。
- 5Gの基地局の設置状況を説明してほしい。
- このご意見カードが出来れば、数週間～1ヶ月前に配布してもらえないか。短時間では、なかなかまともに記入出来ない。もう少し余裕をもって記入したい。

・・・10件（16事項）

### Ⅲ 地区議題

# 10. 野中地区

開催日：令和5年11月22日（水）

会 場：野中地区交流センター

## 議題Ⅰ「ストップ人口減少について」

### ☆住民

笹島町長になってから、子育てサポートを一生懸命やっているが、今まで何名ほどのカップルが生まれたのかお聞きしたい。

### ★結婚・子育て応援課長

「それ行け！結婚プロジェクト」では、若者の出会い、結婚に向けたイベントを実施している。

平成27年度から取り組んでおり、昨年度末までに延べ242組がカップルになっている。

その内、成婚にまで至った方は、昨年度末までで15組、今年度に入り、新たに1組が成婚をされている。

また、成婚された夫婦の中から7人のお子さんが生まれているという状況である。

お見合いについては、291件のマッチングがあり、実際、お見合いにまでたどり着いたのは42件という状況である。

いろいろと手をかえ品をかえ、何とか1組でも多くの成婚につながるように、工夫して取り組んでいきたい。

### ☆住民

移住者数、定住者数をお聞きしたい。

### ★住まい・まちづくり課長

全体像はわからないが、平成30年度の実績で移住が16世帯43名、定住で33世帯106名。

令和元年度で移住が22世帯58名、定住で22世帯64名。

令和3年度で移住が6世帯15名、定住で23世帯65名、この辺はコロナの影響があり、若干、数は減っている。

令和4年度で移住が11世帯27名、定住で28世帯84名の方が入善町に住んでいただいている。

平成27年度から令和4年度までの合計では、移住で111世帯287名の方、定住で226世帯662名の方が、入善町に住んでいただいている。

### ★町長

私どもも、例えば東京入善会、関西入善会、東海入善会といった、入善町出身の方々が集う場があるが、そういったところに行くごとに、移住希望者を教えてくれとか、入善町をもっとPRしていただきたいという取り組みも行っている。



また、先ほどの挨拶の中でも申し上げたが、新たなパンフレット、リーフレットなども作りながら、例えばジャンボ西瓜を発送するときに、入善町の支援制度が記載されたパンフレットも入れていただいている。

このように地域の皆さんの協力もいただきながら、何とかこちらへ帰ってきていただきたい、あるいは移住していただきたい、というような取り組みを行っている。

先ほど結婚の話も出たが、特に若い皆さんの中で女性の方々の町の在住者が少ないという大きな問題がある。

婚活パーティーをやっても、町内の女性は本当に少ないという問題もある。

今はあまり入善町在住や男の人が入善といった、男女の区別はしていないが、なかなか女性の参加が少ないという大きな課題がある。

まず、結婚に結びつくための様々なイベントや取り組みに加え、女性の皆さんが働ける職場も誘致をしていきたいということで、いろいろと模索している。

そういったいろいろな環境を整備することで、1人でも多くの方が入善町を選んで、入善町で生活をしていただける、あるいは地元に戻って働いていただける、生活していただける、そういうような取り組みを一生懸命やりたいと思っている。

また、今日お集まりの皆さんにも、自分の友人、知人で移住を考えている方がおられれば、是非私どもに情報をいただき、私どもからアプローチをしていきたい。

皆さんの力を、是非貸していただきながら、まずは結婚に結びつける結婚プロジェクト、そして移住・定住に結びつける取り組みをしていきたい。

## 議題Ⅱ 「野中地区設定のテーマ」

### (1) 空き家問題について

☆住民

野中地区の空き家問題、また鳥獣問題について、特に西中では今5世帯空き家がある。

昨年度は4世帯で1世帯増えている。

また、その内の3世帯は非常に悪い状態となっている。

イタチとかいろんな害獣が住み着いており、その内の1世帯は今年の夏においてサルが十数匹、農作物を荒らしたり、非常に被害が多くなっている。

幸い今のところ、人への被害はないようだが、町にお願いしたら、回覧を回すだけの状態である。

地区の人の健康等考えると、もっといい対策をうっていかないといけない。

空き家問題も含めてお願いしたい。

[野中地区]

★住まい・まちづくり課長

町内では、空き家・空き地の増加に伴い、管理が十分に行われていない物件も増加しており指摘のとおり、鳥獣が住み着く、草木が隣接まで伸びる、隣接道路に屋根雪や破損した建造物が落ちる、などといった状況が発生し、町の大きな課題となっているところである。

この課題に対する町の取り組みの中から、野中地区でいただいた議題について1項目ずつ説明させていただく。

最初の議題、町、地区において空き家の現状把握を促進してはどうかについて説明させていただく。

町では、平成26年度から2ヶ年で実施した「空き家等実態調査」と、平成27年度に実施した「空き家活用意向調査」において、町内にどの程度の空き家や空き地があるのかという実情を把握している。

これらの調査をもとに、新たな苦情や相談などが寄せられる度に件数を更新しており、令和4年度末時点において、町全体の空き家件数は766件、空き地件数は467件となっている。

当地区にて空き家の新規発生を把握した場合は、住まい・まちづくり課まで連絡をいただければ、その都度情報を更新し、地区とも共有していきたいと考えている。

続いて、現状の写真や状況などがわかる空き家名簿を作成してはどうかについて説明させていただく。

各空き家の情報については、既に町において写真、状態なども含めてデータベース化している。

データには空き家所有者の個人情報も含まれており、地区と情報を共有するには、所有者本人の同意が必要になるという点が課題となっている。

次に、空き家の管理者への現状を進言してはどうかについて説明させていただく。

空き家管理者への現状の進言については、住まい・まちづくり課へ連絡いただければ、所有者に対して文書等で適正な維持管理をお願いするとともに、シルバー人材センターなどの管理業者を案内している。

所有者と連絡が取れない空き家については、固定資産税情報などを活用しながら所有者を特定し、同様に対応しているほか、納税通知書を送付する際には、空き家バンクの案内チラシを同封し空き家の適正な管理をお願いしている。

続いて、死亡届などを提出される家族へ今後の処理について進言してはどうかについて説明させていただく。

所有者が亡くなられた場合においては、家族の手続きによって空き家解消を促すため、関係課と調整しながら、役場窓口にて丁寧な説明を行っていきたい。

次に、空き家バンクへの登録の促進と、空き家を壊す場合の補助金制度について説明させていただく。

空き家バンク制度は、空き家や空き地の所有者と、それらを求める利用希望者の情報をそれぞれ登録し、物件情報を町ホームページで公開しながら、双方をマッチングする仕組みである。

制度の利用を促進するため、利用者が居住した段階で、利用者と所有者双方に補助金を交付している。

老朽化した空き家の解体に対しては、解体後の跡地を空き家バンクに登録することを条件として、解体費用に対する助成や、この助成を活用した跡地における住宅用地特例解除後の固定資産税の差額分を解体の翌年から3年間補助などを実施している。

町では、これらの制度を様々な広報媒体を使ってPRしているが、当地区でも該当される方がおられたら、登録を呼びかけていただきたい。

最後に、空き家の草木の伐採に対しての補助金について説明させていただく。

原則として、空き家等の管理責任は所有者にある。

敷地内の雑草や樹木についても同様であるので、管理する費用に関しては所有者が負担すべきものであると考えている。

空き家の草木の伐採に対しての補助金を新設した場合、個人が管理すべきものに対して税金で管理する仕組みとなってしまうことや、「町が作った仕組みで何とかなる」と所有者の管理がおろそかになりかねないことなどの問題が懸念されることから、現時点では、補助金の新設は考えていないが、所有者への案内送付を継続しながら今後も適切に対応していきたい。

今後も、町民の皆さんの生活環境の保全、安全・安心のまちづくりの推進に努めるほか、空き家の適正な管理を周知し、空き家バンク制度を柱として空き家対策に取り組んでいきたい。

#### ☆住民

7、8年前に西中地区の区長をやっている時、空き家が2軒あり、写真で老朽化や木の状況を伝えていたが、その後、改善されていない。

#### ★住まい・まちづくり課長

情報をいただいたものについては、先ほども申したとおり固定資産税の情報などを使いながら、所有者に対して適正な維持管理を文書でお願いしている。

#### ☆住民

県外の場合は、お願いするしかないのか。

#### ★住まい・まちづくり課長

県外の方にも文書等を送付している。

## [野中地区]

それで、シルバー人材センターなどの管理業者を案内している。

### ☆住民

もう崩れかかって、危ない状態である。

### ★住まい・まちづくり課長

先ほども述べたとおり、原則として空き家等の管理責任は所有者にある。

そういった観点からも、本人の方に文書を送付して、町はお願いするしかないということである。

### ★町長

空き家問題は入善町全体だけではなく県下全体、どちらかというとな全国的な問題である。

一番恐ろしいのは、獣が住み着いてしまうとか、雑草の問題であるとか、そのまま進んでいくと今度は崩落、倒壊するというような危険性が出てくる。

空き家バンクに空き家として登録いただければ、その度合いをチェックして、最終的に、本当に危険空き家だと認定されれば、国と県と一緒に取壊しをする制度はある。

ただ、基本的には所有者、個人の所有物であり、ある程度使える可能性があるとか、まだ倒壊の危険性はないという段階では、勝手に手を出すのはなかなかできないということである。

所有者あるいは財産の相続と目される固定資産税を納めていただいている方に対して、案内をさせていただいて、何とかしてくれということは、再三申し上げているが、こちらへ帰ってくる気持ちのない人たちは、なかなか厳しい状態である。

### ☆住民

県外に所有者がいて、例えば、ここで瓦が頭に当たって死人やケガ人が出ても、そんなもん知ったことかと言われたらどうなるのか。

倒壊寸前の空き家もある。

### ★町長

そこら辺は、法的な問題もあると思うが、そうならないように建物の健全度も定期的にチェックをしている。

中には、今年も危険度が最高に達しているということで、取り壊したり、一部補助を出して取り壊していただいたこともある。

そういう支援制度もあるということも踏まえて、空き家の相続人の方としっかりと連絡を取っていききたい。

## (2) 入善町の文化・観光施設「下山芸術の森」の活性化について

### ☆住民

始めに、このクリアファイルをご覧いただきたい。

「下山芸術の森」の写真が印刷されている。

このクリアファイルは、今年の9月、県外に住んでいる私の娘が町のホームページを見て発売を知り、是非欲しいと連絡があり、早速、買って送った。

地元の写真は本当に嬉しい。

皆さんもご存知のように「下山芸術の森」は、河岸段丘の下の旧発電所建物を利用した全国的に知られたユニークな美術館と上の展望塔施設などで構成された入善町の文化・観光施設である。

以前には、NHK番組の「あさいち」でも詳しい紹介があった。

展望塔に登ると、北に新しく出来た入善沖の洋上風力発電所3基や、今建設中の入善庁舎が見え、富山湾、能登半島が望める。

黒部川扇状地を走る北陸新幹線は圧巻です。

南には、舟見城址館や負釣山、朝日岳、白馬岳なども見え、夕日の頃はとても綺麗で、360度の黄金世界が広がる。

展望塔からの見晴らしは、入善町をよく理解していただける施設だと思う。

今年2月、発電所美術館で行われた、バーチャルユーチューバーの企画展では、県外ナンバーの車がたくさん駐車場にあった。

県内外からの見学者となる。

この下と上の施設を結ぶ河岸段丘は、20メートルほどの高さで聞いている。

109段の屋根付きの趣がある階段で、施設はつくられている。

しかし、上りは楽しくも急坂で、歩行に困難と思われる方もきっとおられることと思う。

そこで皆さんがより「下山芸術の森」を楽しんで見学や散策ができるように、次の3点を提案させていただく。

1つ、河岸段丘の下と上の施設の往来が容易になるような、緩やかな遊歩道の設置を提案する。

以前はこの河岸段丘に、ドウゲン坂、ショウギョウ坂などの道があった。

私も娘達が小さい時に、ドウゲン坂の林の小道をわくわくしながら登ったことを思い出す。

思わず上がっていきたくなる、登っていきたくなる林の小道、遊歩道の設置を提案する。

2つ、施設見学時に休息できるようなベンチなどの設置を提案する。

現在、展望塔付近にベンチなどはなく、109段の階段を上がって、一息つきたくても腰掛けるものがない。

夏の早朝、こんなことがあった。

私が展望台付近を散歩していると、横浜から帰省している方と話をする機会があった。

[野中地区]

その方は、数か月間地元へ帰省すると、毎朝のように十数キロを歩き、この河岸段丘の109段の階段をいつも利用するそうである。

こんな素晴らしい風景を座ってしばらく楽しめるようにベンチが置いてあればいいのにと話された。

上と下の公園内にゆっくりと過ごせるようなベンチなどの設置を提案する。

最後に3つ、展望塔の上から見える地形や施設名がわかる案内プレートの設置、そして「下山芸術の森」施設、特に展望塔までの案内看板の改修や整備を提案する。

これら3つの対応などにより「下山芸術の森」の施設がより利用しやすくなり、見学者の増加や満足度の向上に必ずやつながると思われる。

当局の検討をお願いしたい。

★教育委員会事務局長

ハバの上とハバの下をつなぐ階段については、各施設を結ぶ最短ルートになっているが、傾斜が急で距離も長いので、特に小さなお子さんや高齢の方には利用しづらい面があるということも十分理解をしている。

現在のところ、階段を利用できない方については、車での移動をお勧めしている。

緩やかな遊歩道があれば利便性は当然向上していくが、その整備には技術的にも費用的にも問題は少なからず存在するものと考えている。

また、ベンチについては、以前はハバの上とハバの下をつなぐ階段の途中に設置をしていたが、利用者があまり多くなく、劣化したため今は撤去しているという状態で、その後、屋外にはベンチを設置していないのが現状である。

次に、展望塔上から展望がわかる案内板のプレートについては、展望塔の上からは360度のパノラマが鑑賞でき、意見のような眺望地形がわかるプレートなどがあれば、来場者の理解が深まるものと考えられる。

また、道路の案内板については、アトリエ誘導の看板が設置してあるが、少し見えにくくなっている面もある。

このような現状と課題を踏まえながら、利用者の方にとってより利便性のある施設となるよう、ハバの上と下の一体的な利用に必要な整備であるとか、展望塔上の案内プレートの設置、道路案内板などの設置について今後しっかり考えていかなければならないと思っている。

なお、施設のPRについては、町の公式ホームページ、SNS、ポスターの掲示などのほか、今ほど紹介をいただいたクリアファイルというものも新たに作製して、あらゆる手段を講じてその魅力発信に努めている。

さらに、町では、下山芸術の森を観光スポットあるいはデートスポットにしたいという思いからシンボルタワーである展望塔を通年でライトアップもしている。

いずれにしても、さらに利用が増すよう、皆さんからいただいた提案も含めて、活性化に向けた工夫というものをしっかり考えていきたい。

★町長

実は、この発電所美術館は私が企画係にいた時に、当時の財政課長と北陸電力へ出向いて、無償で提供いただいてきた、私にとっては大変思い入れのある施設である。

入善町に観光地はあんまりないと言われるが、海岸線の観光地、沢スギや深層水の施設、新たに出来た風車などを海岸線の観光地として点を線でつないだ誘客を図っていきたい。

山側とすれば、舟見城址館とやはりこの下山芸術の森発電所美術館の連携やエリアが重要な施設になってくると思っている。

そういったことで、様々な取り組みも行っている。

当初、発電機を全部とっばらおうという話もあったが、やはり1基は残すべきだろうということで、3基のうちの1基は残した。

それを使って、あの空間ならではのいろいろな制作活動と展示もしていただいている。

そういった点では、大変貴重な施設だと思っており、展望塔から眺める風景も、他ではなかなか見ることのできない景色であろうと思う。

夜、新幹線で帰ってくると、我々は認識しているからわかるが、ほんのりとライトアップが見えると、あっ帰ってきたなという気がする。

もう一点が、夜、富山から東京へ向かう新幹線を見られた方はおられないか。

私の思いだけだが、銀河鉄道999というような、ちょうど富山側からハバを上がる形に見える。

これも一つの売りになるのではと思ったりもしており、そういった点では、もっと知名度アップさせることで、いろいろな方々においでいただける場所になるのではないかと考えている。

もちろん指摘をいただいたベンチ、あるいはパノラマがわかるような仕掛けといったものも大事だろうと思っており、十分に検討させていただければと思う。

☆住民

十何年前にテレビクルーが撮影に来たが、そのテレビクルーのアナウンサーが駐車場から上を眺めて、えらい汚いところとひどいことを言っていた。

今はいろいろとよくなったが、SNSやポスターなどでPRして、そのアナウンサーを見返してほしい。

★町長

皆さんも野中にある素晴らしい観光名所をPRしていただきたい。

[野中地区]

### (3) 公共交通機関について

☆住民

今江地区は、朝日に行くには朝日宇奈月線の道路がある。

「のらんマイ・カー」は野中線を通っているわけで、嫌なことに野中は、どちらかという  
と西と東に分断している。

東側が入善へ行く手段がほとんどないに等しい。

朝日まで行って、あいの風に乗れば行けるが。

この前、老人の方が車で丸川病院に行っていたが、免許を返納したら、どうやって通うの  
か。

入善町は「ウチマエくん」もあるが、登録が面倒くさく、もっと簡素にできないか。

あるいは、バスをもっと巡回するというのも考えてほしく提案する。

昔、地鉄さんが結構通っていたが、そういうものが、だんだん車社会になってきて、バス  
が減ってきた。

また、人口減少でこの辺は過疎化しており、乗る人も少ないと思う。

学校も統合されたりすることで通学にも支障をきたしたりするため、子ども達はだんだん  
便利な方へ行ってしまう。

そうすると、だんだんいなくなる。

そういう意味では、公共バスを多くして巡回方式で回していただく、あるいは朝日と連携  
するなどできないか。

#### ★キラキラ商工観光課長

現在、町では公共交通として、町営バス「のらんマイ・カー」それからデマンド交通「ウ  
チマエくん」の運行を行っている。

「のらんマイ・カー」については、入善駅から野中地区、舟見地区を結ぶ「舟見線」と、  
入善駅から中沢公民館又は宇奈月市民サービスセンターを結ぶ「新屋線」を定時定路線で運  
行しており、1日に朝夕の新屋線と日中の舟見線の2路線、15便を運行している。

特に朝夕便については、通勤通学の方に多く利用をいただいている。

また、「ウチマエくん」については、登録した方が予約することで、自宅から町内全域に  
68ヶ所ある目的地まで、あるいは目的地から目的地までの移動ができる公共交通となってお  
り、この2つの体制で町内全域の移動をカバーする状況となっている。

先ほど言われた野中地区の東側と西側について、今現在、「のらんマイ・カー」は中沢公  
民館を通るルートになっており、残念ながら今江地区は通っていないという状況である。

「のらんマイ・カー」の路線変更や増便ができないかということについては、以前町内全  
域を対象として、8路線の運行としていたが、利用者が少ないという状況を踏まえて、平成  
27年7月に現在の2路線の運行に変更させていただいた。



「のらんマイ・カー」の路線以外の地域については、「ウチマエくん」を運行させることで野中地区を含める町内全域をカバーしている状況となっており、「のらんマイ・カー」の増便あるいは路線変更は難しいと考えている。

「ウチマエくん」の手続きを簡素化して、利用促進を図ったらどうかという意見だったと思うが、この「ウチマエくん」については、町内全域を網羅する町の公共交通の核となる手段と捉えており、利用促進の対策は大変重要と考えている。

手続きについては、そんなに難しい手続きではなく、利用申込書に利用者の方のお名前等を書いていただいて、キラキラ商工観光課に提出いただければ、それで登録ができるという形になっている。

その周知のために、例えば、家庭にチラシの配布をしたりすることで「ウチマエくん」の利用促進の取り組みを進めていきたいと考えている。

また、「ウチマエくん」をなかなか理解できないとか、ちょっと難しいというふうに思っておられる方がおられれば、敬老会や社会福祉協議会などの依頼を受けて、「ウチマエくん」に関する出前講座も行っており、要望があれば、是非お申し込みいただきたい。

次に、公共交通を充実させることで若者の定着化や地域の活性化につながるのではとの提言については、確かに若者が地域に残るということは、地域の活力あるいは活性化に着実につながるものと思っている。

また、若者の定着を図っていくためには、地域のインフラの充実も重要な要素であると捉えている。

こうしたことを踏まえて、公共交通についてさらに利便性の高いものとしていくための検証を続けており、今後も意見、提案をいただきながら研究していきたい。

#### (4) その他

##### ☆住民

健康寿命に関して、入善町では減塩対策をしているが、入善町の健康寿命は何歳か。

また、減塩対策による効果はどうか、教えていただきたい。

##### ★元気わくわく健康課長

健康寿命については、町の健康寿命は出されておらず、富山県になる。

令和元年時点で、男性は72.71歳、女性は76.18歳になっている。

男性の方は、平均寿命との差は8.84歳で、8年ほど介護が必要な状態になる。

女性の方は、平均寿命との差は11.65歳となっている。

減塩対策を進めているが、効果はどうかについては、なかなかすぐに効果は出ないということで、しばらく長い目で見ていただきたい。

★町長

減塩の効果というのは、すぐに現れる問題ではないわけだが、特に新川地域、中でも入善町は高血圧や、そういう病気の多い地域である。

そこを何とかしたいという思いが、この減塩運動に取り組む大きなきっかけとなった。

ようやく野菜の摂取量の問題やいろいろな健康づくりに対する町民の皆さんの意識も高まってきていると思う。

例えば「隣のみそ汁調査隊」では、200数十名の方に協力をいただき、隣近所への呼びかけや年に数回の活動もしていただいております、徐々に機運的には高まってきている。

そういう取り組みを長く続けていくことで、結果として皆さんが健康で、健康寿命がもっと伸びていくように、あるいはその前段として、子どもからの減塩運動が大事だと言われている。

子どもの味覚が、塩分が濃いものを食べ慣れてしまうと、大人になってもその感覚でいってしまう。

したがって、小さい頃から減塩運動を進めていくことが大事だろうということで、学校でも減塩給食に取り組んでおり、しばらく優しく見守っていただければと思う。

★教育長

減塩運動の他に、今年度は野菜を食べようということで、野菜の摂取量測定器を借りて、スーパーや学校でどれだけ野菜を食べているかを測定させていただいた。

桃李小学校と入善小学校の5年生で野菜の摂取量を測定したわけだが、だいたい500ポイントがMAXだと思うが、200とか150の子がいっぱいいる。

400ぐらいになると、まあまあ摂取したなという感じだが、2週間ほどで頑張っただけで400ぐらいになった子が大変たくさんいた。

小学生が頑張っただけで食べるわけではなく、家族で協力して食べさせていただいたということになると思う。

野菜と減塩ということで、健康寿命を延ばしていきたい、来年度も野菜の摂取量については、学校やスーパー等でやっていけたらと思っている。

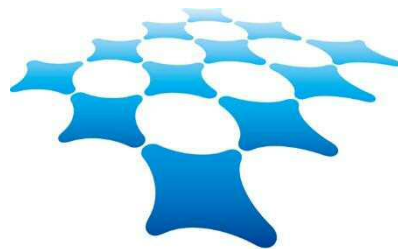
■ 「ご意見カード」より ～ 野中地区の皆さんからの意見や提言 ～

○移住・定住してもらうために、思い切った施策をもって外部からの定住を促進してはどうか。例えば、定住者に対しては土地代や住宅代を格安にして住んでもらう（5年ないし10年間の定住で）。また、子育てにおける無償を拡大することで、子供の人口も増加するのでは。また、各地域の空

き家を活用し、定住者へ提供することで人口減に歯止めがかかるのでは。

- 若い方々が都会に出ていってしまう事が多い。理由としては、いい働き口がない、レジャーが少ない等あると思うが、富山県全体として考える事である。何とか入善町に住んでもらえるようにならないかと思う。
- ひばり野小学校の統合は考えてはいないとあるが、子供達にとってそれがいいとは思わない。少ない生徒数の小学校から、突然生徒数の多い中学校に行った時に孤立する生徒もいるのではないか。あるいは、学校や教室の人数に馴染めず、学校に行きたくなくなる子供も出るのではないかと心配する。統合について考慮する必要があるのではないか。
- 高齢者宅や独居宅等への声かけなど、近隣の方々の見守りが重要である。個人情報等もあり、難しいこともある。
- 健康寿命については、入善町でかなり力を入れて活動しておられ感謝している。
- 文化施設の発信として、たとえばYouTube「富山の遊び場！TV」等を利用して、入善町の魅力を発信すればよいと思う。入善町には素晴らしい自然、人々、施設が沢山あるので“住んでみたい入善”につながればよいと願う。
- 町の特徴を活かした観光スポットのPRをする必要があると思った。
- 下山芸術の森にケーブルカー等の乗り物を設置してほしい。
- 公共施設にEV車対応の充電設備を増やしてほしい。
- 空き家の問題を速やかに解決してもらいたい。
- 県内でクマによる人身被害が多くなっている。町内では被害はないが、いつ起こるか分からない。空き家で柿が実っており、これがクマを引き寄せる原因となっているが、柿の木の伐採の補助をお願いしたい。
- クマに遭遇した時の対処の仕方を教えてほしい。命を守る為にとる行動を教えてほしい。
- 下今江の道路に面した家だが、川の鉄の蓋が重く、持ち上げられず除雪ができない。蓋を川に落としたり、自分も落ちかけた。危険なのでグレーチングに変えてほしい。
- 地区の課題について、丁寧な説明があり有意義な懇談会であった。
- 「住民と対話」するのであれば、教室スタイルは意見を聞くのに向いていないと思う。
- まちづくり懇談会に参加して最後に思う事は、こんな不便な田舎ではあるが、少しでも住みやすい所であるようにと祈る。

・・・11件 (16事項)



**入善町**  
NYUZEN MACHI

**扇状地に夢と笑顔があふれるまち入善**

～ 子どもたちの未来のために ～

まちづくり懇談会の記録誌は、入善町ホームページ上にも掲載されています。

【URL】<https://www.town.nyuzen.toyama.jp/>